１９９５年２月［編集］前田米美　〒640 和歌山市小松原 6-1-6(Tel.0734-22-8660)

WAKAYAMA Januaro, Februaro 1995

VERDA MONTETO

Redaktita ĉe MAEDA Yonemi (dumonata) N-ro 84

"Ｌｉｄｊａ"（ザメンホフの末娘） Heinz Dieter Maas, Germanio
ＴＥＪＯ の機関誌 Ｋｏｎｔａｋｔｏ を読む No. 2

FUKUMOTO Hirotsugu

前回に引き続いてＴＥＪＯの機関誌『コンタクト』のザメンホフの末娘リディアについての記事を一緒に読んでいきます。

<<< Ｌｉｄｊａ >>>

Heinz Dieter Maas, Germanio

No.2

Ludoviko kaj lia edzino Klara vizitis ĉiun Universalan Kongreson kune, sed Lidja havis nenian emon lerni Esperanton. En 1909, kiam oni festis la 50-an naskiĝtagon de Zamenhof, multaj esperantistoj kunvenis kaj faris gratulajn paroladojn. Lidja, siatempe kvinjara knabineto, post ioma aŭskultado enĵetis: "Pri kio tiuj homoj parol-

（単語の解説）

edz-in-o 妻、 viziti 訪れる、 kun-e 一緒に、 nenia どの様な～もない、 em-o 傾向、～しようとする気持ち、festi 祝う、naskiĝ-tago 誕生日、kun-ven-i 集合する、gratul-i 喜びを言う、～の祝いを述べる、parol-ad-o 演説、談話、sia-temp-e その当時に、 knab-in-et-o 小さな女の子、post iom-a aŭskult-ad-o 少し聞いていた後で、 en-ĵet-i 投げ入れる、ここでは言葉を投げかけたのぐらいの意味、 parol-aĉ-i ここに -aĉ- が付いているのは、リディアにとって何やら分からない言葉で話

aĉas? Mi komprenas eĉ ne unu vorton!" kaj proteste forlasis la feston. Oni havas fotojn de Lidja el tiu tempo, kiuj montras tre seriozan personeton kun vizaĝo esprimanta kvazaŭ sekretan, kaŝitan doloron. Ankaŭ kiel virino ŝi havis tiun seriozan mienon.

していることからの表現であろう。 eĉ ne ～さえ～ない、proteste 反抗して、抗議して、 for-lasi 立ち去る、見捨てる、放ったらかしにして行ってしまう、 montri 指す、表す、serioza 真面目な、謹厳な、person-et-o 小さい人物、人格、 vizaĝo 顔、esprimi 表現する、（表情など）を示す、 kvazaŭ まるで～のような、 sekreta 秘密の、kaŝ-it-a 隠された、秘められた、doloro 痛み、苦しみ、苦痛、ankaŭ ～もまた、も、kiel ～のように、～として、どのように、vir-in-o 女、mieno 顔つき、顔（の表情）、

＝＝

［試訳］ルドビコ（ザメンホフ博士のこと）と彼の妻クララは世界大会にいつも一緒に出かけていたが、リディアはエスペラントを学ぼうという気が全くなかった。１９０９年に、ザメンホフの５０歳の誕生日を祝ったとき、多くのエスペランチストが集まり、お祝いのあいさつをした。当時５歳の少女だったリディアは、ちょっと聞いた後で、『何を変なこと言っているの。私にはちっとも分からないわ。』と言って、祝いの席を飛び出してしまった。そのころの彼女の写真が残っているが、秘密の隠された苦しみを表している顔つきをした、とてもきまじめな性格を示している。また女性らしい、まじめな顔つきをしている。

＝＝

Ĉar la Universala Kongreso de 1913 okazos en Svislando, kie ŝiaj gefratoj vivas, oni atendis, ke la naŭjara Lidja kune kun la gepatroj vojaĝos tien. Grandega problemo tamen estis, ke Lidja obstine ne volis lerni Esperanton

okazos 開催されようとしていた、 kie ここでは関係副詞で前のSvislando を受けている、atendi（単に）待つ、（良いこと）を期待する、（悪いこと）を待ち受ける、naŭjara ９歳の、kune kun ～ と一緒に、problemo estis, ke 問題は ke 以下のことであった、 obstine 頑固に、komprenis

kaj komprenis nur kelkajn vortojn. Tiam la patrino klarigis al ŝi, ke ŝi devos resti hejme, se ŝi ne lernos la lingvon, kaj tio finfine efikis. En ses semajnoj Lidja lernis tiom, ke ŝi povis interkomunikiĝi en Esperanto.

nur kelkajn vortojn 単に数語を理解した→たった数語しか理解できなかった、tiam そのとき、そこで、klar-ig-i 明らかにする、説明する、はっきりさせる、resti hejme 家に留まる、se ne もし～しないならば、finfine やっと、ようやく、結局、ついに、efiki 効果をもたらす、効き目がある、en ses semajnoj 6週間で、 tiom, ke ～ それほど～したので、ke以下のようになる、ke 以下であるほど、それほど～した、inter-komunik-iĝ-i 理解し合える、コミュニケーションできる、お互いに話ができる、

＝＝

［試訳］１９１３年の世界大会が、彼女の兄姉の住んでいるスイスで行われることになっていたので、９歳のリディアも両親と一緒にそこへ旅行するものと期待されていた。大きな問題はリディアが頑固にエスペラントを学ぼうとせず、たったいくつかの単語しか理解出来なかったことであった。そこで母は、もしも彼女が言葉を学ばないなら、家に残らなくてはならないのだよと、リディアに言い含めた。ようやくこれが功を奏した。リディアは６週間の間勉強したので、エスペラントで話をして、理解できるほどになった。

＝＝

Jam en tiu tempo multaj bahaanoj estis ankaŭ esperantistoj. Ĝis hodiaŭ estas konataj al bahaanoj la nomoj de Agnes Alexander, kiu vivis longan tempon en Japanujo, John Esslemont, kiu verkis fundamentan libron pri la Bahaa Kredo, Bahá'u'lláh kaj la nova

en tiu tempo 当時、jam 既に、koni ～を知っている、 estas konata al -- ～に知られている、longan tempon 長い間、verki 著述する、 fundamenta libro 基本的な書物、Bahá'u'lláh kaj la nova epoko ババウラと新しい時代（本の題名）、far-iĝ-i ～になる、intima 親しい、 aperi 出現する、出る、現れる、unuaj artikoloj 最初

epoko, Martha Root, kiu fariĝis intima amikino de Lidja. Tiam aperis la unuaj artikoloj pri la bahaa religio en Esperanto, tiel ke d-ro Zamenhof estis bone informita pri ĝi.

のいくつかの記事、bahaa religio バハイ教、バハイ教は１８４４年に興ったペルシャのバービ教義 Babismo（万有神教的で高い道徳と、両性の平等を唱える）の一派で、１８６３年 Mirza Husayn Ali を教主として成立した宗教。

＝＝

［試訳］当時すでに、多くのバハイ教徒がエスペランチストにもなっていました。バハイ教徒の間で今日まで知られている名前は、日本に永く住んでいたアグネス・アレクサンダー、バハイ教についての基本的な書物である「バハウラと新しい時代」を書いたジョン・エスルモント、リディアの親しい友達となったマルサ・ルートです。その当時、バハイ教についてのエスペラントで書かれた最初のいくつかの記事が出たので、ザメンホフはバハイ教についてよく知っていた。

＝＝

La sano de d-ro Zamenhof neniam estis stabila, li suferis pro kormalsano kaj mortis en la Unua Mondmilito, la 14-an de aprilo 1917, kiam Lidja estis nur 13-jara. Tiutempe ŝi perfekte regis Esperanton kaj faris unuajn provojn traduki el la pola lingvo en la internacian. Ŝia kuzo Stephen raportis, ke ŝi ĉiam estis okupita pri tradukado kaj estis konvinkita, ke ŝi devos daŭrigi la laboron de la tro frue mortinta patro.

sano 健康、neniam 決して～でない、いつも～でない、stabila 安定した、 suferi pro ～で苦しむ、 kor-mal-sano 心臓の病気、morti 死ぬ、 La Unua Mondmilito 第一次世界大戦、perfekte 完全に、regi 支配する、regi Esperanton エスペラントを完全にものにしていた、unuaj provoj 最初のいくつかの試み、 traduki 翻訳する、el 出所、en + --n 行き先、kuzo いとこ、raporti 報告する、estas okupita 忙しい、traduk-ad-o 翻訳、konvinki 確信させる、estas konvinkita 確信する、 daŭr-ig-i 続ける、tro あまりに、 mortinta 死んだ

＝＝

［試訳］ザメンホフの健康状態は、いつも不安定であった。彼は心臓病を患っていて、第一次世界大戦中、１９１７年4月１４日に亡くなった。その時リディアはまだ１３歳だった。当時彼女は完全にエスペラントをマスターしていて、ポーランド語からエスペラントへの翻訳をいくつか試みかけていた。彼女のいとこのステファンは、彼女はいつも翻訳に忙しく、あまりに早く亡くなった父の仕事を続けなければならないと確信していた、と伝えている。

＝＝

［本の紹介］リディア（エスペラントの娘　リディア・ザメンホフの生涯）ウェンディー・ヘラー著、水野義明訳、　近代文藝社、４８８頁、１４００円、

ＪＥＩ（日本エスペラント学会）の機関誌「エスペラント」の１９９５年1月号１７頁の『わたしの出した１冊の本』に訳者本人によるこの本の紹介が出ている。これによると、バハイ教のことを、「前世紀の中ごろ、イランに起こった宗教で、全人類の平和と統一を究極の目的とし、もろもろの宗教の対立を克服するという趣旨である。」とし、「エスペラントの『内在思想』－－ホマラニスモに共通するところも多い」と説明している。

また、「リディアはひとことで言えば『頑固一徹な』女性だ。いったん決心したら、なにがなんでもやりとげようとする。訳書の帯に要約しているように、『父の事業を受け継ぎ、諸民族の友好と調和の事業に身を捧げ、戦火の迫るヨーロッパにあって戦争の廃絶と女性の自立を訴え、ついにナチの強制収容所の露と消えた』。短くも感動的な一生だ。」とある。

（バベルの塔）　①　La germana konkeras Eŭropon.　ドイツ語がヨーロッパを席巻。

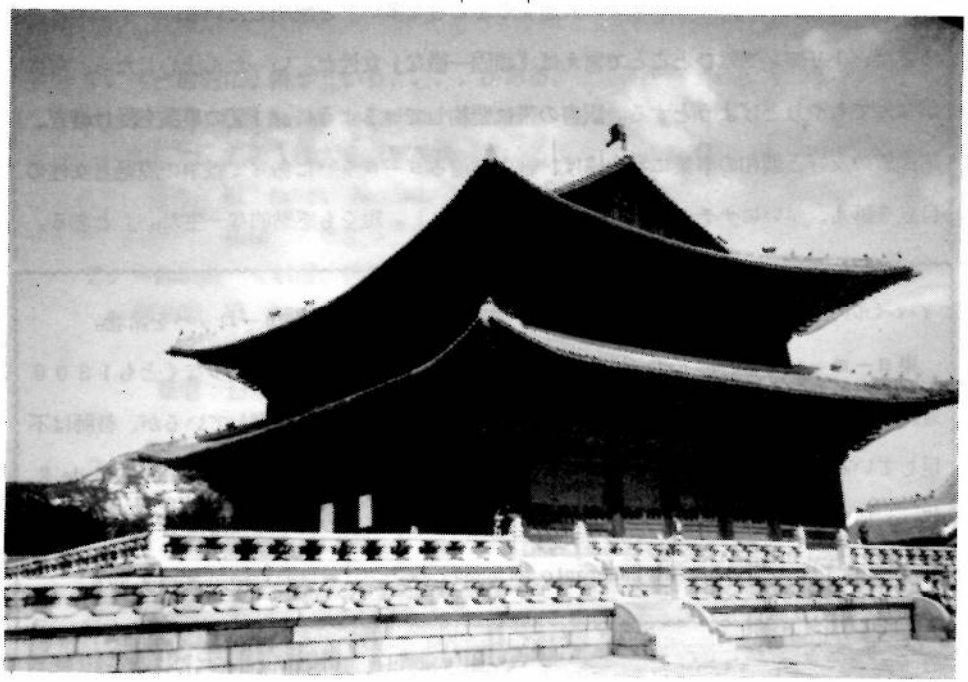
東ヨーロッパを中心にドイツ語を学習する人が爆発的に伸びていて、少なくとも１３００万人に達している。主に経済的に役に立つことで、勉強する人が殺到しているが、教師は不足しているし、ゲーテやトーマス・マンの１行すら読めるわけではない。（ Heroldo de E. (N-ro 15) 1994.nov.16 より）　金にならないエスペラントの将来は如何に？　Ŝajnas al mi ke iom pli malfavore al Esperanto en nunaj eks-socialismaj landoj. Ĉu ne?

##
##　　ソウルの街角で　　Ｎｏ．２　##
##

続きを書くにあたって市民図書館で簡単な朝鮮の歴史を借りてきたところ、この公園は「パゴダ公園」となっている。パゴダがあることから、通称としてこう呼ばれているのかもしれない。韓国では歴史的事件をその月日の数字を使って呼ぶことが多くて、この運動は３・１独立運動となっている。

この独立闘争の時、日本人警官が撲殺されたことに対する報復で、日本軍が婦女子を含む多数の村民を教会に閉じこめ焼き殺すということをはじめ、銃剣による厳しい弾圧をして、独立運動を鎮圧した。この公園には独立闘争の記念レリーフがあるとのことだが、そのときは知らなくて見られかった

地図を見ると景福宮の方向に、曹渓寺（チョゲサ）という仏教寺院があった。韓国ではまだ寺を一度も見ていなかったので、方角を定めて歩き始めた。案内書によるとここは韓国仏教曹渓宗の総本山だそうですが境内はせまく建物も多くなかった。本殿では数人の女性信者が熱心にお祈りをしていた。五体倒置ほどではないが、膝を折って頭を床に付ける



様にして何度も何度も祈っている。本を読むと、韓国ではキリスト教が盛んで、ソウルにも大きな教会や聖堂が幾つもあるとのことです。今改まって地図を見てみると、キリスト神学大学とかカトリック大学、監理教神学大学など宗教系の大学も多く見つかりました。

韓国では教会に通う人も多く、仏教にせよキリスト教にせよ熱心な信者が多いようである。上海でホテルの近くの寺に入ったとき、同じように膝をついて頭を付けて何度もお祈りしている人が何人もいたのに驚いたことを思い出した。そしてそのとき、若い母親と子供も同じようにしているのを見て、共産主義中国でも信仰心をなくすことはできないのだと思った。中国では荒れていた寺院を修復しているが、僧侶が少ないので、即席の公務員僧侶もいるとのこと、何にしても観光政策としては成功かもしれない。

寺から世宗路（景福宮の前の大通り、市役所の方へ通じている）へ抜ける途中に機動隊が立っているので、地図を見るとアメリカ大使館であった。世宗路を渡り世宗文化会館に行き、喫茶に入ってコーヒーを飲む。メニューは、コーヒー、紅茶、ジュース、コーラであった。世宗文化会館に行くが、入り口に誰もいない。勝手に入って大ホールを覗いてみたが何もやっていなかった。

世宗路には大きな李舜臣将軍の銅像が立っている。この人物は秀吉の朝鮮侵略（日本では朝鮮征伐と呼ばれ、朝鮮では壬辰倭乱［イムジンウエラン］と言う）の時に、水軍を率いて、亀甲（きっこう）船という戦船でもって日本の水軍を破り、制海権を確保して日本の補給線を押さえた。この後日本軍は占領地を維持できず、次第に劣勢になり南部沿岸地方へ撤退した。１５万人もの軍を派遣し、朝鮮全土を荒廃させたこの戦争は７年後に秀吉が死亡したことで終了した。

この時、朝鮮の多くの人々が日本に連れてこられた。この中に、朱子学の学者や、多くの陶工が含まれていた。この人たちを始祖として磁器の技術が伝えられ、日本の陶器が発展してきた。しかし、朝鮮では技術を伝える陶工がほとんど残っていなかったと言われている。

また世宗（セジョン）は李氏朝鮮の王で、ハングルを創生したことで有名である。私は朝鮮が漢字文化圏にあったので、ハングルのような表音文字が生まれたのではないかと思う。なぜならその他の表音文字は横又は縦に順番に並べていく方法で単語、文章を作っていくが、ハングルでは上下左右に組み合わせ

て、一つの音節を漢字のようなかたまりにまとめ、それをつなげていくという独特の仕組みを創造しているからである。

日本と同様、学問、行政の中では漢字が中心となっていたので、日本の「かな」と同様に「ハングル」は最初は知識人の文字でなかったが、今ではハングル優先で、新聞や街頭看板でも漢字が少ない。この点ではむしろ残念に思うのは、勝手な思いかもしれない。漢字で書かれていれば、私達日本人にとって多くの言葉がすぐ理解できる。しかし韓国、北朝鮮にとって漢字を制限することが自国の文化を守るために必要であるのだろう。

鐘路の通り（この下を地下鉄１号線が通っている）を戻り、地下鉄の駅「鐘閣」のある大きな交差点の所に来る。機動隊のバスが止まっており、警官がたくさんいるのでどうしたのか思っていると、交差点のそばの小さな広場で集会が開かれていた。何かの抗議集会であるが、落ちているビラを拾って読んではみても、韓国語で分からなかった。参加者は５０名そこそこであり、アジ演説をしているが、さほど緊張感はなかった。

（続く）

（福本博次）

日本語とエスペラントのはざまで

－（４）－

前田　米美

［　私には主人がいますと妻寝言　］（毎日新聞万能川柳）

近頃の妻は翔んでいるそうで。「オノオノガタ、ゴユダンメサルナ。」こんな日本語もあるといったら、外国の日本語愛好者は目を白黒させることでしょう。

さて、「私には主人がいます。」は、エスペラントではどう訳しますか。

Por mi edzo estas. 逐語訳。私のために主人がある。そして、２人のために、世界はある。（古いですね）

Edzo estas ĉe mia domo. たしかに主人は家で留守番。

でも、そういうことも含めて、普通のエスペラント訳は

Mi havas edzon. だそうです。

havas ... ？　一瞬へんな連想をする人もいます。おしゃか様のように、手のひらにのせて「持ってる」の？　それとも主人の　．．．？

今回は、この havas でクダを巻いてみようと思います。（全然飲めないくせに）

むかし、（と言ってももう２０年ほど前）、日本でできたすばらしいエスペラント入門テキスト『 La Teksto Unua 』を、フランス人に送ってあげたら、その中の、Mia patro havas 53 jarojn.に目をつけて、手紙で、「日本人は年令に havasを使う言い方はしないのではないか。 estas 53 jara でいいのでは」と書いてきました。そういえば、私は、彼への手紙の中では、年令を言うのにいつも estas を使っていました。

Havas はふつう「持っている」と訳して、単語帳にもそう書いて、暗記して、安心していました。何才です は 「です」だから、 estas だろうと。

La Teksto Unua の「紙上講習会」という別冊説明書を見ると、

［ 「ｘｘ才だ」というのを、「ｘｘ才を持っている」 A havas xx jarojn と表現します。また、A estas xx jara.とも いいます。］と説明しています。

LUK（ La Unua Kursolibro）の別冊「講師用手引」では、

［（1 行目）．．．havas 55 jarojn. ： 「～才です」という表現は、また、（ teksto）12 行目 ．．．estas 23 jara とも言え、ここでは両方出しておきました。］（ Leciono 10 ）

英語を少しやった方なら、have が文の中によく出てきて、時にはそのあとに、P.P.(過去分詞）などが、くっついてきたりするのはご存知。これには今でも私は頭が痛くなります。それほど、have は欧米語では、いろんなイミを持たせて、習慣化して、それがエスペラントにも入ってきているので、全くうるさいのです。

しかし中には、冒頭の例文 「私には主人がいます。」 Mi havas edzon を、別の日本語の表現で、「私は 亭主持ちです。」というのがあるのを見付けて、「はざま」居士の目が光り、 havas と「持つ」のいろんなイミの中に、重なる部分があるらしいということで、クダを巻いてみる気になったのです。

「私は 3人の子持ちデス。」 Mi havas 3 gefilojn.

（日本語の）	亭主が	（エスペラントの）
持つ	いる	havas

そこで、「エスペラント小辞典」の havi をひいて、しらべてみました。

日本語の「持つ」と重なるものに ◎印

そうでないものに ×印

微妙なものに △印 をつけてみました。

1．（一般的に）持っている，．．．がある。

例文① Li havas grandan domon.

あの人は大きな家を持っている。 ◎

Mi havas hundon.

私は 犬をかっている。 ×

2．＝posedi （財産、持物、権利など）所持・所有する。

例文② Vi havas rajton je libero.

あなたには自由の権利がある。 △

筆者：日本語では、財産などは「持っている」と言うことも多い。

持物、権利などにも言える。 ○

3．=porti （身辺に）持ちあわす、たずさえる、持参する。

例文③ Ĉu vi havas krajonon?

鉛筆を（いま、ここに）持っているか？ ◎

4．（感情、意図などを）いだいている。

例文④ Ŝi havis teruran malamon kontraŭ li.

彼女は彼に 恐ろしい憎しみを いだいていた。△

筆者：Mi havas malfidon kontraŭ(al) li.

私は彼に 不信感をもっている。 ◎

5．［ sur ］ 身につけている、着て・かぶって・はいている。

(= esti vestita per)

例文⑤ Li havas ĉapelon sur si ・ sur la kapo.

かれは帽子をかぶっている。 ×

日本語で「着る」を考えると、まず頭に浮かぶエスペラントは、 vesti，ところがこれは他動詞「着せる」ですから、 estas vestita ... あと、どんな前置詞を使うのですか？ そう、per と憶えておかなくては ．．．

「かぶる」はどうしよう。 surmeti? ... そして前置詞は sur? 「靴をはく」は surmeti でなく submeti? ちがうかな。というのが初心者の悩み。

そうなると、いわゆる「着用」は、 havas ～ n sur を あたまから 憶えておく方が 便利で気楽かも知れません。

日本語からすれば、この havas は変な単語ですが、エスペラントには、日本語のように、「かぶる」「はく」「（手袋を）はめる」「（めがねを）かける」などという多彩な表現がないようなので、ひとつの havas で、まとめて憶えておくのが、便利なようです。

但し、エスペラントでしゃべる場合、日本語を先に頭に浮かべたりすると、havas がなかなか出てこない。エスペラントに没入して、エスペラントで物を考える境地に入らないと、havas が出てこないでしょう。

エスペラント文化（「ことば」は文化の重要要素）を理解体得していくには、このくらいの許容包容力も必要でしょう。

そんな気持ちで、「エスペラント小辞典」の havi の項の、２１コ！の訳をゆっくり眺めて、日本語との重なりを考えていくと、少しは楽しくなります。

LUK(La Unua Kursolibro) の誌上講座、１８課の解説（ p.40 ）では、havas の用例をテキストの中から、うまくまとめられています。

［．．．．この havas は実に幅広く活用されます。今までにやっただけでも．．．Mi havas demandon.質問があります。 Mi havas du gefratojn. きょうだいは２人。 Ni havis kongreson. 大会を開いた。 Ĝi havis 2300 kongresanojn. 2300人の参加者があった。 Li havas 26 jarojn. 26才だ。 Kiun daton ni havas hodiaŭ？きょうは何日ですか。 Ŝi havas belajn okulojn. 目がきれいなんだ。］

さてこんどは逆に、「日本語エスペラント辞典」で「持つ」を索いてみました。日本語の「持つ」にも、ずいぶんいろんな意味を、たくさん（勝手に？）持たせているのがわかりました。

「会費は各自持ち」負担　　ŝarĝi sin　×

「３年生を受け持つ」担任、持ち場　deĵori　○

havi respondecon pri ～

「持ちつ持たれつ」（何を持つのだろう）　×

helpi unu la alian

［この仕事は彼に持ってこいだ」適任　konvena,taŭga,lia sperta ĵo　×

「持って回った言い方」えん曲、遠回し　nerekta parolmaniero　×

aludo, sugesto,

delikata parolturno

「持ちこたえる」「十年は持つ」　rezisti, elteni　×

久しきに耐える　病人など病に耐える

「持てる」　好評　esti favorata　×

amata, ŝatata

広辞苑などの日本語の古い辞典で、「持つ」のあたりを眺めていたら、面白いものが目にとまりました。

「そこへ持ってきて」　更に、その上に　krome, plue　×

新しい日本語辞典（例えば「現代国語例解辞典」）には、

「会合を持つ」というのもありました。 havas と重なります。　○

古い辞典には見当たりません。

これ、ひょっとしたら、欧米語からの輸入でしょうか。

たのしい「辞書遊び」、年金生活者のヒマツブシ？　ご精読、多謝。

==========

「まちがいを気にせず、思いきって」

（エスペラントおじさんと子どもの交流）

ＵＥＡ（万国エスペラント協会）には、子どもや初心者のエスペラント学習を助けようという組織がいくつかあります。

① Infanoj Ĉirkaŭ la Mondo　　アメリカ・サンディエゴ

② Geonkloj esperantistaj　　イギリス

③ Kastora Klubo de Esperanto　　ポーランド

子どもたちや初心の人達のエスペラント文通では、経験不足のためお互いによく理解し合うことができないまま、立ち消えになってしまうことが多いのです。それを、

少し経験のある大人が助けてあげようというクラブです。

②の Geonkloj esperantistaj については、以前本誌でも紹介したことがあったと思いますが、これは、１６才までの子どもたちと、世界の「おじさん、おばさんたち」とを結ぶクラブで、奥村林蔵先生も加盟しておられます。以下は、奥村先生が投稿してくださったものですが、ポーランドの１４才の少女に宛てた手紙の一例です。

簡潔なエスペラント文で、やさしくはげましておられて、私たちにも参考になると思います。

Kara Fraŭlino Agnieszka,

Via letero kaj bildkarto tre plaĉas al mi. Koran dankon.

Mi ne povas ludi gitaron, nek pianon. Mia nepino Kaoru iom lerte ludas pianon. Ŝi estas 17-jara.

Esperanto estas malfacile por japanoj, ĉar la lingva sistemo estas malsama for de eŭropaj lingvoj. Al mi ŝajnas ke pola popolo facile lernas Esperanton.

Sed vi skribis ke Esperanto estas malfacila ankaŭ al vi, al pola lernantino.

Mi ricevis, de vi jam, dekkelkajn leterojn. Kaj ankaŭ nun estas eraroj en la frazoj. Mi bone komprenas la enhavon. Tamen diligenta knabino kiel vi, devas pli kaj pli bonigi kaj skribi sen-eraran malmulte-eraran leteron.

Por tio, mi korektis vian nunan leteron per ruĝa inko.

Bela Agnieszka skribas belan Esperanton.

Sed, skribu kuraĝe, eĉ kun eraroj. Mi ĉiam akceptos kun plezuro. Klopodu plibonigi ... jen estas nia progreso!

En lernejo vi lernas tre tre bone. Nu en letero vi skribos tre tre bone. Mi esperas.

Atendante vian leteron,

via japana onklo-amiko

1994-10-19 (subskribo)

Hodiaŭ forno-purigisto venis kaj preparis por venonta vintro.

１９９４年会計報告（平成５年１２月６日～平成６年１２月１０日）

収入の部

項　目	金　額	摘　　要
前年度繰越	75,038	
会　　費	88,000	当日会費 10 名、会費 2名
会員　割引	5,440	
寄　　付	25,350	相川節子様より切手 80x20
預金　利子	1,623	
	195,451	

支出の部

項　目	金　額	摘　　要
通　信　費	30,190	切手、はがき代
印　刷　費	46,450	VM印刷代
事務　用品	1,473	封筒、紙やき代
会　議　費	19,136	Z祭、Doroteo 歓迎、他
	97,249	

収入の部	195,451
支出の部	97,249
次年へ繰越	98,202

ザメンホフ祭報告（Movado 1月号）

★和歌山：12月10日（11月号記載の18日は誤り）午後１時からサロン「会」で開催，参加者は12人。江川治邦さんの「アタリモン」（景品付福 引）と歌，西原未佳子さんが用意した景品付ビンゴ，亀井幸枝さん演出 の和文エス訳実演「愛の告白」などを楽しんだ。

１９９５年４月［編集］前田米美　〒640 和歌山市小松原 6-1-6(Tel.0734-22-8660)

WAKAYAMA　Marto, Aprilo 1995

VERDA MONTETO

Redaktita ĉe MAEDA Yonemi　(dumonata)　N-ro 85

”Ｌｉｄｊａ”（ザメンホフの末娘）　Heinz Dieter Maas, Germanio
ＴＥＪＯ の機関誌 Ｋｏｎｔａｋｔｏ を読む　No. 3

FUKUMOTO Hirotsugu

３回目になりますが、引き続いてリディアについての記事を一緒に読んでいきます。説明や訳で間違っているところがあれば、ご遠慮無く指摘して下さればありがたいです。

<<< Ｌｉｄｊａ >>>

Heinz Dieter Maas, Germanio

No.3

En 1921, en la aĝo de 17 jaroj, Lidja finis siajn gimnaziajn studojn kaj estis akceptita de la varsovia universitato kiel studento de juro. Kaj tri jarojn poste, en 1924, ŝi unuafoje publike enpaŝis en Universala Kongreso, okaze de kunsido de la Akademio kaj la Lingva Komitato.

（単語の解説）

gimnazio 中学校（高等学校）、 akcepti 受け入れる、juro 法、法制、 tri jarojn poste ３年後で、 paŝi 歩く、歩を運ぶ、enpaŝi 踏み入れる、Universala Kongreso 世界大会、 okaze de ～に際して、～の機会に、 la Akademio 学士院、学園、学院（ここではエスペラントの言語のありかたについて、検討している、エスペラントの権威ある学者で作られているエスペラントアカデミーオのこと）、 Lingva Komitato 言語委員会、

==

［試訳］１９２１年、１７歳の時に、リィディアは中学校の学業を終えて、法学の学生としてワルシャワの大学に受け入れられた。そして、３年後の１９２４年、エスペラント学士院（アカデミーオ）と言語委員会の会合を機会に、世界大会へ公に足を踏み入れたのでした。

==

En 1925 Lidja Zamenhof finis siajn studojn kaj ekhavis la akademian gradon de magistro pri juro. Tio tamen ne kondukis aŭtomate al iu profesio, des pli ĉar Lidja estis judo, por kiu ŝtata ofico estis praktike neatingebla. Aliflanke, ŝi ne interesiĝis pri dom–mastrado kaj neniam sentis emon al edziniĝo. Eĉ kuiri ŝi neniam lernis. Por ŝi estis klare, ke ŝi iel dediĉos sian vivon al la idealoj zamenhofaj. Esperantujo estis ŝia hejmo.

fini 終える、終了させる、finiĝi 終わる、magistro 学士、修士、akademia grado 学位、tamen けれども、〜とはいえ、konduki 導く、案内して行く、aŭtomate 自動的に、profesio 職業、des pli なおさら、 judo ユダヤ人、ŝtata 国家の、ofico 事務、職務、praktike 実質的に、実用的に、atingi 着く、届く、 ne-ating-ebl-a 到達することのできない、aliflanke 一方では、dom-mastrado 家事、emo 傾向、意向、好み、edz-in-iĝ-o 妻になること、結婚、naniam 決して〜しない、 eĉ さえ、kuiri 料理をする、 por ŝi estis klare, ke 彼女にとって ke 以下のことがはっきりしていた、iel なんとかして、とにかく、どうにかして、dediĉi 捧げる、vivo 一生、生命、生活、idealo 理想、Esperant-uj-o エスペラント界、

==

［試訳］１９２５年に、リディア・ザメンホフは学業を終えて、法学士の学位を手に入れた。しかしながら、そのことは自動的になんらかの職業につながるものではなく、むしろ、彼女がユダヤ人であったから、彼女にとって実質的に国家の仕事は手の届かないものであった。一方彼女は家事には全然興味を示さず、そして結婚する気はさらさらなかった。料理さえも全く習わなかっ

た。彼女にとってハッキリしていたことは、なんとかしてザメンホフの理想に自分の一生を捧げようということであった。エスペラント界は彼女の家庭だった。

＝＝

Dum la Ĝeneva Universala Kongreso en 1925 okazis fakkunveno de la bahaaj esperantistoj, al kiu Lidja estis invitita. Ŝi tute ne deziris tien iri, sed fine pro ĝentileco ŝi tamen partoprenis. Tie ŝi konatiĝis kun Adelbert Mühlschlegel kaj Martha Root, famaj bahaanoj. Ankaŭ la fratino de Lidja, Sofia, partoprenis la aranĝon, dum kiu ŝi legis artikolon de sia patro pri la neceso de universala religio.

fak-kunveno 分科会、専門部会、bahaa バハイ教の、estis invit-it-a 招待された、tute 全く、全然、deziri ～したいと思う、tien iri そこへ行く、fine 終わりには、ついには、pro ĝentil-ec-o 礼儀正しいゆえに、tamen しかしながら、partopreni 参加する、koni （人を）見知っている、kon-at-o（知られている人→）知人、知り合い、kon-at-iĝ-i kun ～と知り合いになる、fama 有名な、baha-an-o バハイ教徒、ankaŭ ～もまた、aranĝo 手はず、手配、ここでは分科会の催しのこと、artikolo 記事、論説、neceso 必要性、universala 普遍的な、世界共通の、religio 宗教、ŝi legis の「ŝi」はソフィアか？リディアか？、ここでは、「彼女」と訳したが、私は「ソフィア」であると思う。そう考えると、この会合が、リディアがバハイ教徒たちとつき合いを始めた契機になるからである。

＝＝

［試訳］１９２５年のジュネーヴの世界大会の間に、バハイ教徒のエスペランチストたちの会合が催され、そこへリディアが招待された。彼女は全くそこに行きたいと思わなかったが、礼儀を大切にして出席した。そこで彼女は有名なバハイ教徒のアーデルバート・ミュールシュレーゲルとマルサ・ルートに出会った。リディアの姉のソフィアもまたその会合に参加していて、その中で彼女は世界宗教の必要性についての父の論説を読んだ。

＝＝

La sekvan jaron, 1926, oni finfine inaŭguris la Zamenhof-monumenton en Varsovio. Martha Root oficiale reprezentis la bahaan religion kaj parolis pri "La Bahaa Movado kiel formo de homaranismo". Ŝi restis du semajnojn en Varsovio kaj dormis kun Lidja en sama ĉambro. Ili fariĝis bonaj amikinoj, kvankam Lidja neniel volis akcepti la religiajn konvinkojn de Martha, des malpli, ĉar ŝi konsideris sin ateisto. Tamen, iom post iom Lidja konvinkiĝis pri la kredo kaj akceptis ĝin.

sekva 後に続く、finfine 遂に、inaŭguri 開会式・除幕式を行う、monumento 記念碑、oficiale 公式に、正式に、reprezenti 代表する、 parolis pri ～について話す、formo 形式、形、kiel のような、として、resti 留まる、滞在する、残っている、du semajnojn = dum du semajno 2週間の間（-n で時間的経過の前置詞の代わりをする）、dormi 眠る、 en sama ĉambro 同じ部屋で、fari ～を作る、～をなす、far-iĝ-i ～になる、 kvankam ～であるけれども、～とはいうものの、 neniel どうしても～ない、全然～ない、 voli ～したいと思う、～する意志がある、akcepti 受け入れる、religio 宗教、konvinko 確信、des malpli むしろ少なく、konsideri みなす、ateisto 無神論者、tamen しかしながら、konvink-iĝ-i 確信する、kredo 信仰、

==========

［試訳］次の年、１９２６年に、ワルシャワでザメンホフの記念碑の除幕式が催された。バハイ教を公式に代表して、マルサ・ルートは「ホマラニスモ（人類人主義）の形としてのバハイ運動」について話した。彼女はワルシャワに２週間滞在し、リディアと同じ部屋に寝泊まりした。リディアはむしろ自分を無神論者であると考えていたので、マルサの宗教的な確信を受け入れたいとはどうしても思えなかったのだが、彼らは良い友達になった。しかしながらリディアはだんだんとその教えに納得していき、それを受け入れたのでした。

==========

（バベルの塔）　②　イタリアの文部大臣（ministro pri publika instruado）D'Onofrio の言葉。『イタリアでの英語教育は、アメリカでコカコーラを注文する時の役にすら立たない』（"instruado de la angla lingvo en Italio eĉ ne helpas por mendi Coca cola en Usono"）　(Helordo de Esperanto N-ro 15, 1994.nov.16)

（バベルの塔）　③　"Centoj da lingvoj malaperadas" 数百の言語が消滅し続けている。Hodiaŭ la homaro parolas ĉirkaŭ 6000 lingvojn, duono da ili mortos....スペイン人が新大陸を発見した時には、約２２００の言葉があったが、今は６００しか残っていない。その内２５０が次の世代で消えてしまうだろう。主に国の圧迫と、植民地主義、皆殺しによるものであった。　(Helordo de Esperanto N-ro 15, 1994.nov.16)

［エスペラント便覧を見てみると、１ページに世界の言語の数について書かれています。ここでは、『アメリカの言語学者グレイという人は、今は話されていない死語も含めて、世界の言語総数は２７９６だといっています』とあり。話す人の多い順に、中国語（４億5000万人）、英語、ヒンドゥスタニー語、ロシア語、スペイン語、ドイツ語、日本語、フランス語、マライ語、ベンガル語、ポルトガル語、イタリア語、アラブ語（5000万人）、(Mario Pei "The Study of Language, 1952 ")となっている。現在では人数も含め随分変化しているので、順位は変わっているであろう。また『もっとも話し手のすくない言語は、アイヌ語の一万数千、シベリアのギリアーク語の約４０００、カムチャダール語やユカギール語がそれぞれ数百といわれている』とあるが、今ではアイヌ語を話す人はほとんどいないのではないか。社会党の代議士で初めてアイヌ語で国会質問をしたことが、先日話題になった。一部でアイヌ語の勉強会が続けられているとのことであるが、話し言葉として残していくのはなかなか大変なことだと思う。少数民族の存在すら認めない日本政府の考えがあり、在日韓国・朝鮮人に比較しても極めて少ない数であってみれば、大多数の日本人にとって『日本には少数民族はいない』という意識は、異質なものを村八分として排除していく『村社会日本』の現状からして当たり前かもしれない。『異質を認め、受け入れること』は『いじめ』問題の根本的な課題でもあるし、今後の日本人の心の国際化をすすめるポイントではないだろうか］

##
##　　ソウルの街角で　　Ｎｏ．３　##
##

夕方の４時頃になっていた。昼飯も十分食べていなかったので、今晩は焼き肉にしたいと思いレストランを捜すことにした。集会を見ていた若い人に尋ねてみるが、英語も通じず韓国語でも訊けず要領を得ない。

通りを越えて交差点を渡り、南大門路の方へ曲がる。曇ってきた空からとうとう雨になった。夕立とみて、ビルの軒下で雨の止むのを待つことにした。

このあたりは古くからの町の中心街であるが、大きなビルも多くなっていて、会社の事務所も沢山ありそうである。ビジネスマンやオーエルが雨の中を通りの向かいへ走っていく。雨はすぐには降り止まず、そのままで待っていた。

すると、私に話しかけてくるおじさんがいた。話しかけられることは予想していなかったので、一番最初に何と言ったのか覚えていないのだが、要は「日本人か」、「日本人だろう」ということで、私が日本人であることを確認しているのだった。「そうだ」と言うと、その後で、日本の植民地のときに大変であったということや、ハングルは日本語のカナよりも優れているということや、その他色々と一人で話していた。雨の止むのを待っていて、特に急いでもいなかったので、適当に相槌を打って話につきあっていた。

そのうちに、少し小降りになってき、腹も空いてきたので、「今、韓国の焼き肉（カルビ）を食べたいと思って、レストランをさがしていたところなので、この近くにどこか良い所がないか」と尋ねて、「一緒に食べに行かないか」と誘ったところ、相手も暇なのか応じてきた。

食堂を探しに一緒に横道に入って行った。「このへんは高い」と言っていたが、少し歩いてから、私が「ここに入ろう」と決めて、焼き肉屋に入っていくと１０組くらいのグループが食事できる、特に高級でも、汚なくもない、適当な店だった。まだ５時前だったので、客は誰もいなくて、我々二人だけであった。焼き肉２人前と、御飯、ビール１本を注文した。

焼き肉は甘くて、おいしかった。量もまあまあ多く、たくさんの野菜やキムチを残してしまった。私もあまり量は食べないし、相手のおじさんも写真で見ての通り、背の低いやせた人であったし、遠慮もあったのか少しし

か 食べなかった。このようにして食べるのだと、たれの付け方や、野菜で包んで食べるようにおしえてくれた。キムチもすすめてくれたが、漬け物がもともと余り好きではないのと、野菜も沢山あったので、味を見る程度にしたがそんなに辛くはなかった。

彼の話は、色々なことに及んでなかなか尽きることがなかった。兄弟が日本の長野の農業高校へ行っていたこと、彼の小学校時代の校長先生のことなど、日本語が流れ出てくるようで、彼がなんだか日本語を話したがっているようにも思えた。留学生の日本語などと違って、むしろ韓国人のなまりが感じられないようだった。小さい頃に身に付いた言葉というものが如何にその人の脳の中に残ってしまうものか、考えさせられた。

ある本で読んだことがあるが、朝鮮語を禁止され、日本語教育を受けた人々が、戦後独立してから、日本語を意識的に忘れようとしたということである。本当に人間は言葉を離れて生きていくことができないのに、自分たちの言葉を話すことが禁止されるということは、どんなに不便で悲しいことであろうか。

後百年も、植民地であることが続いて、日本語教育が徹底してしたら、朝鮮文化の伝統を受け継いで行くことは大変困難なことであ

ったに違いない。

二宮尊徳を尊敬しているという。むしろ彼の中に日本人の原点を見るような気持ちであった。「柴かり、縄ない、薪を背負い、・・・・」と二宮金次郎の歌を歌ってくれた。当時、内地はもちろんのこと、朝鮮などの外地でも、小学校には薪を背負って本を読んで歩いている、二宮金次郎の銅像があったということである。

彼にとっての子供時代は、自分たちの言葉である朝鮮語を話すこともできず、学校では日本語をしゃべらないといって殴られたりしたこともあったようである。どんないやなことも含めて小さい頃のことは懐かしいものとして、思い出されるものかもしれない。

二宮尊徳の話から、「農業は大事なことであるから、あなたも農業をやりなさい」と言って、漢字で次のように書いてくれた。

農者（夫）天下之大本也
昔曰、聖君曰　不農者不食可也
不農食者念良小無
不食即死　無食即死　不食即百事不成
不農人皆是農者血汗食
農思不知者　何事食也
此道理何事不知也

余部
世人皆是　無識所行　何事無食也
曰、心眼大無識　不農人
嗚呼世人開眼大盲　外眼大明心眼大盲人也
何時心明　身土不二　食土之命

天地順應大自然造化
萬古不變農本大眞道

一樹花開天下同人
人類和親世界平和

韓国でも農業は余り好かれない仕事のようである。農業が大事にされていないと言っていた。韓国は儒教の国であり、労働の評価がどうであるのかよく知らないが、物の本によると偉くなると現場の仕事をしないのが韓国の考え方のようであり、いわゆる労働というものが日本以上に評価されない状況かもしれない。

彼の言わんとすることは、漢字を見てもある程度理解してもらえると思うが、『人間ものを食わないで何もできない、その食物を作るのは農民である、昔より農業は天下の大本である』というようなことであろう。面白い出会いであった。　　福本博次　　（終）

（エスペラントおじさんと子どもの交流・・・その２）

『こんどは日本の歴史のお話し』

むつかしい temo,どう簡潔にお話しするのでしょう。
お相手は、チェコの１３才の少女、学校でお友達に得意になって
ご披露したことでしょう。

Kara Lucie.

Bonan tagon. Saluton.

Dankon por via skribo pri la historio de Ĉeĥio.

Do mi skribos historion de Japanio.

En dia tempo, en la ĉielo, dio IZANAGI, kaj diino IZANAMI fondis insulon en la maro. Ĝin oni nomis JAMATO(Japanio). Ili naskis diinon AMATERASU(dio de tago), dion CUKIJOMI(dio de nokto), kaj petoleman dion SUSANOO. Dio NINIGI(nepo de AMATERASU) subenvenis al tero, al HJUUGA(provinco de Jamato). Lia kelk-generacia pranepo ZIMMU regis la tutan Jamato-n kaj sin nomis Unua TENNOO(reganto). Tio estas antaŭ 2654 jaroj. Ĝis nun la lando aŭ prosperis aŭ malprosperis, fine malvenkis en la Dua Mondomilito. Sed lia 128-a pranepo Tennoo AKIHITO nun regas la landon per helpo de bonaj ministroj. Lia edzino estas MIĈIKO, filino de komercisto.

Kron-princo NARUHITO edziĝis al MASAKO(filino de diplomato).

Mi enmetas ilian bildon.

Kion japanoj manĝas? Ordinare tre modestan oni manĝas. Feste ... kiel vi vidas en bildo. (Mi bedaŭras al vi ke tio estas nur bildo.)

Frandu ! Bonan apetiton !!!

ĜIS ! Amike via

1994 11 06 (subskribo)

Kastora Klubo de Esperanto （ビーバークラブ）

（前号・p．１２参照）

これは、年令を問わず初心者向けの国際クラブで、いろんな国・信仰・文化に属する人々の友情を広めようという目的をもったクラブです。成人で初心者たちを助けようという人も入会できます。

成人の会費は、年８ｕｓドル、１８才までの子ども・青年は　６ｕｓドル。会員になると、年６回発行の冊子　”Kara Amiko”と、住所録がもらえます。文通だけなら無料です。

問い合わせは：

p/a Barbara Chmielewska, ul.Puławska 3-11,

PL-02-515 Warszawa, Pollando. (TEL 480620)

子どもたちが、エスペラント学習のはげみになるように、その習熟度に応じて、

Bruna Kastoreto, Arĝenta Kastoreto, Ora Kastoreto

の３段階のタイトルがもらえます。

(UEA JARLIBRO 1994 より)

日本語とエスペラントのはざまで

－（５）－

前田　米美

『はざま』をていねいに読んで下さっている　ある方から、「くだをまく肴」ということで、いいネタをいただきました。

日本語で『ＡはＢです』というのは、”Ａ　ｅｓｔａｓ　Ｂ”にきまっている。誰も文句はないはず。と思っていたら大マチガイ。

喫茶店などで、「私はジュウス」、「私はコーヒーです」と言っているのが聞こえます。これをアメリカで、”Ｉ　am　coffee”と言って笑われたという話、聞いたことがあります。

考えてみますと、『ＡはＢです』という日本語には、直前のだれかからの質問により、また、言っている人の気持ちにより、ｅｓｔａｓでは、見当違いになることが、たくさんあるようです。

試みに、次の　ＡとＢを使ってエスペラントに訳してみてください。

Ａ		Ｂ	
１．私	は	コーヒー	です。
２．私	は	フランス	です。
３．来年	は	幼稚園	です。
４．上	は	大学	です。
５．春	は	曙	です。
６．酒	は	大関	です。
７．夏	は	ミニ	です。
８．朝	は	パン	です。
９．明日	は	雨	です。
１０．頭	は	ショートカット	です。

日本語は、なんでも『・・・は・・・です。』で間に合う便利な、知っている人には誠に良くできた、知らない人には何が何だか分からぬ使いにくい言葉です。これを母国語とする我々、幸か不幸か。その『はざま』でナヤむのです。

さて、エスペラントに訳するに当り、問題の解釈のしかたで、訳文も変わってまいります。例えば、

1．私はコーヒーです。　　は

＊私はコーヒーをえらびます。

＊私にコーヒーをください。

＊私はコーヒーを注文します。

＊どちらかといえば、私はコーヒーが好きです。

＊そんな時、私はコーヒーを飲みます。

といったぐあい。訳する人は、その　どれをとっても結構。

その際、訳する人は、いろいろ想像しています。

①前もっての他の人からの質問

「あなたは何にする？」

②その場の雰囲気

「ああ、やっと仕事が終った。何か飲む？」

恋人同志の夜明けの・・・

ここに出ている問題の中に、「選択」のイミをもったのが　たくさんあるのに気がつきました。「どれにする？」　あるいは自分から好みを「選択」したりする気持ちです。そうすると　Mi　preferas ... Mi　elektas ...となりましょうか。　けれど

2．私はフランスです。　　はもっといろいろ想像されます。

＊私はフランスへ行きたい。

＊私の生れはフランスです。

3．来年は幼稚園です。

子どもの成長をたのしむ親の気持ち。これは選択ではなく、主語は子どものようです。

4．も　3．と同じ。

5　～　8　は、すきなものを選択。でも、それぞれ nuanco がちがいますから、単に elektas　では素っけないようで。

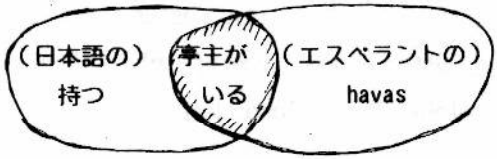
9．天気予報。 prognozas　もいいでしょうが、Bedaŭrinde　の気持ちもあるかも知れません。

10．誰かの外見を「叙述」。

［補習問題］
こんなの　いかがでしょう。

夏は北海道です。
冬は和服です。
北は北海道です。
彼は天国です。
大石は内蔵助です。
羅生門は芥川です。

前号の修正：ｐ．１０のカットの左に、下のような線を入れるのを忘れていました。



Neologismoで、日本と欧米のエスペランチストの泥試合？
いや、これはりっぱな文化の花の交流！
（ Heroldo de Esperanto 誌　1994 09 30より
奥村さんの投稿）

Aziaj kaj eúropaj neologismoj

La temo de mia indigno estas la internacieco, la egalrajteco de nia lingvo, ali-esprime - pri la japana esperantista troa humileco kaj izoliteco. Eúropaj (en mia senco 'ne-japanaj') esperantistoj ofte uzas vortojn kaj gramatikojn malfacile kompreneblajn al la japanaj esperantistoj. Niaj japanaj kleraj E-gvidantoj daúre konsilas al ni "tiu esprimo estas nekomprenebla por eúropanoj."

Ĉu en Eŭropo okazas same? Iliajn neologismojn ni klopodas kompreni kun granda peno. Ili do devas kompreni japaneskan esprimon kun la sama peno, ĉu ne?

Iuj gvidantoj riproĉas min pro mia sinteno, dirante ke se ni reciprokus kaj uzus niajn esprimojn, tio estus interĵetado de koto. Mi ne konsentas pri tio. Se iliaj kaj niaj neologismoj estus fuŝaj esprimoj, certe tio estus koto-batalo, sed se la iliaj kaj la niaj estus bonaj vortoj, pli taŭgaj ol tiuj antaŭaj, tiam tio estus kolektado de floroj kaj juveloj.

Okumura Rinzo (Japanio)

El "Heroldo de Esperanto" 30 septembro 1994

１９９５年６月［編集］前田米美　〒640 和歌山市小松原 6-1-6(Tel.0734-22-8660)

WAKAYAMA　　Majo, Junio　　1995

VERDA MONTETO

Redaktita ce MAEDA Yonemi　(dumonata)　N-ro 86

"Lidja"（ザメンホフの末娘） Heinz Dieter Maas, Germanio
TEJO の機関誌 Kontakto を読む No. 4

FUKUMOTO Hirotsugu

後数回は続きますが、引き続いてリディアについての記事を一緒に読んでいきます。説明や訳で間違っているところがあれば、ご遠慮無く指摘して下さればありがたいです。

<<< Lidja >>>

Heinz Dieter Maas, Germanio

No.4

En 1926 Lidja partoprenis la bahaan kunvenon okaze de la Edinburga UK kun siaj gefratoj. Al tiu kunveno la fame konata sciencisto Auguste Forel, kies portreton hodiaŭ montras la mil-frankaj svisaj monbiletoj, sendis salut-telegramon: "Longe vivu la universala religio de Bahá'u'lláh! Longe vivu la Internacia Lingvo Esperanto!". Estas

（単語の解説）

kunveno 集会、partopreni ～on ～に参する（=partopreni en ～o）、bahaa バハイ教の、 okaze de ～の際に、～を機会に、 UK 世界大会（Universala Kongreso） fame konata よく知られた、有名な、著名な、sciencisto 科学者、portreto ポートレート、肖像画、 mil-franka 額面千フランの、mon-bileto 紙幣、salut-telegramo 祝賀電報、電報によるあいさつ、 longe vivu 万歳！、universala religio 世界宗教、 Bahá'u'lláh バハイ教の開祖、 Abdu'l-Bahá 開祖の息子、 el △ rezulti

interese, ke el korespondado inter Forel kaj Abdu'l-Baha, filo de la fondinto de bahaismo, rezultis verko nuntempe konata de ĉiu bahaano: *Letero al Forel*.

En tiu tempo Lidja komencis instrui Esperanton en Varsovio kaj verki artikolojn por *Pola Esperantisto*, per kio ŝi perlaboris iom da mono.

○ △から○が出来る、△より○が生まれ出る、verko 著作、作品、nuntempe 現在、baha-an-o バハイ教徒、Letero al Forel フォレルへの手紙という出版物、en tiu tempo 当時、komenci ～を始める、artikolo 記事、論文、Pola Esperantisto「ポーラ・エスペランティスト」（当時のポーランドでの機関誌）、perlabori（お金を）稼ぐ、働いて金を得る、iom da mono 少しのお金

＝＝

［試訳］１９２６年、エディンバラの世界大会の時、リディアは兄弟達と一緒にバハイ教の集会に参加した。その集会には有名な科学者アウグスト・フォレルが電報であいさつ文を送ってきていた。ちなみに今では彼の肖像画は千フランのスイス紙幣に見ることができる。電文は「バハウラの世界宗教、万歳！」「国際語エスペラント、万歳！」であった。フォレルとバハイ教の創始者の息子、アブドゥル・バハとの間の文通から、今日バハイ教徒に知られている著作「フォレルへの手紙」ができたのは、興味深いことである。

当時リディアはワルシャワでエスペラントを教え始めていた。そして機関誌「ポーラ・エスペランティスト」のために記事を書き始め、そのことで少しのお金を稼いでいた。

＝＝

En 1928, okaze de du bahaaj kunvenoj en la kadro de la UK de Antverpeno, Lidja faris unuafoje publikajn paroladojn, kio sufiĉe mirigis la esperantistojn, ĉar ĝis tiam

okaze de ～の機会に、en la kadro de ～～の枠組みの中で、unu-a-foje 初めて、faris publikajn paroladojn 公に演説した、kio sufice mirigis の "kio" は前の文章（彼女が演説したこと）をさす、sufice 十分、mir-ig-i 驚かす、gis tiam

ŝi neniam konsentis pri tio kaj estis konsiderata kiel timema kaj retiriĝema persono. La cetera Zamenhofa familio neniel kontraŭis la konvertiĝon de Lidja al la bahaa kredo, sed ili ankaŭ ne komprenis. En 1929 Lidja eĉ publikigis artikolon pri la bahaa religio en pollingva juda gazeto, kio ŝokis la familion kaj multe pli la judan komunumon. Tiutempe Lidja komencis traduki en Esperanton *Bahá'u'lláh kaj la nova epoko*, ĉe kio Martha Root kunhelpis. En 1930 Lidja vojaĝis al Hajfo, en Palestino, sankta loko por bahaanoj, kaj renkontis Shoghi Effendi, la tiaman gvidanton de la bahaa kredo.

それまでは、neniam 決して～しない、konsideri ～とみなす、esti konsiderata みなされている、tim-em-a 憶病な、 re-tir-iĝ-em-a 引っ込み思案の、cetera 他の、残りの、neniel kontrauis どのような反対もしなかった、konvert-iĝ-on 改宗、konvertiĝo al la bahaa kredo バハイの教えに改宗すること、publikigi 出版する、pollingva juda gazeto ポーランド語のユダヤ人の雑誌、 kio ŝokis の "kio" は前の文章全体を受ける、ŝoki ショックを与える、la judan komunumon ユダヤ人社会、tiutempe 当時、Bahá'u'lláh kaj la nova epoko 「バハウラと新しい時代」（バハイ教の本、 ĉe kio そのことに於いて、つまり翻訳することに於いて、 kunhelpi 手助けする、vojaĝi 旅行する、Hajfo ハイファ

＝＝

［試訳］１９２８年、アントヴェルペンの世界大会の中でもたれた２つのバハイ教徒の集会を機会に、リディアは初めて公に話をした。このことはエスペランティストたちを十分おどろかすものであった。なぜならそれまでは公に話をするということに決して同意せず、彼女は憶病で引っ込み思案な人とみなされていたからでした。ザメンホフの家の他の人たちは、リディアがバハイ教に改宗することに何も反対しなかった。しかし、彼らはまた彼女のことを理解してなかった。１９２９年、ポーランド語のユダヤ人の雑誌に、バハイ教についての記事を公表する事さえしたので、ザメンホフ一家に、またユダヤ人社会にはそれ以上にショックを与えた。当時リディアは

「バハウラと新しい時代」をエスペラントに訳し始めていて、マルサ・ルートはその手助けをしていた。１９３０年には、リディアはバハイ教徒にとっての聖地であるパレスティナのハイファへ旅をした。そして、当時のバハイ教の指導者、ショギ・エフェンディに会った。

＝＝

Lidja decidis lerni la Cseh–metodon por instrui Esperanton eksterlande. La movado tamen ne plu estis tiel favora al ŝi kiel antaŭe, ĉar oni ja malŝatis, ke membro de la Zamenhofa familio aktivas por la disvastigo de la bahaa afero, timante ke la publiko ekkredus, ke Esperantismo estas intime ligita al iu religia kredo.

decidi 決定する、決心する、Cseh-metodo チェ・メトード（エスペラントのみ使って、他の民族語による解説を行わないでする、エスペラント教授法の一つ、チェと言う人によって始められた。今でも直接教授法の一つとして続いている。ne plu estis tiel favora al ŝi kiel antaŭe もはや以前と同じように好意的というわけではなかった mal-ŝatis 嫌う、disvastigo 拡大、timante ke la publiko ekkredus 人々が～と信じ始めるのではないかとおそれて、ligi つなぐ、

＝＝

［試訳］外国でエスペラントを教えるために、リディアはチェ・メトードを学ぶことに決めた。エスペラントの運動はしかし彼女にとってもはや以前のように好意的なものではなかった。というのは、ザメンホフ家の者がバハイ教というものの普及のために活動することは、全く好まれなかったからである。つまり、エスペラントの考えがある宗教の信仰と密接に結びついていると世間の人々が信じ始めるのではないかとおそれていたからである。

＝＝

（バベルの塔）　④　《インドの公用語は１６》　インドは多言語の社会であり、百ルピー紙幣の表にはヒンディー語と英語で、裏にはその他の１３の言語で単位が示されている。

（バベルの塔）　⑤　《海外の日本語学習者、アジア中心に増加》　国際交流基金日本語国際センターの調査によると、９９ヶ国、６８００機関、教師数２１０００人、学習者数１６２万人を越えているとのことである。またラジオ、テレビの講座も含めると日本語の学習者は数百万人にのぼるものとセンターでは推定している。国別では韓国、中国、オーストラリアの順で多い。問題点としては教材不足、設備不足、また日本の文化や社会についての情報が少ないことなどが上げられている。（朝日新聞の記事より）

（バベルの塔）　⑥　《「共通語と地方語」スペインで論争》　スペインの王立言語アカデミー会長の首相あての書簡が波紋を呼んでいる。その書簡には【１９７８年憲法によって地方語を公用語とするに至った、カタルーニャ、バスク地方、ガリシアなどの自治州で、国家の共通語たるスペイン語（カスティーリャ語）の習得が不利な状況におかれているとして、「これによって『国民的共存が損なわれる』ような事態が起こることのないように」と、現状への懸念が表明されている】　これにたいし、各自治州の関係者から反発の声があがっている。「いまだにカタルーニャ語はカタルーニャ地方においてさえスペイン語と対等の立場になっていないという現状の方が問題である」、「王立言語アカデミーの姿勢には、新たなスペイン・ナショナリズムの強まりがうかがわれる」「スペインの多言語、多文化、多民族という現実を等しく認識することが、共存の出発点である」等々。言語学者や文学者を巻き込んで、『言語論争』がしばらく続きそうである。１国での「調和ある２言語併用主義」の実現の難しさを示している。　（朝日新聞、海外文化欄より）

（バベルの塔）　⑦　《世界の言語半分消滅》　アラスカ大学の言語研究グループの報告によると、先史時代人類は約１５０００の言語を使っていたが、現在はその数が約６０００に減少している。これからの１世紀の間に、さらに多くの言語が消滅し、２１００年に生き残っている言語は約６００になるだろうとのことである。（ｱﾄﾗﾝﾀ, 1995.feb.18　AP）

ガンをおさえる効果的な食生活

フランスの某紙からレオ・ロベールが エス訳したもの

SANO

KANCERO KAJ NUTRADO: DEMANDO-PUNKTOJ

ANTAŬ NELONGE EN PARIZO KUNVENIS DUCENTO SERĈISTOJ POR ESPLORI LA KOMPLEKSAJN RILATOJN INTER NUTRADO KAJ KANCERDISVOLVIĜO.

Ĉu saniga nutrado protektas kontraŭ kancero? Tiu demando konsistigas temon de multnombraj debatoj kaj polemikoj en la sciencista medio. 紙上討論 200 serĉistoj (epidemiologoj, kancerologoj kaj nutrado-fakuloj) antaŭ kelkaj tagoj kunsidis en Parizo por bilanci pri tiu malfacila temo. 伝染病学者 整理する?

"Hodiaŭ estas kelkaj certaĵoj kaj multe da nesciaĵoj, post dek jaroj verŝajne inversiĝos la situacio" deklaris la profesoro Boiron [Buaron]. 逆転する Ĉiel oni ne plu pridubas, ke abunda kaj regula konsumado de fruktoj kaj legomoj malpliigas la riskon pri kanceroj, aparte pri tiuj de la digestaparato (ezofago, kojlo, stomako, rektumo). 消化器官(食道,結腸, 直腸) Tion konfirmas ĉiuj enketoj plenumitaj de post tridek jaroj ĉe diversaj lokoj sur la planedo.

El kio fontas tiu protektefiko? Oni ne ekzakte scias. Ŝajnas, ke riĉeco je vitaminoj kaj mineralaĵoj de la fruktoj kaj legomoj en tio ludas rolon, sed nenio hodiaŭ rajtigas aserti, ke same efikus kroma provizo de vitaminoj kaj mineralaĵoj sub medikamenta formo. Nuntempe oni disvolvas pristudojn por atingi al pli klara scio. Tiucele la dieton kaj sanstaton de 350 000 volontuloj oni zorge priobservos daŭre dum dek jaroj en sep eŭropaj landoj.

つづく (daŭrigota)

日本語とエスペラントのはざまで

－（６）－

前田　米美

今回思いきって『思う』をとりあげてみます。『思う』はもう多くのエスペラントの先輩の方々が既に解説されていますので、私の繰ごとには勘違いや間違いが出るかも知れませんが、思い切ってやってみます。私自身の入門当時の困惑・混乱についてクダをまくわけです。

まず、『思う』を、「日本語エスペラント辞典」でひいてみます。訳語はびっくりするほど、たくさんあります。

１．思考　pensi; pripensi; opinii.
　考慮　konsideri　だめだろうと『思う』
　意図　intenci　しようと思う
　信念　kredi　きっと．．．だと思う
　沈思　mediti　深い思いにふける
　判断　juĝi
　認識　trovi　と知る・気付く、．．．ことがわかる
　　Mi trovas vian opinion prava. 正しいと思う
　推測　sondi; konjekti　推測して、そう思う
２．感じる　senti　さびしく思う
３．見なす　rigardi; konsideri　だめだと思う
　　preni　(vin por A)　君を A　だと思った
４．期待　atendi;　予期して、そう思う
　想像　supozi; Kiel mi supozis(atendis). 思ったとおり
５．願う　deziri; esperi　したいと思う
６．あやしむ　dubi; suspekti　そんな事あるはずがないと思っていた
７．目算　intenci; voli; projekti; plani
　　Mi intencas(volas) vojâgi al Hokkajdō .
８．回想　rememori;　rememori knabecon
　心にえがく　imagi;　imagi al si la knabecon
９．愛　ami
　したう　sopiri　あの人のことを思っている
１０．恐れる　timi　Mi timas,ĉu morgaŭ pluvos.
　　雨でないかと思っている　（一部筆者加筆）

私は初め『思う』は pensiだけだ、日本語ひとつに、エスペラントの単語はひとつと単純に思いこんでいました。『思う』に、こんなにたくさんの訳語があるのに、大困惑しました。この中から、自分の『思う』にいちばんぴったりしたものを撰ぶということを納得するまで、ちょっと時間がかかりました。ひとつひとつの訳語を眺めていくと、「あ、これはちがうな」「これは近いけど、少しちがうかな」という具合に少し楽しくなります。例えば、文通相手に自分の本当の気持ちを、正しく伝えるためには、こうした訳語を撰ぶ労を惜しんではいけないことも、わかってきました。そして、辞書を作った人のご苦労をしみじみ感じました。

日本語『思う』をエス訳するのとは逆に、エスペラントの単語を日本語に訳するのに、日本語のひとことでおさまらないものもたくさんあります。何かぴったりした短い訳語がないものかナヤみます。あれを言い、これを言い、結局生徒さんを白けさせてしまいます。 bela, bele, belo, belasなどは人気がありますが、 adekvata と identa のちがいなど、「小辞典」の訳語だけでは、なかなかのみこめません。また ikono（ギリシャ正教の絵画・彫刻・モザイクなどの）聖像、 manao ＜聖＞マンナ（イスラエル人が荒野で神から与えられた食物）；＜宗＞マナ（魔魂）．．．などについては、ヨーロッパのキリスト文化、 fasado ＜建＞ファサード（建物の正面），gablo＜建＞切妻（ゴチック建築の窓・入口などの上）切妻型装飾．．．．などは、ヨーロッパ建築史について、よく知っていないと、訳語は短くても、すっきりわかりません。でも、こんな単語を普通のヨーロッパ人は日常語のように使ってくるので、「ちょっと待って」ということになります。ヨーロッパの neologismo のおしつけだと腹を立てて、”koto-batalo ”（前号 N-ro ８５、最終ページ、上のほう参照）しないで、文通でゆっくり説明してもらい、こちらからも、例えば、ひな祭り、おみこし、おじぞうさんなど日本独自のことばは、くわしく説明してあげ、文化的な障害をとり除いて、交流の花を咲かせるのが、生きたエスペラントの使い方だと信じています。

「はざま」の勉強はだんだん私の手に負えなくなってきまして、これは、クダを巻くネタどころか、実に大切なこととわかってきました。エスペラントは易しいと、ひとことには言えません。私のクダ巻きが入門者の挫折を乗り越えるのに、何かお役に立てればと思います。これを読んで、どうか一層がんばってほしいと思います。（期待、希望）

☆ NI AMAS ESPERANTON !

１９９５年８月［編集］前田米美　　〒640 和歌山市小松原 6-1-6(Tel.0734-22-8660)

WAKAYAMA　Julio, Aŭgusto　1995

VERDA MONTETO

Redaktita ĉe MAEDA Yonemi　(dumonata)　N-ro 87

エスペラントって何？

★

・・・学習しやすい国際共通補助語

奥 村 林 蔵（８３）

世界が地球がほんとに狭くなりました。外国旅行もまるでお隣へ行くように気軽にでき、地球の反対側の出来事も生中継でその場で私達に届きます。結構な時勢です。

ところが世界中の文化が進むに連れて、多くの国、多くの民族が、それぞれ自己の文化伝統を強く自覚し、自国語や自民族語をその文化の担い手として高く評価しだしまして、みな自国語を尊重しはじめました。国立民俗博物館前館長梅棹忠夫さんは、幾つもの民族語に通じていられるが、外国語の来客には通訳同伴を求められ、日本語でしか会話なさらない。ただし地球人として地球上の共通語のエスペラントでなら、どの国の人とも楽しく会話なさるとのこと。

このエスペラントという言葉は今から百年ほど前にポーランドの眼科医ザメンホフ博士の提唱した国際共通補助語で、これと自国語とさえ話せれば『世界中は我が家』というものです。

その構造はというと、世界中の小中学生でも台所の主婦にでも易しく習得できるように工夫されています。

①ローマ字読みである。

②書いてある通りに読み、読むとおりに書く。

③アクセントは常に終りから二番目の母音にある。

④名詞・動詞・形容詞などは語尾が決まっている。

等々で大変易しい。でもローマ字が苦手の人には無理か。私は大勢の外国の子どもと文通していますが、彼らはローマ字に慣れているから子どもでも書いてきます。

ただし、電話やファックスと同じで、こちらが知っていても相手が知らねば宝の持ち腐れ。実用してみてその便利さを一度知ったらもう病み付きになります。何国の人何語とも対等に文通し会話が出来るのです。

今年の夏は、フィンランドで世界のエスペランチストが集まって、世界大会を開きました。二～三千人の参加者の中から、初めて文通相手と出会い、涙のうちに、手を握りあう光景は美しいものです。

”Ｌｉｄｊａ”（ザメンホフの末娘） Heinz Dieter Maas, Germanio
ＴＥＪＯ の機関誌 Ｋｏｎｔａｋｔｏ を読む No. 5

FUKUMOTO Hirotsugu

すでに５回目となりましたが、リディアの話はいかがですか。基本的な単語以外はほとんど解説にのせていますので、初心者でも読んでいけるでしょう。

<<< Ｌｉｄｊａ >>>

Heinz Dieter Maas, Germanio

No.5

En 1932 Lidja multe prelegis kaj instruis, foje antaŭ 120 homoj, en Svedujo. Post tio ŝi ricevis inviton de la Esperanto-Klubo de Lyon, Francujo, por tie gvidi rektmetodajn kursojn. Kaj per tio komenciĝis la kariero de Lidja kiel Cseh-instruistino.

（単語の解説）

prelegi 講演する、instrui 教える、foje ある時、 Svedujo スエーデン、 post tio その後で、 ricevi 受け取る、 invito 招待、 Lyon フランスの町リヨン、gvidi 指導する、 rekt-metoda レクタメトードの（直接教授法＝最初からエスペラントのみで教える方法）、kurso 講座、講習会、per tio そのことによって、komenc-iĝ-i 始まる、kariero 経歴、履歴、kiel ～としての、 Cseh-instruist-in-o チェ式直接教授法で教えるエスペラントの教師

〔試訳〕１９３２年にリディアは講演や教育を沢山行った。ある時はスエーデンで、１２０人の聴衆の前で講演した。その後、フランス、リヨンのエスペラントクラブから、そこで直接教授法の講習会を指導してほしいという招待を受けた。そして、このことからリディアのチェ式直接教授法教師としての経歴が始まったのです。

Kvankam la instruado de Esperanto en publikaj lernejoj estis malpermesita en tiama Francujo, la intereso pri Esperanto estis grandega. Lidja instruis al klasoj kun centoj da personoj, la gazetaro favore raportis kaj la lernantoj estis entuziasmaj. Tiuj sukcesoj ripetiĝis en pluraj aliaj francaj regionoj. Poste Lidja vizitis Nederlandon, sed unuafoje ne partoprenis la Universalan Kongreson en 1933, kiu okazis en Kolonjo(Germanujo) sub rego de la nazia influo. Sur fotoj de tiu hontinda kongreso, kies organizon la Esperanta gazetaro aparte laŭdis, oni vidas ĉie la naziajn emblemojn kaj la germanajn esperantistojn levantajn la brakon por "germana saluto".

kvankam ～だけれども、instruado 教育、教授、publika lernejo 公立の学校、malpermesi 禁止する、tiam-a 当時の 、intereso 興味、関心、grand-eg-a とても大きい、 instrui al klaso 授業をする、klasoj kun centoj da personoj 数百人の参加しているクラス、 gazet-ar-o 諸新聞、 favore 好意的に、raporti 報告する、entuziasma 熱心な、 sukcesoj 成功、ripet-iĝ-i 繰り返される、 pluraj 複数の、regiono 地方、poste 後で、viziti 訪問する、 Nederlando オランダ、 unuafoje 初めは、parto-pren-i 参加する、okazi 催される、nazi-a influo ナチスの影響、rego 支配、hont-ind-a 恥じるべき、organizo 組織、aparte 特別に、取り立てて、laŭdi 誉める、賞賛する、vidi 見る、nazia emblemo ナチスの紋章、 levi 上げる、brako 腕、手、"germana saluto" 手を上に上げるナチス式敬礼、

＝＝＝

［試訳］当時のフランスにおいては、公立の学校でのエスペラント教育は禁止されていたけれども、エスペラントへの関心はとても大きかった。リディアは数百人が参加する講習会で教えた。そして、新聞では好意的に報道され、講習生は熱心であった。この成功はフランスの他のいくつかの地域でも繰り返された。その後リディアはオランダを訪問した。しかし初めは、１９３３年の世界大会に参加しなかった。　この大会はナチスの影響力の支配下にあったケルン（ドイツ）で開催された。エスペラントの雑誌は大会の組織を賞賛した、この恥じるべき大会の写真では、いたるところにナチスの紋章と、ナチス式敬礼として手を挙げたドイツのエスペランチストが見られます。

＝＝＝

Lidja daŭrigis sian instruadon en Francujo ĝis somero 1934, kiam ŝi reiris Varsovion post dujara foresto. Ŝi partoprenis la Stokholman UK kaj rekomencis sian Esperanto–instruadon en Francujo. Lidja estis tiel sukcesa, ke laborante nur por Esperanto, ŝi povis vivteni sin dum pluraj jaroj.

daŭrigi 続ける、instru-ad-o 教育、講習、教授すること、ĝis ～まで、somero 夏、re-iri 戻る、帰ってくる、du-jara 二年間の、for-esto 不在、parto-preni 参加する、Stokholm-a ストックホルムの、re-komenci 再開する、tiel ～, ke それほど～なので、ke以下である、 sukcesa 成功である、 nur por ～だけのために、labori 働く、viv-ten-i sin 自分の生活を支える、dum pluraj jaroj 数年間、

＝＝＝

［試訳］リディアはフランスでエスペラントの教育を続けて、１９３４年の夏、２年間離れていたワルシャワに戻った。彼女はストックホルムの世界大会に参加してから、フランスでのエスペラント教育を再開した。リディアはエスペラントのためにだけ働くことで、数年間自分の生活を支えることができるほど充分に成功した。

＝＝＝

La grandegaj sukcesoj de Lidja fine atingis interesiĝantajn esperantistajn rondojn en Usono, kiuj invitis ŝin doni Cseh-lecionojn tie. Sed unue Lidja revojaĝis en printempo 1937 al Francujo por novaj kursoj. En aŭgusto ŝi partoprenis la Universalan Kongreson de Vieno, kie prelege ŝi emfazis la gravegan rolon de la patrinoj en la kontraŭ-milita edukado de siaj gefiloj, De Vieno ŝi revojaĝis al Varsovio, kie la situacio por judoj pli kaj pli akriĝis.

grand-eg-a 非常に大きい、偉大な、fine 遂に、終わりに、atingi 達する、到着する、interes-iĝ-ant-a 関心のある、rondo ロンド、集まり、グループ、inviti 招待する、doni 与える、Cseh-leciono チェ式教授法の講義、re-vojaĝi もう一度旅をした、printempo 春、aŭgusto 八月、Vieno ウィーン、preleg-e 講義で、emfazi 強調した、grav-eg-a とても重要な、rolo 役割、patr-in-o 母親、kontraŭ-milita 反戦の、eduk-ad-o 教育、ge-filo 息子と娘、situacio 状態、状況、judo ユダヤ人、pli kaj pli だんだんと、akr-iĝ-i 厳しくなる、

==========

［試訳］リディアのおさめた大きな成功は、遂にアメリカ合衆国の関心を持っているエスペランチストのグループにも聞こえ、彼らはチェ教授法の講義をしてもらうためにリディアを招待した。しかし、１９３７年の春に最初は新しいクラスのためにフランスをもう一度訪れた。８月には、彼女はウィーンの世界大会に参加し、自分の子供たちにたいする反戦教育で、母親が非常に大きな役割を果たすのであると強調する講義をした。ウィーンからはワルシャワに戻ってきたが、そこではユダヤ人にとっての状況はだんだんと厳しいものになっていた。

==========

==========

SANO

ガンをおさえる効果的な食生活

フランスの某紙からレオ・ロベールが
エス訳したもの　〔つづき〕

KANCERO KAJ NUTRADO: DEMANDO-PUNKTOJ

ANTAŬ NELONGE EN PARIZO KUNVENIS DUCENT SERĈISTOJ POR ESPLORI LA KOMPLEKSAJN RILATOJN INTER NUTRADO KAJ KANCER-DISVOLVIĜO.

Dume, kaj konsidere al la nuntempaj scioj, la fakuloj tamen akordiĝas por elmeti tri esencajn rekomendojn, rememorigataj de la profesoro Elio RIBOLI: Eviti obzecon, modere trinki kaj ofte konsumi fruktojn kaj legomojn.

obezeco?
(太りすぎ)

NOTU TION ĈI

FRUKTOJ KAJ LEGOMOJ ESTAS BONVENAJ

-Ne necesas rezigni pri la kutimaj manĝaĵoj. Nur sufiĉas pliabundigi kaj reguligi la konsumadon de vegetaĵoj. Diet-ŝanĝo nepre okazu iom post iom per enigo de fruktoj kaj legomoj ĉe ĉiun manĝon, aŭ per ioma pliamplek-sigo de la kvantoj.

-Prefere al fritaĵoj, oni kuiru la legomojn en vaporo, stufite, envolvite, aŭ en akvo.

-Dum matenmanĝo manĝu frukton aŭ trinku freŝan fruktosukon. Manĝetu frukton aŭ legomon, kiam malsateto incitas vin.

-Sandviĉo ! Aldonu salaton, tomaton, kukumeton ...

-Aĉetu legomojn kaj fruktojn dum la matur-sezono. Ili estas pli bongustaj kaj riĉenhavaj.

-Eksciu, ke la verdaj eksteraj legom-folioj entenas pli da vitaminoj ol la internaj blankaj.

-Ankaŭ la kompletaj cerealoj : pano, pastaĵoj, rizo, semolo, kaj la sekaj legomoj, pizoj, lentoj, faboj, blankaj kaj ruĝaj fazeoloj, ktp ...estas riĉaj fibro-fontoj. Pri tio pensu pli ofte!

P.S. -Tiu artikolo, verkita de Michèle DURCY, aperis la 6an de decembro 1994 en la regiona ĵurnalo SUD-OUEST. Ĝin elfrancigis L.Robert, kun permeso de la aŭtoro kaj de la ĵurnal-redakcio.

80-a UNIVERSALA KONGRESO en Tampereo (Finnlando)
S-ino UENAKA partoprenis.

大会会場にて　札幌 エスペランティスト と共に（中央が上中さん）

［エスペラントの旗］

かっこいい寸法

奥 村 林 蔵

私はソウルのエスペラント世界大会には行かなかった。
行った人から聞いた話に、
『大緑星旗が新調されていて、その寸法が今までのと違っていた。』
とのこと。
最近いただいた 『 Oomoto Jubileas 』の写真でそれがよく解った。
白地の部分が正方形でなくて横長である。私はこれに賛成です。
むかし緑星旗の寸法が問題になったとき、ＵＥＡは

横 ： 縦 ： 白地の辺 ＝ ３ ： ２ ： １
星の外接円の直径 ： 白地の辺 ＝ ７ ： １０
星の外接円の中心 ＝ 白地の正方形の中心

でどうでしょうか、それでいいでしょう とした。
私はそのとき、早速異議をとなえて、

白地は少し横長の、黄金分割比に
星の高さの中点が 白地の中心に

と書き送ったが、そんまま立ち消え。
まあ、ＵＥＡの案も解りやすいので、あと、抗議しないでいる。

（『日の丸』の中心は、横の１００分の１だけ、旗竿の方によせる．．．
という規定をご存知か。これでかえって見た目に中心にある。）

ソウル大会の写真を見て、私と同じ審美眼の持ち主のあるのを知って
満足した。（生野高校のエスペラント部の旗は私の考え通りに作った。）

１９９５年１０月［編集］前田米美　〒640 和歌山市小松原 6-1-6(Tel.0734-22-8660)

WAKAYAMA　Septembro, Oktobro 1995

VERDA MONTETO

Redaktita ĉe MAEDA Yonemi　(dumonata)　N-ro 88

”Ｌｉｄｊａ”（ザメンホフの末娘）　Heinz Dieter Maas, Germanio
ＴＥＪＯ の機関誌 Ｋｏｎｔａｋｔｏ を読む　No. 6

FUKUMOTO Hirotsugu

残りを２回に分けて読んでいきます。単語の解説が多すぎるようにも思いますが、これだけ書けば誰でも読めるでしょう。

<<< Ｌｉｄｊａ >>>

Heinz Dieter Maas, Germanio

No.6

En Septembro 1937 Lidja enŝipiĝis por Usono, kie oni atendis ŝin kun miksitaj sentoj, ĉar disvastiĝis la onidiro, ke ŝi estas mizera preleganto. Krom tio, esperantistoj kaj bahaanoj devis kunlabore organizi ŝian vojaĝon kaj restadon. Ambaŭ grupoj estis ĵaluzaj pri Lidja, kaj la esperantistoj ne fidis la bahaanojn, kiuj ja parolis

（単語の解説）

en-ŝip-iĝ-i 乗船する、船に乗る、 por Usono アメリカ合衆国行きの、 atendi 待っている、期待する、 miksi 混ぜる、 混合する、sento 感情、気持、kun miksitaj sentoj入り交じった気持で、dis-vast-iĝ-i 広がる、onidiro うわさ、風聞、mizera みじめな、悲惨な、preleg-anto 講演者、mizera preleganto 講演するのが大変下手な人、kun-labore 共同して、organizi 段取りをする、rest-ad-o 滞在、ambaŭ 両方の、ĵaluza 嫉妬深い、 fidi 信頼する、neceso 必要性、universala lingvo 世界

pri la neceso de universala lingvo sed apenaŭ interesiĝis pri Esperanto. Tio ŝanĝiĝis, kiam Lidja eklaboris en Usono, sed la sukcesoj ne estis tiel triumfaj kiel en Francujo. Por Lidja Usono estis tre fremda, surpriza mondo; ŝi ne bonfartis kaj estis malfeliĉa tie.

語、 apenaŭ ほとんど～ない、 interes-iĝ-i pri ～に関心がある、興味がある、ŝanĝ-iĝ-i 変わる、変化する、ek-labor-i 活動を始める、sukceso 成功、ne tiel ～ kiel ～～ ～～ほど～ではない、 por ～ ～にとって、 fremda 見知らぬ、見慣れない、 surpriza 思いがけぬ、驚くような、mondo 世界、bon-fart-i 健康に暮らす、元気である、mal-feliĉa 不幸な、

＝＝

［試訳］１９３７年の９月にリディアはアメリカ合衆国行きの船に乗った。そこでは人々は入り交じった気持ちで彼女のことを待ち受けていた。というのはリディアがとても講演が下手であるとい うわさが広がっていたからである。そのほかに、エスペランチストとバハイ教徒は共同で彼女の旅行と宿泊の段取りをしなければなりませんでした。両方のグループはリディアについて嫉妬心を感じていて、そして世界語の必要性については語るのに、エスペラントにはちっとも関心がないバハイ教徒達に対しエスペランチスト達は不信感を持っていました。それらのことはリディアがアメリカ合衆国で活動し始めると変化しましたが、フランスにおいてほどには充分な成功ではありませんでした。リディアにとってアメリカ合衆国は非常に見知らぬ、思いがけない世界であって、彼女はそこではあまり元気でなく、また幸福ではなかったのでした。

＝＝

En 1938 la politika situacio fariĝis pli kaj pli kriza kaj la pola registaro dekretis, ke polaj ŝtatanoj, kiuj ne revenos hejmen, perdos sian ŝtatanecon. Samtempe la restad-permeso

politika situacio 政治的状況、far-iĝ-i ～になる、pli kaj pli ますます、kriza 危機的な、pola reg-ist-ar-o ポーランド政府、dekreti 命令する、ŝtat-an-o 国民、re-ven-i hejm-e-n 家に帰る、perdi 失う、ŝtat-an-ec-o 国籍、sam-temp-e 同時

de Lidja malvalidiĝis kaj montriĝis, ke pro nescio, ŝi malobeis usonan leĝon, kiu malpermesas perlabori monon, eĉ se malmulte, dum la restado. Ĉial Lidja forlasis Usonon fine de novembro 1938.

に、restad-permeso滞在許可、mal-validiĝ-i 無効になる、 montr-iĝ-i 現れる → 分かった、pro ne-scio 知らないで、mal-obe-i 命令にそむく、 leĝo 法律、 mal-permesi 禁止する、 per-labori monon 金を稼ぐ、 eĉ se たとえ～でも、 rest-ad-o 滞在、 ĉial あらゆる理由で、 for-lasi 去る、後にする、fine de novembro １１月の終わりに、

＝＝

［試訳］１９３８年には政治的状況はますます危機的なものとなっていた。そしてポーランド政府は、家に帰らないポーランド国民はその国籍を失うと命令を出した。同時にリディアの滞在許可が無効になっていた。そして知らないこととはいえ、たとえわずかでも滞在中にお金を稼ぐことを禁止しているアメリカ合衆国の法律に違反していたことが分かってきた。それらのことでリディアは１９３８年の１１月の終わりにアメリカ合衆国を去ることになった。

＝＝

Reveninte hejmen ŝi sin dediĉis denove al tradukado kaj verkado. Interalie ŝi tradukis *Baháʼu'lláh kaj la nova epoko* en la polan lingvon. Tiutempe ekzistis precize tri bahaanoj en Pollando, kaj ĉar ili apartenis al tri malsamaj naciecoj, ili interkomunikiĝis nur en esperanto.

dediĉi sin ～ ～に身を捧げる、～に打ち込む、traduk-ad-o 翻訳活動、verk-ad-o 著述活動、inter-alie とりわけ、epoko 時代、 lingvo 言葉、 tiu-tempe 当時、ekzisti 存在する、 precize 正確には、aparteni 所属する、mal-sama 異なった、naci-ec-o 民族、国民、 inter-komunik-iĝ-i 相互に連絡する、お互いに意志疎通をはかる、 nur en esperanto エスペラントだけで、

＝＝

［試訳］家に帰ってから、リディアは再び翻訳と著述に打ち込んだ。特に彼女は「バハウラと新しい時代」をとりあげて、ポーランド語に翻訳した。その当時ポーランドに、正確には３人のバハイ教徒がおり、そして彼らは３つの異なった民族に属していたので、エスペラントだけで連絡しあっていた。

＝＝

＜バベルの塔＞　**［ヨーロッパの言語事情］**　我々はフランスではフランス語、ドイツではドイツ語、スペインではスペイン語が話されていると思っているのだけれど、実際はそうではない。フランスでもカタロニア語、バスク語、ブルトン語、アルザスのドイツ語（アルザス語）、プロヴァンス語等が話されており、またフランスの南半分ではオックス語（オクシタン語）が話されている。

フランスでは、大革命の時に「人口２３００万人のうち、６００万人はフランス語を全く理解せず、他の６００万人はフランス語をうまく話せない」状況であった。（「国家語を越えて」田中克彦Ｐ１０２）

フランスでは１９５１年のデクソンヌ法施行以来、フランス語以外の言語が地域語として認定されており、地域語重視はさらに強まる傾向にある。オクシタン語の地域には熱烈な地域主義者の作家が生まれている。南仏の中心都市の一つモンペリエに住む作家のマックス・ルケットさんはもっぱらオクシタン語で書いており、アメリカ、ドイツでも翻訳されて紹介されているが、フランスではほとんど知られていない。（朝日新聞、海外文化欄より）

ベルギーでの言語問題の重大さは有名であるが、言語と国家の領域は異なったものとなることから、問題は益々複雑になってくる。また言語の違いは民族の違い、宗教の違い、習慣・伝統・考え方の違いをも含んでいることから、言語問題は民族主義とからまっていく。

旧ユーゴスラビアの崩壊の悲劇は今も続いていて、国際社会のこの紛争に対して無力のように見える。このような悲劇はこれ以上増やしてはいけない。　（福本）

和歌山県立図書館での国際語関係図書一覧表

今回、図書館でエスペラント関連図書がどのくらいあるのか調査をしてみました。

県立図書館では下記のとおりでした。辞書類は４冊とも参考書として閲覧室にありますが、借り出しはできません。図書館を訪れる人の目につく学習書は１冊のみ（エクスプレスエスペラント語）であり、他の本は書庫に保存されている。請求すれば借り出すことができるが、普通の人はそこまでしないだろう。発行年の新しい学習書を寄贈する必要がありそうです。

その他の関連書では伝記のところにマジョリー・ボールトンの「エスペラントの創始者、ザメンホフ」が、言語のエスペラントのところに「新エスペラント国周遊記」、「地球時代のことばエスペラント」、「エスペラント体験」が見られるだけである。これは市民図書館と比べても少ないので、もう少し増やしたい。その他の本は比較的古いものが多く、書庫に保存されている。

（平成７年８月　　福本博次）

学習書　　１１冊　（閉架１０冊、閲覧室１冊－G11のみ）

G１　新エスペラント講座　第１巻　入門編、要文社、大島義夫、(1981)

G２　新エスペラント講座　第２巻　基礎編　要文社　大島義夫、(1981)

G３　新エスペラント講座　第３巻　研究編　要文社　大島義夫、(1981)

G４　基礎エスペラント、大学書林、川崎直一、(1979)

G５　エスペラント四週間、大学書林、大島義夫、(1977)

G６　改訂エスペラント捷徑、日本ｴｽﾍﾟﾗﾝﾄ学会、小坂けん二、(1973)

G７　エスペラント第一歩、白水社、城戸崎益敏、(1952)

G８　エスペラント翻訳のこつ、日本ｴｽﾍﾟﾗﾝﾄ学会、山川修一、(1978)

G９　エスペラント学力検定試験問題集、日本ｴｽﾍﾟﾗﾝﾄ学会、(1978)

G10　エスペラント作文教室、日本ｴｽﾍﾟﾗﾝﾄ学会、梶弘和、(1979)

G11　エクスプレスエスペラント語、白水社、安達信明、(1992)

その他の関連図書（国際語の解説書、ザメンホフの伝記、旅行記等）

１８冊　（閉架１１冊、閲覧室５冊ーA6, A13-A16のみ、その他２冊）

Ａ１　国際語の歴史と思想、毎日新聞社、二木紘三、(1981)

Ａ２　国際語概説、白水社、ﾋﾟｴｰﾙ・ﾋﾞｭﾙﾈｰ、和田祐一訳、(1964)

Ａ３　エスペラントの話、大学書林、三宅史平、(1976)

Ａ４　反体制ｴｽﾍﾟﾗﾝﾄ運動史、三省堂、大島義夫・宮本正男、(1974)

Ａ５　サルートン（ｴｽﾍﾟﾗﾝﾄでこんにちわ）、星雲社、横浜ｴｽﾍﾟﾗﾝﾄ会、(1985)

Ａ６　エスペラント体験、日本ｴｽﾍﾟﾗﾝﾄ図書刊行会、梅棹忠夫、(1994)（２冊）

Ａ７　ザメンホフ（ｴｽﾍﾟﾗﾝﾄの父）、岩波書店、伊藤三郎、(1950)

Ａ８　ザメンホフ　９－１（ザメンホフ原作全集完成記念仮想講演会）、
永末書店、いとうかんじ、(1983)

Ａ９　ザメンホフ　９－２（ＰＶＺ普及のためのＣＭ小説：
伝説ぬきのザメンホフ）、永末書店、いとうかんじ、(1983)

Ａ10　エスペラント国周遊記、朝日新聞社、出口京太郎、(1965)

Ａ11　世界をひとつの言葉で（ザメンホフ伝）、国土社、朝比賀昇、(1982)

Ａ12　中国の緑の星（長谷川テル　反戦の生涯）、朝日新聞社、高杉一郎、(1980)

Ａ13　エスペラントの創始者　ザメンホフ、新泉社、ﾏｰｼﾞｮﾘｰ・ﾎﾞｰﾙﾄﾝ著、水野義明訳、(1993)

Ａ14　新「エスペラント国」周遊記　中南米編、新泉社、水野義明、(1991)

Ａ15　地球時代のことばｴｽﾍﾟﾗﾝﾄ、ｴｽﾍﾟﾗﾝﾄ図書刊行会、土居智江子、(1991)

Ａ16　２０世紀とは何だったのか、朝日新聞社、なだいなだ・小林司、(1992)

（以下、紀南分館、移動文庫であり和歌山市では見られない――２冊）

Ａ17　危険な言語、岩波書店、ｳﾙﾘｯﾋ・ﾘﾝｽ、栗栖継訳、(1975)（紀南分館）

Ａ18　嵐の中のささやき（炎の青春）、新評論、長谷川テル、高杉一郎訳、(1980)、
（紀南分館１冊、移動文庫１冊）

辞書類　４冊　（参考書として閲覧室で利用は可能、貸出不可）

Ｖ１　エスペラント基礎１５００語、大学書林、三宅史平、(1975)

Ｖ２　日本語エスペラント辞典（普及版）、日本ｴｽﾍﾟﾗﾝﾄ学会、宮本正男、(1983)

Ｖ３　エスペラント小辞典、大学書林、三宅史平、(1976)

Ｖ４　新選エス和辞典、日本ｴｽﾍﾟﾗﾝﾄ学会、岡本好次原著、貫名美隆・宮本正男共編、(1979)

（その他の人工語について　　２冊）

A19　新しい世界語ボアーボム、民生館、岡本普意識、(1960)

A20　世界語学論、民生館、岡本普意識、(1964)

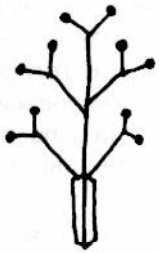
検索して見つかるものは次のとおりである。

検索方法１

始め　→　一般書　→　分類　→　言語　→　その他の諸言語

→　国際語［人口語］・エスペラント　　３０冊

Ｖ１～Ｖ４、Ｇ１～Ｇ１１、Ａ１～Ａ９、A14～A15、A17～A20



検索方法２

テーマによる　　始め　→　一般書　→　分野・

→　（エスペラント）　→　小分類　＜エスペラント＞　２０冊　Ｖ１、Ｇ１～Ｇ６、Ｇ１１、Ａ３～Ａ７、A10、A12～A15、A17、A18　＜エスペラント－作文＞　１冊　G10のみ

＜エスペラント－辞書＞　１冊　Ｖ２のみ　＜エスペラント－辞典＞　２冊　Ｖ３、Ｖ４

→　（国際語）　→　２冊　Ａ１、A20

→　（人工語）　→　見つからず

核実験について

TIEL OPINIAS IU FRANCO

Eble vi atendas, ke mi traktu pri la decido de nia respublikprezidento denove okazigi nukleajn proveksplodojn. Memkompreneble mi ne volas, nek povas, silenti pri tia decido, kiun mi opinias abomeninda kaj tute ne pravigebla laú homeca vidpunkto; mi hontas esti civitano en lando, kiu laú mi senhonoriĝas alpreninte tian kontraúcivilizacian decidon. Mi jam plurfoje subskribis peticion por protesti kontraú tio, partoprenis en surstrataj protestokunvenoj; tamen sciante, ke ni, simplaj individuoj, havas nur etan influon. Mi atente aúdas pri reagoj de la eksterlandaj registaroj, kaj centprocente akordiĝas kun agado de Greenpeace kaj aliaj pacistoj. Naúzas min la nuntempa propagando sur ondoj de televido kaj radio, kiuj servuteme dissendas la oficialajn argumentojn, evidente subtenaj, kaj tute silentas pri la kontraúaj agoj, manifestacioj, deklaroj, k.a. , kiuj okazas ne nur eksterlande sed ankaú multloke enlande. Naúzas min la insisto martele enkapigi la ideon, ke tiaj eksplodprovoj necesas por atingi al plua serĉado cele al miniaturigo de la bomboj; ankaú por certigi sekurecon de nia lando - sekureco per teroro! ; ankaú por pli trafe ebligi definitivan forlason de la nukleaj armiloj (tia argumento atingas kulminon en hipokriteco!); ankaú por paco pli firme certigi en la mondo. Jes ja, ĉion mi aúdis!...

ある フランス人の意見

Léo ROBERT

お待ちかね、フランス大統領がまた核実験を決めた話にうつります。勿論私はそんな決定を望みもしませんし、黙っているわけにはまいりません。これはおぞましいことであり、人道的な観点からしても、全く正当化できません。そんな反市民的な決定をして名誉を失墜した国の、国民であることを私は恥ずかしく思います。私も何回か反対請願書に署名したし、街頭反対集会にも参加しました。しかし私たちは単なる個人であってその影響力は知れたものです。外国政府の反応も注意して聞いています。グリンピースやその他の平和主義者の活動には100パーセント共感をもっています。今のテレビ、ラジオの放送には納得できません。おしつけがましく公式論を放送し、明らかにそれを支持しています。そして反対の動きやデモや宣言などは完全に黙殺です。反対の動きは、国外のみか、国内でもあちこちで起っています。この核実験は、爆弾をミニチュア化する研究に必要だという思想をハンマーでたたきこむみたいにくりかえすのもなさけないこと。これはまたフランス国家の安全の確保 ― テロによる安全確保! ― であり、核兵器の廃絶をより有効にするという(この論法は偽善の最たるもの!)そして世界平和を確立するという。ハイハイすっかり聞きました。(憶えと

ますよ!)

Aparte fortaj estas reagoj en Aústralio kaj Nov-Zelando; sed laú niaj informiloj multe malpli forte reagas Japanio. Ĉu vere?... En via lando ankoraú freŝe restas en memoro la detruoj en Hiroŝima kaj Nagasaki, kaj oni proprasperte ĝuste scias, kian teruran danĝeron nukleaj armiloj prezentas kontraú homaro. Ankoraú nun klare revenas antaú miaj okuloj la apokalipsaj bildoj, kiujn mi iam malkovris vizitante la memormuzeon en Hiroŝima. Kaj de tiam "progresoj" ebligis produkti mortigilojn ankoraú pli trafe efikajn !...

Por alpreni sian decidon nia respublikprezidento, Jacques Chirac, laúdire sekvis konkludojn de komisiono el fakuloj. Sed kiaj fakuloj ?... Scientistoj, generaloj, armilfabrikantoj, dekstrulaj politikistoj... Inter tiuj, neniu reprezentanto de la pacistaj asocioj, tamen jam delonge ekzistantaj kaj aktivaj en nia lando. Li tute ne aludis pri eventuala konsulto de la popolo per referendumo pri tiu aparte grava problemo, kion verdire ebligas nia konstitucio, sed bedaúrinde ne devige. Pri tiu temo okazis sond-enketoj jam de pluraj jaroj; eble iom "ĝenaj" tial, ĉar ili konstante montras, ke firma plimulto el la landa enloĝantaro certe pretas voĉdoni malfavole al nukleaj eksplodprovoj. Ĉu vera respubliko estas reĝimo, en kiu la prezidento tenas ekscesan privilegion tiel disponi pri vivo de la tuta popolo, sola decidi pri eĉ militdeklaro? Li rajtas konsulti eĉ ne la parlamentanojn, laúleĝajn reprezentantojn de la popolo, kaj tiuokaze li uzis tiun rajton. Satira ĵurnalo moke skribis, ke en Francio politika reĝimo estas tiu de "respublika reĝeco"; grandparte prave, kvankam tra la mondo ĝi ĝuas famon, kiel vera demokrata reĝimo. Sed kio ĝuste estas demokratio ?...

(Ekstraktita el lia letero de 29 aúgusto. 1995) (1995年8月29日の彼の手紙から抜すい)

オーストラリアとニュージランドは特に強く反対していますが，フランス国内の情報では、日本の反対はずっと弱いそうで、ほんとうですか？… 日本ではヒロシマ，ナガサキの被爆の記憶はまだ新しいし、核兵器の、人類に対してどんなにおそろしい危険をもたらすか、独自の体験でよくご存知です。あのヒロシマの資料博物館を訪問して，はじめて見た黙示録(人知をもって知り得ないことを神が愛をもって、あおいをとり去ってあらわし示す文字)的な光景は、今も私の眼にはっきりやきついています。そして，それ以後も，この殺人兵器をもっと有効なものにして生産しようという「進歩」が行われているのです！…

フランス大統領ジャック・シラクは、あの決定を採用する時、聞くところによれば専門家で構成された委員会の結論に従ったといわれます。しかしどんな専門家ですか？… 科学者，将軍，兵器製造業者，右翼政治家 … この中には平和運動団体の代表者はいません。そんな団体はフランスにはもうずっと前からあって活動していたのに。大統領は，国民投票によって，その当時の国民の意見を聞くということに全然ふれませんでした。特に重要な問題については、フランス憲法によって国民投票はできます。但し残念ながら義務化されてはいません。このテーマについては数年前，世論調査も行われました。これら世論調査は，核実験に対し，国民の動かめ大部分が確実に反対票を投じるから、ちょっと都合がわるいのでしょう。真の共和国とは，その大統領が、勝手に国民の生活を左右し，ひとりで宣戦布告をきめるような特权をもった政体なのですか？ 大統領は、法的な国民の代表者である国会議員の助言さえ、拒否する权利があって，今回その权利を行使したのでした。風刺新聞はそれをあざけって、フランスの政体は「共和的王国だ」と。大体その通り、世界でも有名な民主政体だといわれているのに。民主政体とはほんとうは何なのでしょう？

世界共通語

エスペラント（初級）通信講座

エスペラントは　世界百数十か国　約百万人によって実用されています。

民族語は　それぞれの民族の美しい作品です。　エスペラントは民族語にとって代わるのでなく、異なる母語を話す人々をつなぐ架け橋のことばです。

この世界共通語で、世界のさまざまな市民と、趣味の交換などの　いろんな問題についての意見交換、文通、観光対話旅行などで交流を深めてみませんか。あなたの視野が広がり、より人生を楽しく味わえることでしょう。

毎年世界各地で　世界大会が開かれ、初心者でもエスペランチストなら　個人の資格で参加できます。　この初級講座で充分です。　観光をかねて一緒に行きませんか。

☆ 申し込み先

〒640　和歌山市　直川　2506-2　　江　川　治　邦

TEL．０７３４－６１－２２３４　（詳しい説明書を送ります。）

☆ 受講要領

（受講料）　テキスト代と通信費のみで
2000円　（80円切手25枚でも結構です。）

（講習期間）　約６か月（開始・終了は、通信講座のため、個人の自由です。）

受講ご希望の方は、ハガキに、住所・氏名・電話番号を書いてお申し込み下さい。

１９９５年１２月［編集］前田米美　〒640 和歌山市小松原 6-1-6(Tel.0734-22-8660)

WAKAYAMA　Novembro, Decembro 1995

VERDA MONTETO

Redaktita ĉe MAEDA Yonemi　(dumonata)　N-ro 89

"Ｌｉｄｊａ"（ザメンホフの末娘）　Heinz Dieter Maas, Germanio

ＴＥＪＯ の機関誌 Ｋｏｎｔａｋｔｏ を読む　Ｎｏ．７

FUKUMOTO Hirotsugu

リディアの悲劇的な死を含め、ザメンホフの家族達の運命は悲劇的であった。（最終回）

<<< Ｌｉｄｊａ >>>

Heinz Dieter Maas, Germanio

No.7

En septembro 1939 eksplodis la milito kaj Lidja havis la saman sorton kiel ĉiuj polaj judoj. Ŝi devis vivi en la varsovia getto, kie ŝi donis lecionojn pri la angla lingvo por vivteni sin. La esperantistoj, kiuj ne forgesis Lidjan, sendadis pakojn al ŝi. Germana soldato, mem esperantisto, klopodis helpi Lidjan ebligante fuĝon, sed ŝi rifuzis.

（単語の解説）

septembro 九月、 eksplodi （火山など）爆発する、（戦争など）突発する、milito 戦争、 sama 同じ、sorto 運命、 kiel ～のように、 polaj judoj ポーランドのユダヤ人、 devi しなければならない、義務がある、vivi 生活する、varsovia getto ワルシャワのゲットー（ユダヤ人街）、leciono 授業、課業、la angla lingvo 英語、 viv-ten-i sin 生計を立てる、for-gesi 忘れる、 sendi 送る、 pako 荷物、soldato 兵士、klopodi いろいろ骨をおる、ebl-ig-ant-e可能にしながら、fuĝo 逃亡、rifuzi 拒否する、

＝＝＝

［試訳］１９３９年の９月に戦争が勃発し、リディアも他の全てのポーランドのユダヤ人と同じ運命であった。彼女はワルシャワのゲットーで暮らさなければならなかった。そこでリディアは生活のために英語の講習を行った。リディアのことを忘れていないエスペランチストたちは、彼女に荷物を送り続けた。彼自身エスペランチストであったドイツの兵士は、リディアの逃走を可能にして助けようとしたが、彼女はそれを拒否した。

＝＝＝

En 1942 nazioj komencis grandskalan ekstermadon de judoj en Varsovio, kaj en aprilo 1943 la varsovia getto estis definitive "likvidita". Supozeble tiam ankaŭ Lidja estis deportita al la koncentrejo Treblinka kaj tie mortigita, kiel pli ol miliono da samsortanoj.

（単語の解説）

nazia ナチスの、komenci 始める、grand-skala 大規模な、eksterm-ad-o 皆殺し、aprilo ４月、definitive 決定的に、最終的に、likvid-i 精算する、片をつける、supoz-eble おそらくは、ankaŭ もまた、deport-it-a 追放された、koncentr-ej-o 収容所、mort-ig-it-a 殺された、miliono 百万、sam-sort-an-o 同じ運命の人、

＝＝＝

［試訳］１９４２年にナチスがワルシャワのユダヤ人の大規模な皆殺しを開始した。そして、１９４３年の４月にはワルシャワゲットーは決定的に消滅させられてしまった。その時リディアもまたトレブリンカ収容所に連れて行かれ、１００万人を越える他の同じ運命の人々と同様、そこで殺されてしまったと想像される。

＝＝＝

Lidja luktis por la unueco de la homaro, la interfratiĝo de la homoj kaj la emancipiĝo de la virinoj. Ĉio ĉi radikis

lukti 格闘する、戦う、unu-ec-o 統一、hom-ar-o 人類、 inter-frat-iĝ-o お互いに兄弟になる、友好、emancip-iĝ-o 解放 ĉio ĉi これら全てのこと、radik-i 根付

en la homaranismo proklamita de ŝia patro kaj en la instruoj de la bahaa kredo. Ŝi apartenas al la granda armeo de pacaj batalantoj, kiuj for-oferis sian vivon en la lukto por pli luma estonteco. Lidja Zamenhof, kar-memora al esperantistoj kaj bahaanoj, restos neforgesita.

hom-ar-an-ism-o 人類人主義、 proklam-it-a 公表された、instruo 教え、bahaa kredo バハイ教の、 aparteni 属する、armeo 軍隊、隊列、paca batal-ant-o 平和の戦士、 for-ofer-i捧げ尽くす、 pli luma より明るい、 est-ont-ec-o 未来、kar-memor a 懐かしい、baha-an-o バハイ教徒、ne-forges-it-a 忘れされない、

［試訳］リディアは人類の統一、人々の友好、女性の解放のために戦った。これら全てのことは彼女の父親が宣言した人類人主義と、バハイ教の教えに根ざしていた。彼女はより明るい未来のための闘争に自分の命を捧げた平和の戦士達の隊列に属している。リディア・ザメンホフはエスペランチスト達や、バハイ教徒にとって懐かしく、忘れられない人として心に残るでしょう。

(Kalman Kalocsaj, 1931)

［試訳］（カロマン・カロチャイの詩、1931）

Lidja Zamenhof, kor' fervora
Vartante patran sent–heredon,
Jen, serĉas sorĉan sav–rimedon
Por mond' amara kaj dolora.

リディア・ザメンホフは熱心に
父の気持ちを受け継ぎ育て
厳しく苦しい世界のために
魔法の解決策を捜す

Kaj kun entuziasmo kora
Servadas la Bahaan kredon,
Lidja Zamenhof, kor' fervora
Vartante patran sent–heredon.

リディア・ザメンホフは熱心に
父の気持ちを受け継ぎ育て
熱烈な心でもって
バハイ教の信仰に服す

El sent' profunda, pens' valora	リディア・ザメンホフは熱心に
En sino havas riĉan bedon.	深い気持ちと貴重な思索で
El ili plektas flor-bukedon:	胸の奥の豊かな苗床に
Novelojn kun enhav' trezora,	花束を編み出し、そして
Lidja Zamenhof, kor' fervora.	宝物に満ちた物語を編む

＝＝

koro 心、気持ち、心臓、fervora 熱意のある、熱心な、varti 育てる、保育する、patra 父親の、sent 感じ、heredo 相続、jen ほらここにある、serĉi 捜す、sorĉa 魔法の、sav-rimedo 救いの方法、mondo 世界、amara 苦い、厳しい、dolora 苦しい、痛い、
entuziasmo 熱烈、kora 心からの、servi 仕える、尽くす、
profunda 深い、valora 価値のある、en sino 胸に、体内に、bedo 苗床、花壇、plekti 編む、よりあわせる、bukedo 花束、 novelo （中編）小説、 enhavo 内容、 trezora 宝の、

（Ｌｉｄｊａ　Ｚａｍｅｎｈｏｆ　終わり）

＝＝

＜バベルの塔＞　［日本語と大阪語？？］

江戸時代には諸国から江戸に出てきた人たちはどんな言葉で話し合ったのだろうか。今でこそテレビ・ラジオ・新聞・雑誌の普及で共通日本語といえるものが出来ているが、当時はそんなものは無かったのではないか。

２０年以上前に東京に研修に行ったことがあるが、その時東北の県から来ていた人の東北弁はわかりにくくて、耳に慣れていなくて理解するのが難しかった。高校の時、修学旅行で九州へ行った時、運転手同士の話が分からなかった。

もしもは歴史にないのだけれど、もしも日本で各地方が独立の国家を形成していたとしたら、沖縄語、アイヌ語は別としても、大阪語、名古屋語、東北語などができていたのだろうか。国家を背負った言語となっていたら、各々の言葉は語彙や言い回しに独自性を出して、ヨーロッパのロマンス諸語以上に違った言葉になっていたのかもしれない。（福本）

BRITIO

Policanoj kun problemoj

Nenio homa estas perfekta, sed la brita polico estas, verŝajne, inter la pli bonaj policoj; kutime sekvas regulojn, respondas al alvokoj de ordinaraj civitanoj, penas ne nur kapti krimulojn, sed diversmaniere helpi nin ceterajn kaj, grave, preventi krimojn kaj akcidentojn. Mi mem, kiam mi aĉetis mian hejmon, ricevis, tute senpage, valorajn konsilojn pri dom-sekureco de la loka Oficiro Krim-preventa, eĉ skribitan raporton. Mi memoras amikinon el fora lando, kiu unue tre timis, poste miris, kiam surstrate mi iris al policano por peti informon, kaj li ĝentile informis...

Sed, kelkfoje...

Nu, pri aresto de krimuloj: policanoj en suda Anglio ricevis averton, ke iu danĝera ulo, kun pafilo, sidas en aŭtomobilo, kaj gvatas. Tuja respondo. Rapidaj aŭtoj. Sireno. Radioaparatoj. Kuraĝa preteco. Kaj jen, temis pri hom-granda kartona silueto, ia reklamilo por filmo...

Pri savo de civitano en danĝero: policanoj rimarkis belan virinon, lukse vestitan (ora robo kun multaj kvastoj, brile verdaj ŝtrumpoj!), kiu flosis sur parka lago en Brighton – jes, Brajtono, urbo de la 74a universala kongreso – certe drononta! Bravaj policanoj senhezite pretiĝis por savi ŝin, eble ĵus enfalintan post tutnokta festo kun iom da kemiaj gajigiloj ... sed ŝi klarigis kohere ke ŝi kuŝas komforte sur giganta plasta folio akvolilia, ĉiun merkredan matenon dum duonhoro. Kial? En ia artfestivalo ŝi ludas la rolon de vizitanta marvirino...

Kaj kiam temas pri prevento: bonaj civitanoj ne hezitu averti la policon, se io ŝajnas suspektiga; iuj policanoj ja deĵoras tra la nokto. Do, en mez-anglia urbo Market Drayton, preventemaj civitanoj telefonis la policejon, ĉar silentaj, sinkaŝantaj figuroj ŝteliris de ĝardeno al ĝardeno, proksimiĝis al ĉefpordoj. Kun kia fia intenco?

Fakte, temis pri kelkaj nokte deĵorantaj policanoj, kiuj kaptis la okazon, dum siaj rutinaj rondiroj, kviete ŝovi tra pordotruojn demandarojn pri krim-preventado! Marjorie BOULTON

Grava dilemo: ĉu policisto rajtas demeti sian kaskon por la bono de l' homar'?

"Faktoj kaj Fantazioj"のマジョリー・ブルトンさん まだまだお元気で MONATO誌 10月号に、上のような記事をのせていましたのでご紹介。

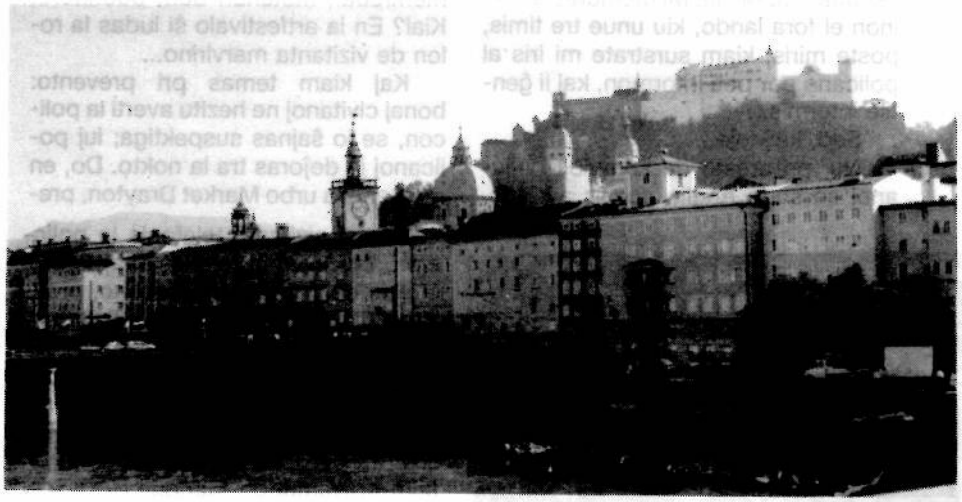
(前田の抽訳はP. 8)

エスペラントでの出会い（1995年）

FUKUMOTO Hirotsugu

１０月の２２日成田発、１１月３日帰国、１３日間の日程で組まれたヨーロッパ５カ国の海外地方行政関係視察団に参加して、初めての欧州旅行をすることができた。近畿日本ツーリストの団体視察旅行なので、添乗員付き、すべて手配済みの楽々旅行ではあったが、やはり駆け足旅行ということで、自由時間も少なくゆっくりと見物する時間がなくて残念であった。

旅行先での自由時間の様子が分からなかったこと、また色々と忙しく連絡することもできないまま、何の準備もできず出発することになってしまった。ただホテルでの宿泊地になっている、都市のエスペランチストの名簿を、パスポルタ・セルボ、ＳＡＴ（世界無民族協会）、ＵＥＡ（世界エスペラント協会）のリストよりコピーして持っていった。結果として、３カ所でエスペランチストに合うことができ、良かったと思っている。以下その様子を簡単に報告したい。



（橋から小山の上の城塞、旧市街を見る）

（１）ザルツブルグ（オーストリア）

川沿いの高台に城塞もあり、古い教会、大聖堂なども多く、大都市でないがなかなかの観光地である。ウィーンより西の、ドイツへ向かう国際特急列車で約３時間のところにある、ドイツとの国境に近い町である。２泊できたので、着いた夕方ホテルの電話帳でＳＡＴの名簿にただ一

人載っていたエスペランチストの電話番号をさがした。フロントでその住所の位置を尋ねるとホテルから約４～５キロ程度であるという。これならあまり負担もかけないだろうし、もし家を訪問することにしても、タクシーで行ける距離である。

電話をしてみると、幸いにして本人と話すことができて、翌日会えることになった。彼は３０何歳かで今定職が無いとのことであった。次の日は、山間の町サンクト・ゲオルゲンを訪問することになっていたので、そこから帰ってくる予定の時間に、ホテルで待ち合わせることにした。その後は夕食まで自由時間となっていて、自分たちで街を見学することにしていたので、時間がとれたのである。

少し遅れたが２時過ぎにホテルに帰ることができ、彼と外へ出た。写真のとおり身長１８５ｃｍはありそうな大男であった。駅前のカフェ（喫茶店）でコーヒをのみ少し話をした。彼の名前はＪＡＸで、私と同じく余りおしゃべりでない。エスペラントも話す機会が少ないのか、どもるようにポツリ・ポツリと話す。エスペラントの行事、大会にも余り参加していないとのこと。お互いに話が弾まない。

（城塞の上から街を見て）

山の上の城塞を見たいこともあって、誘ってケーブルカーの駅までタクシーを走らせた。彼は４時頃までしか時間が無いとのことで、上の城塞に登り、場内を一回り、また建物の中でスライドをやっていたので見ていたが、街の様子や城の内部、四季折々の場面を映し出してきれいであった。時間も少ないので、みな見終わらずに外に出た。この写真は城塞の上で、町並みを背景にしてとったが、写真ではほとんど分からない。昼間は天気が良くて暖かかったが、朝晩は冷えて現地の人はコートを着ている人が多かった。時間が無くなったのでケーブルカーの上の駅で彼と別れた。別れる前に彼はポラロイドカメラを出してきて、記念に私の写真を１枚撮った。写真を撮るのが下手で、良いものができないうえに、彼を写しているのはこの写真のみである。

（次号へ続く）

［マジョリー・ブルトンさんの記事の訳］

イギリス

問題をかかえる警官

人間には完全ということはないが、イギリスの警察はそのうちでも、まだましなうちにはいるようで。規則はよく守り、一般市民の呼びかけに答え、犯罪者を逮捕するだけでなく、その他のことでもいろいろと助けてくれます。大事なのは、犯罪と事故を preventi 未然に防いでくれること。

私事ですが、私が家を買った時、その地方の防犯担当の警官が、家の安全性について貴重な助言を無料で、しかも書類までつけて伝えてくれました。私が路上で、警官にものを尋ねたら、親切に教えてくれたのですが、それを見ていた外国の友達は、はじめとてもこわがり、あと、ふしぎそうな顔をしていました。

しかし時には．．．

犯人逮捕の話ですが：　ある南イギリスの警官たち、銃をもった危険な人物が車の中からあたりをうかがっているという警報を受けました。直ちに応答、高速車にとびのり、サイレンをならし、無線連絡をし、勇敢な対応。現場についてみると、それは人物大のただの紙人形、ある映画の宣伝でした。

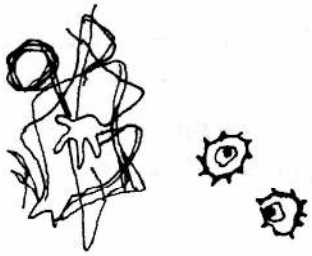
市民を危機から救う話：

美女がまさに溺れようとしているのを警官が発見。（ふさ飾りのいっぱいついた金色の長い服に、あざやかな緑色の靴下！という）華美な服装で、ブライトンの公園の池に浮いていました。－－－そう、第７４回世界大会のあのブライトンです。勇敢な警官たちは直ちに救助にむかいました。多分、夜通しの祝賀会のあと若干の覚醒剤をのんで、今落ち込んだらしいのです．．．彼女がむきになって言うには、毎週水曜日の朝、大きなプラスチックの水れんの葉っぱの上で、半時間ゆっくり横になるのだという。何故？それは、ある芸術祭で、彼女は訪れる人魚の役を演じるのだという。

防犯の話：

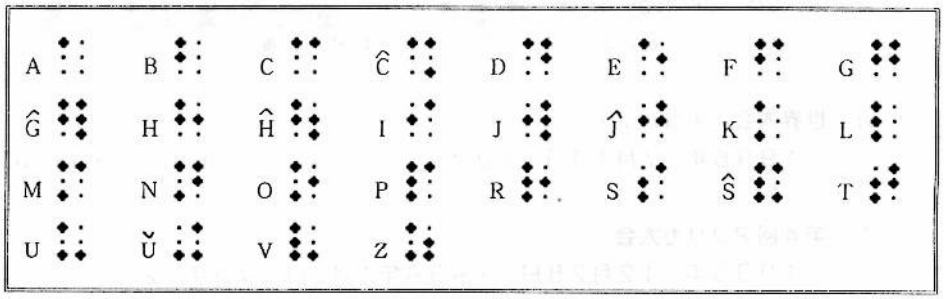
善良な市民は、あやしいと思ったらすぐ警察に知らせるべきです。夜中じゅう勤務に就いている警官も何人かいます。だから、中世英国のまちマーケット・ドライトンでは、用心深い（何人かの）市民が警察に電話をしました。物言わぬひそやかな人影が、家々の庭から庭へと忍びあるき、表の戸口に近づいてくるというのです。何かいやらしいねらい？

事実は、夜勤の警官数人が定時巡回のついでに集中する防犯問題をそっと調べようと、戸の穴からのぞいたのでした。



エスペラント点字

点字（Ｂｒａｊｌｏ）でエスペラント文を書きましょう。
まずその２８文字を覚えましょう。



問題　次の文を読んで、答えを点字で書きなさい。

'95 ZAMENHOF-FESTO 12/16土

1年のごぶさた　**ザメンホフ祭**　1年のごぶさた

◎日時：１９９５年　１２月１６日（土）
~~１３：００~~ 12:00～１５：００

◎会場：昨年と同じ　サロン「会」
市内、元寺町南の丁
TEL　０７３４－３１－３００４
長崎屋の西南約１００メートル

◎会費：当日会費１０００円（軽食）

その他の会費の受付：牛島さん
１９９６年度　緑丘会　３０００円
ＪＥＩ　６４００円
ＫＬＥＧ　３８００円

来年、大会あちこちで

☆ 世界大会 （UEA）
　１９９６年　7月２０日～２７日　　チェコ・プラハ

☆ 第１回アジア大会
　１９９６年　8月２２日～２５日　　中国・上海

☆ 世界大会 （SAT）
　１９９６年　7月１３日～２０日　　SANKT－PETERBURGO

☆ 第４回アフリカ大会
　１９９５年　１２月２８日～１９９６年１月２日　タンザニア・
　　キリマンジャロ（エスペラントの世界より）

☆ 第１回モンゴル大会
　１９９６年　8月１８日～２５日（予定）　モンゴル・ウランバートル
　　（エスペラントの世界より）

（国内）

□ ひろしまへきんさい（日本大会）
　１９９６年　8月9日～１１日　　広島市　国際会議場

□ 第４４回関西大会
　１９９６年　6月8・9日（予定）　豊中市

和歌山緑丘会

Wakayama Klubo VERDA MONTETO

会費：年　３０００円、　家族・学生　1人　１０００円
払込は　郵便振替をご利用ください。
　振替番号　００９６０－８－３６３０
　名　　義　和歌山緑丘会
会計係　牛島美恵子
　〒６４０　和歌山市　狐島　６５の１２
　ＴＥＬ　　０７３４－５５－１０８８

1996年 1月［編集］前田米美　〒640 和歌山市小松原 6-1-6(Tel.0734-22-8660)

WAKAYAMA　Januaro, Februaro 1996

VERDA MONTETO

Redaktita ĉe MAEDA Yonemi　(dumonata)　N-ro 90

エスペラントでの出会い（1995年）その2

FUKUMOTO Hirotsugu

ウィーンではエスペラント博物館のそばをバスで通ったのに立ち寄ることができなかった。またミュンヘンでも自由時間が少なく誰にも会えなかった。ただミュンヘンのホテルを出発するときに、たまたま入ってきたタクシーの横を見ると、なんとエスペラントの宣伝が書かれているではないか。バスが出るところだったので、あわててタクシーの窓ガラスをたたいてエスペラント

（ホテルのロビーで、カバンにはエスペラントの緑の星のシールを貼っている）

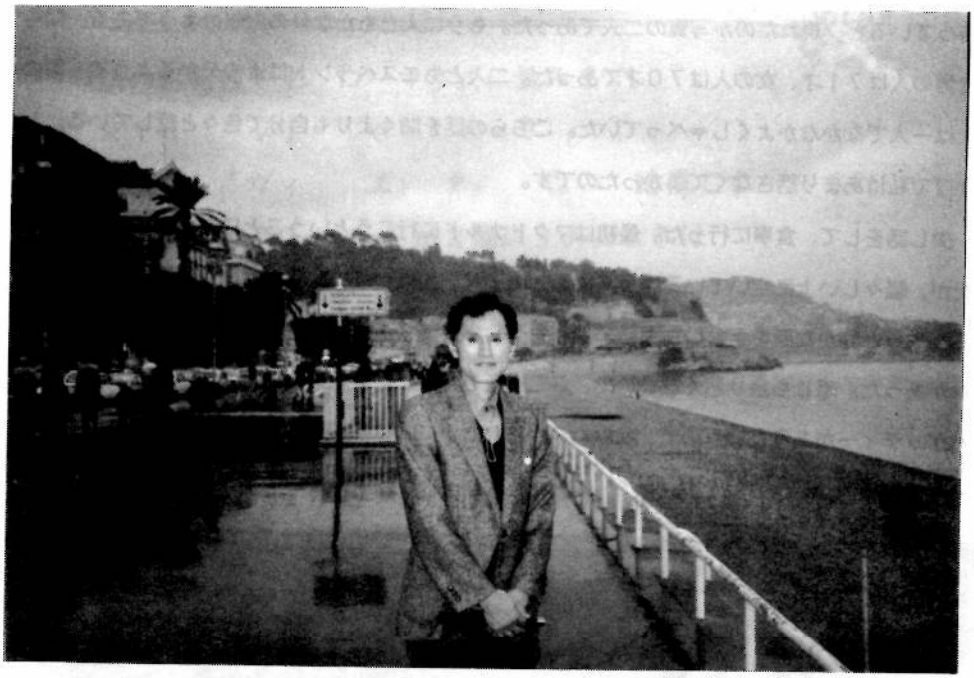
（ホテルの前の大通りに沿って作られている公園、噴水もきれいだ）

で話しかけてみた。しかし運転手はエスペランチストではなく、とても残念であった。

機会がなく日程が過ぎていくので、フランスに入ってから連絡を取ろうと思った。ニースでは一泊であったが、ホテルに着いてからサートの会員に連絡してみることにした。ザルツブルグのホテルから市内電話したときに、割高の金額を取られたので、今度は公衆電話を使ってみようと考えた。ところがコインが使えない、カードのみの電話機である。ホテルのフロントに戻って、テレホン・カードを買おうとしたが売っていない。聞くと近くの店で売っているというので、そこに行った。５０度数のを買って、試してみた。うまくつながって、本人とエスペラントで話すことができた。

他の人とも連絡を取ってみるということなので、また１時間ほど後で再度連絡することにして電話を切った。そのあとホテルの前の通りを散歩し、海岸へ出た。通りには公園もあり、噴水な

（この時雨は止んでいたが、まもなく降り出した。堤防と言うよりは広い歩道になっている）



どがあって、並木の豊かな気持ちの良い場所である。あいにくとフランスに入ってからは、空模様が悪くなり、ホテルに着く頃には少し雨もばらつきだしていた。この大通りは海岸から２００ｍ　程離れて、海岸に並行して走っている。浜辺に出ると期待に反して、砂浜ではなく３～５ｃｍ程の玉砂利ばかりであった。これでは白浜の海岸の方がよっぽど素晴らしいと思った。すでに１０月の終わりでシーズンは過ぎており、観光客は少ないということであったが、人出はまばらとは言えず、まあまあ賑わっていた。この時期にこれでは、夏ごろは本当に一杯に成るであろうと推測できた。雨も降ってきたので、ホテルに戻った。

時間が来てもう一度連絡しようと、外の公衆電話に行った。ところが今度は電話がいっこうにかからない。あせって何度も試みるが同じことである。時間は過ぎて行くし、何ともならないので、しかたなくホテルに戻って、部屋からかけ直した。彼によると急なことなので、二人しか行

くことができないとのこと。ホテルに来てもらうことにした。みんなとの夕食をやめてロビーで待っていると、現れたのが写真の二人であった。もう二人ともかなりのお年のようである。聞くと男の人は７１才、女の人は７０才であった。二人ともエスペラントはよく分かるようで、男の人は一人でなかなかよくしゃべっていた。こちらの話を聞くよりも自分で色々と話している。おかげで私はあまり話さなくてよかったのです。

少し話をして、食事に行った。最初はマクドナルドに行こうということになって、店には入ったが、騒々しい上に空いている席が無い。その上若い人ばかりで、我々は少々場違いな感じである。もっと静かな所をと言いながら、通りを少し歩いて横道に入ると、誰も客のいないレストランがあった。感じも余り悪くないので、ここに落ち着いた。メニューが分からない。パスタかスパゲッティーがあるというので、私はパスタにした。二人は魚料理に、ごはんが付けられている一皿である。

（レストランで、緑の星を写すことを忘れない。さすがベテラーノである。）

今から思い出してみると何を話したのか覚えていない。ＳＡＴの会員に若い人が少ないという話などや、治安の悪いことなどであった。ニースでも余り治安が良くなく、彼も３回ほど被害にあったとのことである。また和歌山に来たことのあるロベールさんのことを訊ねたが知らないとの返事であった。７時過ぎの待ち合わせだったので、食事が終わってみると、もう９時を越していた。彼の家は少し離れていてバスで３０分程だが、１０時を過ぎると夜の４コースしかバスが通らないので、山を越えて回るバスに乗らなければならない。というわけで、バス乗り場に送っていったが、残念なことに９時半のバスが出てしまっていた。しかたなく寒い中３０分ほど待ってノクトブーソ（夜のバス）で帰っていった。遠い中電話一つで会いに来てもらい、ありがたい出会いであった。

（次号へ続く）

（食事をしたレストランの前で。季節外れで、通りには人が少ない。通りには、それぞれのお店がテーブルとイスを並べている。夏には人でいっぱいになるのだろう。）

あやまり探し　F-ino Vasare Mockeliunaite (Litovio)

奥村林蔵

お正月に、外国から届いた第一便。リトヴィア（ＬＩＴＯＶＩＯ）から。１３歳の少女からで、文通の申し込み。

エスペラントを習って１と月になるとのこと。一家４人みなエスペラントを習っているとゆう環境もさることながら、１３歳の少女が、習ってわずか１か月で文通申し込みする、その才能、その度胸、その勇気、恐れ入る。そしてエスペラントの習得しやすさに一安心する。

日本の子供なら１と月どころか３年間も中学で英語を習っていても１通の英文手紙も書けまい。エスペラントと文字も単語も文法も同じ系統のものを日常使う彼ら。言語生活の大差（優劣では無い）に唖然呆然とする。　去年の暮れに、ポーランドの、これも１３歳の少女（私は『エスペラント・オジサン』で外国の子供との文通専門、これが老後の生きがい？）から、私が紹介した宮古短期大学のエス・ゼミの女子学生から何日たっても返事が来ない云々と書き添えたクリスマスの手紙が来ていた。　紹介者の面目丸潰れである。それほどエスペラントは我々に取って難しい、彼らに取って易しい、言語である 。

Samideano

Vion adreson mi trovis en la gazeton.　Kaj mi skribas al vi por demandi ĉu vi deziras korespondi kun mi.

Mi estas Vasare kaj mia familinomo estas Mockeliŭnaite. Mi havas dek tri jarojn. Mi lernas en la lernejo. Mi havas fratinon. Ŝia nomo estas Ringaile. Mi havas gepatroj. Patrino nomo estas Nijole kaj patro nomo estas Kestulis.

Mi lernis Esperanto antaŭ unu monato. Mia tuta familio lernis Esperanto. Mi loĝas en Kaunas. Kaunas staras apud riveroj Nemunas kaj Neris. Mi ŝatas bestoj. Al mi tre plaĉas korbopliko kaj dancado. Mi tre ofte vojagi en Litovio. Mi estis en Prago kun fratinon.

Ĉu vi havas gepatroj ?　Ĉu vi havas frato or fratino ?　Pro kio vi interesigas ?

Atendati vian respondon, mi kore salutas vin.

SAMIDEANE VASARE

さて、そのリトヴィア少女の手紙は右上のとうりです。全くそのままに書き写しましたので、中のまちがいを見付けて下さい。

あやまり（十数か所）を見付けたら、ナーンダ、やっぱり子供。私ならもうちょっと書けるわ、と自信を持ち直すでしょう。

（注意：一部で印刷のために段落、行替えをしています。福本）

国際語エスペラント一分間講習

国際語のお勉強です　ローマ字式に読みます

　Ｋｉｕ　ｖｉ　ｅｓｔａｓ？

　キ　ウ　ヴィ　エゾ　タゾ　はい　結構です

一つの単語に母音（aiueo）が２個以上あるときは

終から２つめ母音にアクセントをつけます

　キイーウ　ヴィ　エーゾタゾ　？　結構です

　　誰　　貴方　である　か

その答は　Ｍｉ　ｅｓｔａｓ　ＭＡＥＤＡ.

意味も読みも解りますね　では貴方へ質問します

　Ｋｉｕ　ｖｉ　ｅｓｔａｓ？

さて貴方の答は　＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

うえの講義で一分間　完了　よく出来ました

もしまだ時間があるなら　希望の声が出たら　次の一分間講座です

英語ではｇＧがグだったりヂだったりで困りますが　エスペラントでは

ｇＧはいつでもグで　ヂのときは山形帽子をつけてｘ̂ ĝ とします

　Ｋｉｅ　ｖｉ　ｌｏｘ̂ａｓ　？

　キィーエ　ヴィ　ローヂァ　ゾ

　何所に　貴方　すんでいる　か

答は　Ｍｉ　ｌｏｘ̂ａｓ　ｅｎ　ＫＡＩＮＡＮ.

読めますね　意味も解りますね　では貴方への質問

　Ｋｉｅ　ｖｉ　ｌｏｘ̂ａｓ　？

貴方の答は　＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

よく出来ました　合格です

エスペラントには英語から来た単語もたくさんありますが

みんなローマ字読みですよ

①ｔａｂｌｏ　ターブロ　②ｂｉｒｄｏ　ビーアド

③ｂｏａｔｏ　ボアート　　意味は　テーブル　小鳥　ボート　ですね

さて　Ｋｉｏ　ĝｉ　ｅｓｔａｓ　？

キーオ　ヂ　エースタス　？

何（物）　その物　である　か

答は　ĝｉ　ｅｓｔａｓ　ｔａｂｌｏ．

ヂ　エースタス　ターブロ

ĝｉ　ｅｓｔａｓ　ｂｉｒｄｏ．

ヂ　エースタス　ビーアド

では③についての

問いかけは ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

そして答は ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

これで全部卒業です

'95 ZAMENHOF-FESTO 和歌山緑丘会

12/16

サロン"会"で、参加者10名

堺エスペラント会の植原さんをお迎えして、手作りのご馳走に舌つづみをうちながら、フィンランド世界大会や遥か遠い国の話に花を咲かせました。前田先生は冬眠中で、本当に残念でした。

年　頭　雑　感

fukumoto

＜２１世紀とは＞

「２０世紀とは何だったのか」（なだいなだ・小林司）の中で、３人のユダヤ人に焦点をあてて２０世紀を論じている。この３人とは資本論を書いたマルクス、精神分析のフロイト、エスペラントを創ったザメンホフである。

エスペラントが発表されたのは１８８７年であるから、エスペラントの幼児期はまさに世紀末であったのだけれども、人々は行き詰まり感を持っていたのだろうか。

繰り返し言われているが、昨年は特に日本にとって様々な事件がおき、戦後の経済体制も大きくぼろを出すことになった。

阪神大震災では、自然の圧倒的な力に対して、近代技術と人間の力の弱さを実感した。

オウム真理教による、サリン事件は未だに信じられない事実である。戦時中の大本教はじめ多くの宗教団体に対する弾圧があったので、現在も宗教弾圧はあり得るのかとも思ったりしたが、これはやはり事実なのだろう。

でも、新聞、テレビで徹底的に報道されると、われわれはその全てのことを信じてしまう。疑いながら、また何の疑いもなく、その報道されたことを事実と思いこんでいく。

オウム信者の信じているハルマゲドンについては、人々は信じていない。しかし、わたしたちもまた、いろんなことを何の根拠も無しに信じている。神戸で大地震が起こると誰が考えただろうか。現在の銀行が倒産するとは、誰も思わなかっただろう。住宅専用貸付金融機関の損失補填に数兆円必要だという。バブルにおどった時期には、不動産の値上がりを信じていた。

数十年前には社会主義にも、またこれに対する資本主義にもまだ未来はあったように思うが、今では社会主義（ソビエト型）は自己崩壊し、資本主義も先が見えていない。２０世紀を過ぎて人類が手にしたのは、地球規模での破滅を可能にする何千発という原水爆と、じわじわと進んでいる地球環境の破壊ではないか。

わたし達は豊かなものに溢れて生活しているが、この生活はあと何十年続けられるのだろうか？一方には家無きストリート・チルドレンを絶え間なく生み出していく第３世界の巨大都市は、資本主義の繁栄の象徴でありながら、またそれの持っている毒素をもまざまざと見せつけてくれる。

人類の未来がここに凝縮されているのだろうか？

1995年会計報告

（平成6年12月11日～平成7年12月15日）

収入の部

項目	金額	摘要
前年度繰越	98202	
会費	75000	当日会費12名、会費21名
会員割引	12160	
寄付	2000	各様より
預金利子	1420	
	188782	

支出の部

項目	金額	摘要
通信費	57070	切手、はがき代
印刷費	91567	VM印刷代
事務用品	4871	封筒、紙やき代
会議費	10875	サンホテル宗兼3代他
	164383	

収入の部	188782
支出の部	164383
	24399

和歌山緑丘会

会計係　牛島美恵子

１９９６年３月　［編集］前田米美　〒640 和歌山市小松原 6-1-6(Tel.0734-22-8660)

WAKAYAMA　Marto, Aprilo　1996

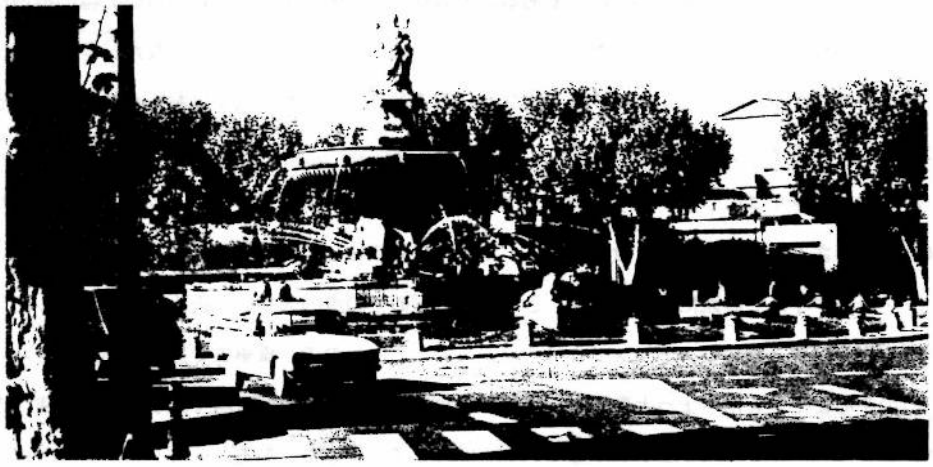
VERDA MONTETO

Redaktita ĉe MAEDA Yonemi　(dumonata)　N-ro 91

エスペラントでの出会い（1995年）その３

FUKUMOTO Hirotsugu

イタリアのミラノからはバスでモナコ公国のモナコ市を通ってニースに来たが、ニースからは同じバスでマルセイユに向かった。途中は海岸部は通らずに、内陸部のエキサン・プロヴァンスの町を経由して行くことになった。この地方は最近日本でも有名になってきている所で、フランスの第二の都市である港町マルセイユの北方２０ｋｍ程のところにある。行く前は小さな田舎町を想像していたが、そうではなくて、人口は少ないが、町中の通りには彫像や噴水のある広場がある、とても素敵な南仏の町である。この地方では大学の内、理学部・工学部系統はマルセイユ



（中心部のロータリーにある噴水と、彫像が町の雰囲気を象徴している）

（歩道の広さと、並木の様子がよく分かる、公園、噴水もきれいだ）

に、文学部などの人文系学部はこのエキサン・プロヴァンスに設置されていて、日本からの留学生も多数住んでいるとのことである。１時間ほど町を散策したが、観光客も多いのか、それとも地元の人たちなのか、人通りは多い方である。大通りには両側に車道と同じくらいの幅の歩道が並木に挟まれて続いている。その側には、ちょっと田舎っぽい趣もあるがなかなかしゃれたブティックやカフェー（喫茶店）もあり魅力的なところである。この町の人々はおしゃれをしているので、ここのファッションも有名だそうです。

昼食はマルセイユについてから、港のそばのイタリア系のレストランですることになった。バスの運転手さんの紹介である。食事のあと、港を望む見晴らしの良い丘の上にあるノートルダム・ド・ラ・ギャルド寺院に上がった後、３時過ぎに丘の下の港の入り口の近くにあるホテルに入った。夕食は昼と同じレストランで食べることになっていたので、食事まで自由時間ができた。

町の中心まで１ｋｍちょっとなので、歩いて出かけることにした。目当てはサートの名簿に出ている住所で、ホテルのフロントで聞くと中心部の大通りの場所である。「コ」の字の形に入り

（港から丘の上の寺院を見上げる。港にはたくさんの帆船が泊まっている）

こんでいる港の奥まで歩くと、その当たりから中心部の大通りが始まる。この港の両側も大きな通りがあり、港の入り口の海底下の地下道でつながっているので、環状道路になっている。

マルセイユでは数人連れの韓国人には出会ったが、日本人観光客は少ないのか通りではほとんど見かけなかった。歩道には物乞いをする乞食もみられた。マルセイユはあまり治安が良くないとのことである。アフリカへの窓口になるのか、黒人やアラブ系らしい人たち、通りは人種がいれ混ざっている。

フランス語は全く分からないので、紙に書いた住所を見せて、警官に英語で訊ねる。住所の表示が出ていたので、わりあい簡単に建物は見付けることができた。中に入って受付の所で訊ねてみると、親切に案内してくれたのだが、３階、４階と探しても見つからない。名簿と日程表には出ているのでありそうなものだが、何の形跡も無い。結局色々探したり、聞いたりしてみたが言葉も通じず、良く分からないまま、今日はやっていないのだろうと推測して、あきらめて帰ることにした。入り口に戻って玄関ホールを見回していると、エスペラントのポスターを発見した。

テレフォンカードが残っていたので、ポスターに出ている電話番号に電話をしてみた。これで３回目の電話だが、いつも幸運にも本人がいて、今回もすぐエスペラントで話すことができた。今回は本人といっても、ＳＡＴの名簿には集会場となっている、日本風に言えば文化センターか公民館かみたいなところであって、個人の名前は入っていなかった。電話を受けてくれたのは比較的若い男性で説明によると、今日はエスペラントの集まりは休みになっていたのだということでした。今日か明日の晩に会うことができないか聞いてみると、会いに来てくれることになった。都合の良い時間はと訊くと、夜は長いからいつでも良いと言う。少し離れているが車で来れるということなので、夕食の終わる頃の８時半にレストランで会うことにした。

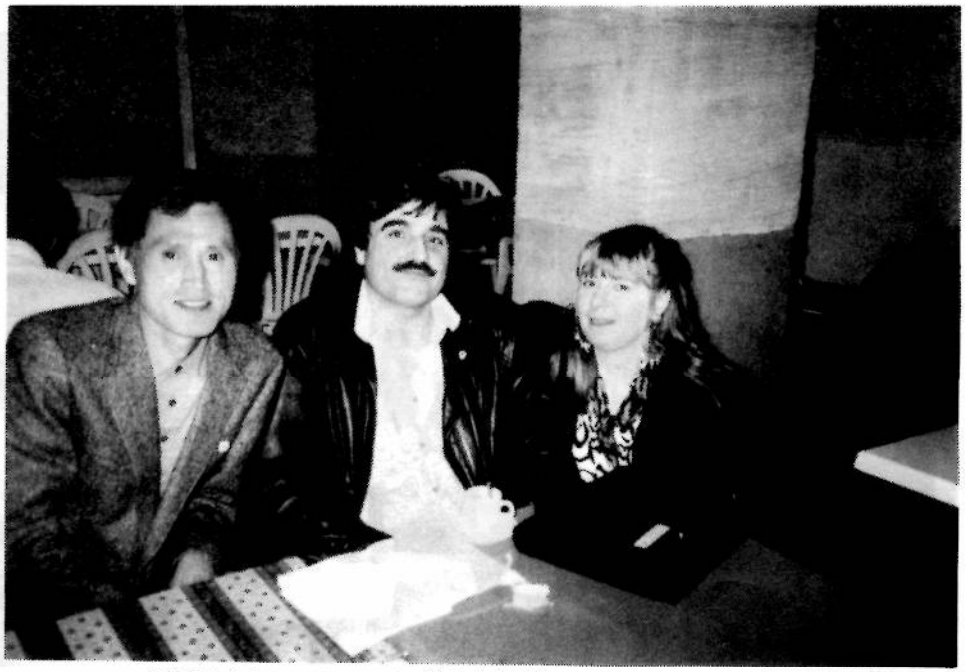
（見付けたポスター）

食事が終わる頃に彼は女友達と二人でやってきた。食後のコーヒで少し話をした。彼はエスペラントを始めて数カ月だということだが、なかなかきれいなエスペラントを上手に話す。彼女の方はあいさつと簡単な質問ぐらいで、彼が私達の話を簡単にフランス語で説明していた。熱烈なＳＡＴの支持者となっていて、「ランティの本を読んでいるか？」、「安い本であるから是非読みなさい」と進めることしきりである。ＳＡＴの会員も老人が多いことや、日本のエスペラントの状況など話す。彼はこれからはもっと宣伝をし、講習会なども積極的にやりたいと話した。

彼女は日本に興味があるらしく、床（畳）に座る生活のことなど、自分の頭では想像できないらしく、色々と訊いていた。

コーヒも飲み終わり、旅行団の他のメンバーが帰ることになり、レストランも閉店するのでここでの話は切り上げなければならなくなった。この日は我々のためにだけ、夜も開けていてくれたので、我々が帰ればもう開けておく必要がなかったのである。他のメンバーとは別れて、彼らと一緒に近くに住むエスペランティストのアパートに行くことになった。

彼は失業していて、彼女も仕事をしていないとのこと。生活については詳しい話を聞かなかったが、裕福でないことだけは確実である。彼の車は私の車よりも悪いぐらいで、なかなかのボンコツ車である。およそ２ｋｍも走らないところで、歩道に乗り上げ駐車した。ヨーロッパでは古い通りには元々駐車スペースがないので歩道に乗り上げたり、また車道にはびっしりと駐車しているところがある。古い建物を上がって３階が目的地、建物の入り口から連絡していたのでおばあちゃんが迎えに出てくれていた。



（食事をしたレストランで、彼は女友達と二人でやってきた。）

着いたのは９時半を過ぎていたが歓迎してくれた。５人で色々と話したが、旦那さんの方はエスペラントは分からない、またおばあちゃんの方もそんなにペラペラと話せるわけではなく、お互いにゆっくりと話ができたので、都合が良かった。旦那さんはイタリア出身だとかで、イタリアのお祭りの話とか、エスペラントのこと、日本人の仕事の仕方とかの話が出た。休暇やリゾート地の見学などの話のとき、「あなたは仕事と休暇とどちらが大事と考えているのか」と言われて、「もちろん仕事ですよ」とは答えずに、「多くの日本人はあまり長く休んでいると、今度出勤した時、自分のポストが無くなると思っている」、それで「長期休暇は難しい」のだと説明して、「もちろん私は休暇の方が大事」と答えた。

前田先生のことが話の中に出てきて、このおばあちゃんは前田先生がフランスを旅行したときに出会った人で、今でもときどき手紙を出しているということで、とても懐かしがっていた。深夜になったので、帰ることにしたが、お別れの時に観光案内のビデオを１巻プレゼントしてくれた。本当にうれしい夜で、貴重な訪問であった。

（前田先生に会ったことのあるというおばあちゃんと旦那さん、そして若い２人）

大きな池

（奥村林蔵）

エスペラントで『**大きな池**』はどう訳しますか「大きな」は granda 、「池」は lageto 。だから答は granda lageto 。

ところが、lago（湖）という字に『小さい』を意味する接頭辞の「ｅｔ」がついて『小さい湖すなわち池』と言うわけです。

すると『**大きな池**』とは、「大きい小さい湖」となります。大小プラスマイナスして唯の lago か。それも日本人にはおかしい。

こんな記事をラ・モヴァードに林さんが載せました。

相川さんが、日本語とエスペラントとは一語が一語に当たると決まらぬから、「池」を「ｅｔ」つきの lageto を使うとすれば、大きい lageto なんてあり得ない。どうしても言いたいならば lageto larga je 500 metroj か、lago ne tre granda とか言えば良い、と述べられた。

辰巳さんは、「ｅｔ」と「ｅｇ」とは特別な接尾辞で、これがつくとき別の意味になること有りだから lageto は大小に拘わらず＝「池」。

『**大きな池**』を granda lageto と書くことに相川さんは×、辰巳さんは○。

では貴方は？

さて、「ＶＥＲＤＡ　ＭＯＮＴＥＴＯ」は「緑の丘」。では『**大きな丘**』は？

El ege malnova libro:

"Miru Pensu Ridu" (1950)

ずい分昔の本から、今に通じるお笑い

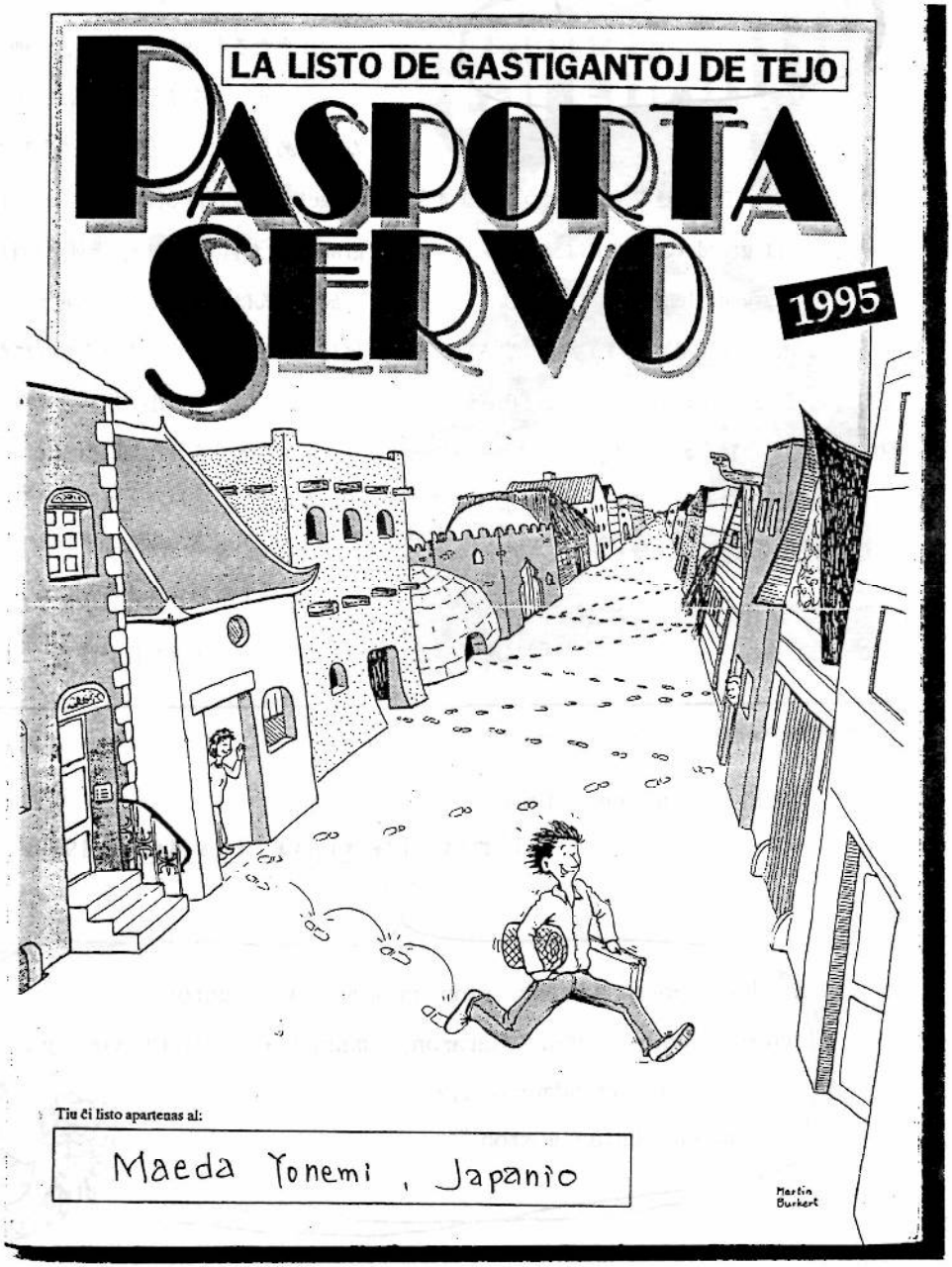
"Mia fianĉo admiras ĉion mian; Mian figuron, miajn okulojn, mian hararon, mian voĉon, miajn vestojn."

"Kaj kion lian admiras vi?"

"Lian eminentan guston."

［パスポルタ・セルボ］
名簿を持参して、エスペラントを少し話せたら、ただで泊まらせてあげます

LA LISTO DE GASTIGANTOJ DE TEJO



少し話がよすぎるようですが、ほんとうにある話。ＵＥＡ青年部のパスポルタ・セルボの活動です。

名簿というのは、パスポルタ・セルボが発行した　宿泊させてくれる人の住所録で今年度は、世界７１か国、８１２人の住所・氏名・電話などと、それに宿泊条件が付記されています。

名簿はＪＥＩで、1800円で売ってくれます。その名簿の表紙の下のほうに、

Tiu ci listo apartenas al:

とあって、　の中に自分の名前を書けば
それで有効となるのです。

宿泊条件はいろいろありまして、勿論一流ホテルというわけにはいきませんが、エスペラント同志特有の人なつこさで、家庭的な雰囲気を体験できるのが特長です。

予約なしでも泊めるという人もありますが、たいていは手紙か電話での予約を望んでいます。

また、何人まで泊まれるか、何日間滞在できるかも、付記されています。２Ｇ．３Ｔというのは、２人まで、３日間泊まれるという略号。

食事は自分で手配してください。泊めてくれる人にたよる場合は、予め、食費など相談してください。

寝袋をもってきてほしいという人、週末や夏のＵＫの期間は留守という人などなどありまして、宿泊条件を予めよく研究しておく必要があります。

以下、宿泊条件の実例：

フランス・パリ

ピエール、４９才　男、Anoncu vin plurajn tagojn antaŭe. Atentu: mi ĝenerale NE ĉeestas dum semajnfino, nek dum someraj kongresoj.

アラン、５０才　男、 nepre nefumantoj.

ストラスブール

ジャクリーヌ　４５才　夫人、 Mi senkompate ĵetas en paperkorbon ĉiun leteron petantan korespondadon aŭ laborpostenon.

ドイツ・ハイデルベルグ

トマス・クレーマン（よしえさんの長男　２６才　医学生）

2G.2T. Dormado surplanke, laŭeble kunportu dormsakon. Ofte forestas dum studentaj ferioj. ...Mi loĝas en unuĉambra loĝejo. Mia loĝejo troviĝas ĉ. 6 km okcidente de Heidelberg.

1996（平成8年）3月28日から

エアメールの料金が大幅値下げ!

●航空書状の料金が、平均25%も値下げになりました。
●重量区分の簡素化で、より便利になりました。
●密封できるグリーティングカードの料金が、新たに設定されました。

■航空通常郵便料金

種類		重量 ＼ 地帯	第1地帯 アジア、グアム マーシャル ミッドウェイほか	第2地帯 北アメリカ 中央アメリカ オセアニア 中近東 ヨーロッパ	第3地帯 アフリカ 南アメリカ
書状	定形郵便物	25gまで	90円	110円	130円
		50gまで	160円	190円	230円
	定形外郵便物	50gまで	220円	260円	300円
		100gまで	330円	400円	480円
		250gまで	510円	670円	860円
		500gまで	780円	1,090円	1,490円
		1kgまで	1,450円	2,060円	2,850円
		2kgまで	2,150円	3,410円	4,990円
印刷物		20gまで	70円	80円	90円
		25gまで	90円	110円	130円
		50gまで	120円	150円	170円
		50gを超え1kgまで 50gごとに	70円増	90円増	120円増
		1kgを超え3kgまで 250gごとに	175円増	225円増	300円増
		3kgを超え5kgまで 500gごとに	350円増	450円増	600円増
グリーティングカード		25gまで	90円	110円	130円
特別郵袋 印刷物		5kgまで	3,800円	5,000円	6,800円
		5kgを超え30kgまで 1kgごとに	600円増	800円増	1,100円増
小形包装物		50gまで	120円	150円	170円
		50gを超え1kgまで 50gごとに	70円増	90円増	120円増
		1kgを超え2kgまで 250gごとに	175円増	225円増	300円増

※定形郵便物とは、長さが14～23.5cm、幅が9～12cm、厚さが1cmまでの長方形のものです。
※書状とは、密封した郵便物です。
※印刷物とは、開封した郵便物で、定期刊行物、書籍、カタログ、DM、業務用書類、その他の一般印刷物を内容とするものです。

１９９７年２月［編集］福本博次 〒641 和歌山市関戸 3-3-8 (Tel.0734-44-3658)

和歌山 WAKAYAMA　　Januaro, Februaro １９９７

VERDA MONTETO

Redaktita de fukumoto hirotsugu (*dumonata*) *N-ro 92*

山東省世界語協会(Shandong-a Esperanto-Asocio)の現況と私達

ご存じの通り、和歌山県と中国・山東省は友好関係にある。すでに北京での世界エスペラント大会や青島市でのアジア太平洋エスペラント大会を通じて両友好県内のエスペランティストの交流も深まってきている。昨夏、上海で開催の第１回アジアエスペラント大会に参加した私達４名は８月２３日、大会プログラムの合間を縫ってシルクロードホテルの喫茶室で山東省より参加のエスペランティスト（全参加者２０名）７名と会合を持った。会合では出席者の自己紹介、土産やエスペラントの本の贈呈、歌や腹話術の公演もあり大変楽しいものでした。山東大学の S-ro Liu Xiaojun 教授は奥様の入院で欠席され、代わって娘さんが出席し、山東大学エスペラントクラブの活動報告をビデオに託されました。

以下、山東省世界語協会の現況を報告し、将来に向けての可能性を探ってみま

（第１回アジア大会、上海にて山東省のエスペランティストと一緒に）

した。

◎　山東省世界語協会は山東省の民間エスペラント組織で、ĈＥＬの指導を受けているが助成金は得ていない。

名誉会長は Ding Funming 氏である。

◎　会員数は約３００名。会費支払者は１５０名で、会費は年５元。

◎　省レベルの会合は年２回で、出席者は約３０名。地方都市の例会はザメンホフ祭等を含め年１５回。

◎　例会の出席は個人の自由である。多忙か会費を支払えないことが欠席の理由である。現在海外文通のできる能力のある人は２０名強である。

◎　機関誌は年４回発行。誌名は Verda Stelo Super Taishan （泰山緑星）。エスペラント５０％、中国語５０％。１回の出版コストは１５００元。

◎　初級講座は年４回実施。講座の指導能力のあるエスペランティストは４名。１回の受講生は約６０名（大半は男性で、　学生と若い労働者である。）終講まで残る人は約８０％。利用能力のない人達はエスペラントから遠ざかる。

今回の会合で感じたことは、友好都市という格好の枠組みを利用したエスペランティストによる具体的交流は、両市民へのＰＲや、エスペラント運動の拡大に寄与できるのではないかということでした。山東省の同志もきっと同じ思いであったと考えます。

具体的には、両グループ間同志の文通、両機関誌への投稿、ザメンホフ祭や大会での弁論・朗読などの賞品に両省県の土産物を提供し合う、友好都市間の姉妹校へのエスペラント同好会やクラブの創設に努力すること、エスペラント教授法の交換、相互訪問による交流等をあげている。しかし、相互訪問は山東省側としては金銭面で不可能とのこと。従って和歌山側からの訪問が大いに期待されている

現在関西国際空港から青島までの直行便の安売り航空券は往復３万５０００円程度で入手できる。従って将来、山東省でホームステイができるようになれば、片道２時間程度で気軽に訪問できる。

私は数年のうちに、和歌山のエスペランティストや協力者を連れ、山東省各地のエスペラント会を訪ねたいと夢見ている。観光しながら各地でエスペラントの人形劇や腹話術を披露し交流を深めたいと考えている。

以上、全体として具体的交流には、参加できる人の数や資金面等相当の制約がある。しかし姉妹・友好都市間の交流として、私達が「エスペラントで何ができるか」を考える時期に来ているのではなかろうか。

第１回アジア大会の上海で、社団法人和歌山県鍼灸マッサージ指圧師連合会理

事の宮本敏企さんが「山東省の業友へのメッセージ」をエス文にして山東省のエスペランティストに手渡した。昨年末、山東省の鍼灸協会より宮本さんにエス文で、「同業者の技術向上と友好のため交流を深めたい」との返書が届いた。

私も退職後、パソコンを勉強し、インターネットを利用して、友好都市の市民の顔が見える記事をニュース和歌山等に提供していきたいと思っている。

（江川治邦）

＊＊

宮本敏企さん腹話術でエスペラントを宣伝

＊＊

和歌山県腹話術協会（会長：坂口全彦氏－和歌山市教育長）が主催する第１６回腹話術発表会が１月１９日に和歌山県民文化会館小ホールで開かれ、同協会副会長の宮本敏企さんが、「中国語・エスペラント語・紀州弁」と題して、約５００名の観客を大いに楽しませた。エスペラントとはどんな言葉かを彼らしいコミカルな話術で紹介し、参加者を魅了した。

司会者はエスペラントにも触れ、彼が上海での第１回アジアエスペラント大会でエスペラントの腹話術を公演したこと、１９９９年にベトナムで開催予定の第２回アジアエスペラント大会にも出演すべく練習中であることも紹介されるなど、和歌山市民へのＰＲに大いに役立ちました。彼と同じエスペラント通信講座の受講生もかけつけて声援を送りました。

（江川治邦）

インターネットとエスペラント

ウインドウズ９６が発売されたとき、パソコンを持っていない人まで並んで買っているニュースが出たが、最近はインターネットのブームである。テレビの特集では、『インターネットは世界を変える。』『大企業と個人企業もビジネスでは対等になる。』『大国も小国も同じ画面の大きさで情報を発信できる。』等々と、情報革命を決定づけたものとして大きく評価している。エスペラント団体、また各地のエスペランチスト達もインターネットを活用して、エスペラントの普及や相互の通信に利用している。既にホームページも多く出来ている。世界と直結するインターネットでエスペラントを使う。今年は是非ともこれを実現したいものだ。　ＦＨ

１９９６年１２月　ザメンホフ祭報告

Ĵaŭda Rondo

昨年１２月２１日、和歌山緑丘会でザメンホフ祭を催しました。前田先生はお体の都合で欠席されましたが、大阪から奥村林蔵先生が来て下さいました。江川さんが荊（ちん）さんと宮本さんを連れて来て下さり、総勢１３名の賑やかなザメンホフ祭となりました。

荊さんは、中国から和歌山医科大学へ留学して来られた素敵な美人で、宮本さんは和歌山腹話術協会の副会長をしておられる方です。可愛いい人形を使ってエスペラント落語など演じて下さいました。

福本さんはベトナム旅行の写真を見せながら、おみやげ話をして下さり、あれこれ珍しい土産物を頂きました。

私たち木曜会は、”La plej granda rakonto en la mondo”を紙芝居で演じました。
(Ni havis malsukceson iomete, sed ni tradukis Esperanton per si mem diligente.)

その後、木曜会員の用意した面白いゲームがいくつかあり、賞品も出て、とても楽しく時のたつのも忘れる程でした。

奥村先生はご高齢にもかかわらず、遠くからお一人で来て下さり、本当にありがとうございました。中国の荊さん、腹話術の宮本さんも来て下さって本当に良かったです。来年もどうぞ来て下さいますように。今年来られなかった方々も、又、まだ一度も参加されたことのない方も来年はぜひ来て下さい。お待ちしています。（木曜会一同）

リトヴィアからの便り

奥村林蔵

『エスペラント・オジサン』として外国の子供たちとの文通を続けている奥村先生からポーランドの１７歳の女の子の手紙が送られてきました。Ｎ－ｒｏ．９０に載せたリトヴィアの女の子からの手紙の記事を相手に送ったところ『これ、なんで載ったの？』とおどろいた手紙が来たとのこと。たとえ小さな機関誌であっても、自分の書いたものが活字になって記事として載るなんてなかなか無いことで、確かにこれは相手への刺激になることです。

手紙を公表するときは、内容にもよるでしょうし、相手にもよるでしょうが、やはり相手の承諾をとる必要があることを思い起こしながら、今回の手紙をタイプしました。というのは、以前に手紙を載せたことで文通相手に抗議されてその後文通が続かなかった事例があったのを思い出したからです。今回は奥村先生が『ＶＭに載せるので何か書いて送れ』と書いた手紙の返事なので、相手も記事になることを知っていますので問題なし。さて、文法の誤りは幾つくらいあるのでしょう？？　　（福本）

Wadowice 2. IV. 1996

Kara "Verda Monteto"!

Mi nomiĝas Dorota Rejman, kaj mi havas 17 jarojn. Mi loĝas en Eŭropo en Polujo kun gepatroj. Mi frekventas al dua klaso de Teknikumo. Mi komencis lerni Esperanton en 1991 jaro. Pri Esperanto mi sciiĝis kun junularo programo "5-10-15". En 1992 jaro skribis al mi mia unua leter-amiko. Estis tio instruisto kun Japanujo -- Sinjoro Okumura Rinzo.

Nia korespondado daŭras eĉ al hodiaŭ. Mi havis ankoraŭ kelkaj aliajn amikojn-korespondado, sed konado malrapide finis. Krom Esperanto mi lernas ankaŭ germana lingvo.

Mia ŝato-okupo tio: interesaj libroj, muziko kaj korbo pilko.

Mi volus kore salutas al vi "Verda Monteto".

Dorota Rejman

ベトナム訪問記（その1）　　1996．12　福本博次

1996年12月5日から14日の日程でベトナムを訪問したので簡単に報告したい。ベトナムエスペラント協会（ベトナム平和擁護エスペラント協会より名称変更された、以下VEAと書く）の40周年記念大会に招待された熊木秀夫（千葉市）さんの呼びかけにより、同行することになったが、ほかに参加者がなかったので二人だけの訪問となった。

5日ホーチミンのタンソンニャト飛行場には、ニエムさん他数名が迎えに来てくれ、そのまま自動車でホテルに向かった。やはり南の国である、少し暑くて車ではクーラーを入れてくれた。通りにはバイク、自転車そして自動車が密集して走っている。ここではとても運転できないなと思いながら、活気溢れる町の雰囲気を味わう。

ホテルはこちらの希望もあり1泊25ドルのツインの部屋である。クーラー、冷蔵庫、テレビ、バス・トイレ付きで十分良い部屋である。ここは以前誰かの邸宅であったのを最近ホテルにしたようであった。

その夜はホテルから歩いて数百メートルのところにあるニエムさんの家で歓迎会を開いてくれた。ホーチミンのエスペラント会の主要メンバーとニエムさんの奥さんな

（ホーチミン市での歓迎会で）

ど全員で８名が参加していた。（この中には上海の第１回アジア大会に参加されていた、ＶＥＡ副会長の S-ino Le Tuyet Thanh や 中央委員の S-ro Tran Quan Ngoc もいた。初めて会う人ばかりなのと、ベトナム名に馴染みがないので名前がわからない。紙に書いてもらい、名前の意味や、対応する漢字などを教えてもらい、少し顔と名前を覚える。（S-ro Tran Quan Ngoc さんは、漢字で書けば「陳君玉」とのことである。）

熊木さんの持参していた日本酒で乾杯、鳥や豚などの臓物や肉の入った栄養満点の料理等を食べる。にわとりの足は柔らかく、小さな骨がある。豚の脳は絹こし豆腐よりも柔らかで、淡泊な味である。お酒も入り和気藹々と談笑する。二人が持っていったタイプライターのうち１台とエスペラントの本などのおみやげを渡す。私も持参のアルバムなどをみてもらい、楽しい歓迎会であった。

後で初心者の若い女性３名が遅れて来てくれたので、彼女らに「D-ro　Esperanto」の本をプレゼントする。エスペラントはまだ挨拶程度なのか、ほとんど話は分からない。

歓迎会の後、車で市内を巡り、夜のホーチミンを見学する。夜にも関わらず単車や自転車の洪水は続いている。本当かどうか知らないが、雨が降ろうと、夜であろうと（多分遅くても１１時くらいまでと思うが）みんな単車などで走り回っているという。用事も無いのにひたすら市内を走り回るとのこと。信じられないが、通りの様子からは、これが本当のように思われる。都市の人達は、狭い家に沢山の家族が住んでいるので、冬でも暑いのに夏にはクーラーのない生活はどんなだろうか。通りを自転車でも走らせれば、風を切ってすこしは涼しく感じるというものだ。おまけに単車は大体が２人乗りで、家族４人も乗っているのもある。ここでは単車がマイカーである。

（ホーチミン市での歓迎会に出席してくれた人達）　　（続く）

１９９６会計報告

（平成７年１２月１６日～ 平成８年１２月１５日）

収入の部

項　目	金　額	摘　　要
前年度繰越	24,399	
会費	70,000	当日会費 10 名、会費 20 名
会員割引	12,160	
寄付	30,000	前田先生より
預金利子	367	
計	136,926 円	

支出の部

項　目	金　額	摘　　要
通信費	16,920	切手、はがき代
印刷費	31,930	ＶＭ印刷代
事務用品	4,999	封筒、紙やき代
会議費	9,071	ザメンホフ祭菓子代
計	63,250 円	

収支残高

項　目	金　額	摘　　要
収入計	136,926	
支出計	63,250	
収支残高	73,676 円	

（編集後記）前号発行より約１年余り経過した。機関誌を出し続けるということは大変難しいことである。これからは出来るだけ定期的に発行できるようにしたいと思っている。機関誌とは本来会員の投稿により成り立っていくものであるが、なかなかそのようにはならない。原稿を書くというのは面倒で、これはやはり書くのが好きでなければできないことなのかもしれない。奥村先生の原稿も１年以上掲載せずに過ぎてしまい、大変申し訳なく思っている。ここでお詫び申し上げます。即時掲載の保証はありませんが、どなたでも結構ですから、原稿をお送りください。
順次掲載します。今回より編集者名を変更して責任を感じるようにしました。福本

１９９７年４月［編集］福本博次 〒641 和歌山市関戸 3-3-8 (Tel.0734-44-3658)

和歌山 WAKAYAMA　　Marto, Aprilo １９９７

VERDA MONTETO

Redaktita de fukumoto hirotsugu (*dumonata*) *N-ro 93*

★エスペラント★

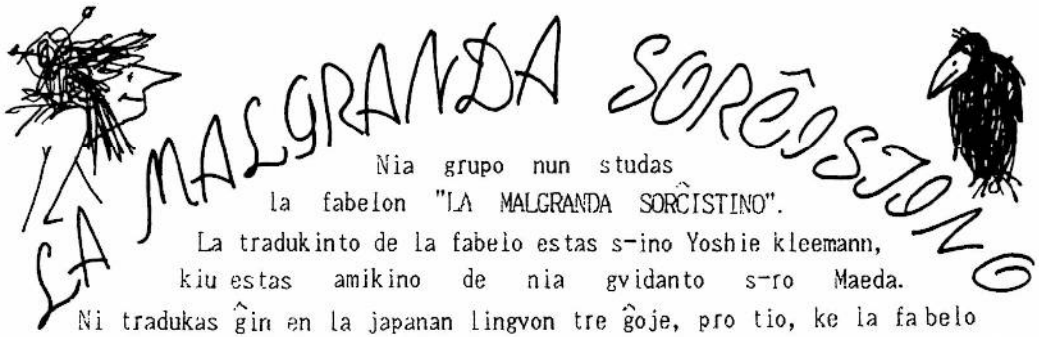
気軽に会話してみませんか

エスペラントを学んで、「ああよかった！」と実感できるのは、何よりも会話ができて通じ合えることではないでしょうか。初級講座を終えた人であれば、あとは言葉への慣れと、単語の記憶数を増すだけで上達してゆける。そんな会合を月に１回、どこかの喫茶店で持ってみませんか。場所としては皆さんが集まりやすい、地理的条件の良い所で、できれば個室があって、ビデオや黒板が装備されている所がベターです。安価に利用できるそんな喫茶店があれば江川までお知らせ下さい。（喫茶店に固執しません、安価な会議室でも良い。）

最近は初心者向けの Mazi en Gondolando や、近く発行される成人向け Esperanto, pasporto al la tuta mondo (ELNA 北米エスペラント連盟が企画作成。人種が異なる６人がカラフルなコスチュームで、アメリカ映画さながらの楽しさを日常会話と共に演出している。）など優れたビデオもあり、これらも利用できればと思っています。また友好都市、中国・済南市の山東大学エスペラントクラブからも、エスペラント活動を伝えるビデオも届いています。これも楽しい教材のひとつに加えられます。

ここ数年の世界大会は、１９９７年はオーストラリア（アデレード）、１９９８年はフランス（プロバンス地方）、１９９９年はドイツ（ベルリン）に決定されています。また１９９９年にはベトナムで第２回アジアエスペラント大会が開催されます。私は今後、できる限りこれらの大会に参加してゆきたいと考えています。言葉が通じ合える海外旅行は楽しさを倍加さすだけでなく、エスペランティストの同志愛がさらに深まることでしょう。

いかがですか。 —— 月に１回の、そんな例会を持ってみませんか。（後日ご相談の上実行に移してゆきたいと考えますので、ご意見をお聞かせ下さい。）　　（江川治邦）



Nia grupo nun studas la fabelon "LA MALGRANDA SORĈISTINO". La tradukinto de la fabelo estas s-ino Yoshie kleemann, kiu estas amikino de nia gvidanto s-ro Maeda. Ni tradukas ĝin en la japanan lingvon tre ĝoje, pro tio, ke la fabelo estas tre ĉarma rakonto. De nun ni publikigos tion sur la "VERDA MONTETO" iom post iom.

Ĵaŭda rondo

(小さな魔女)

La Maronvendisto

Estis vintro. Ĉirkaŭ la sorĉistina domo mugis neĝstormo kiu skuis la ŝutrojn. Al la Malgranda Sorĉistino tio estis tute egala. Ŝi sidis nun tagon post tago sur la benko antaŭ la kahela forno kaj varmigis sian dorson. Ŝiaj piedoj estis en dikaj feltpantofloj. De tempo al tempo ŝi klakis per la manoj -- kaj ĉiufoje kiam ŝi klakis, unu el la brulŝtipoj, kuŝantaj en la kesto apud la forno, saltis mem en la fajrejon. Kiam ŝi foje havis apetiton ĝuste je rostitaj pomoj, tiam ŝi nur bezonis klaki per la fingroj. Jen kelkaj pomoj tuj rulis el la provizejo kaj saltetis en la rostujon.

栗屋さん

冬のことでした。魔女の家の回りは吹雪がビューピューうなり、鎧戸をゆさぶりました。 小さな魔女にも それは分けへだてなく襲ってきました。 彼女はタイルの暖炉の前のベンチに坐って今も背中を温める毎日でした。 足には厚いフエルトのスリッパをはいていました。 時々両手でパチンと鳴らすと、その度に暖炉のそばの箱の薪が一本ぴょんと飛んで暖炉の火の中へ自分で飛びこみました。 焼きリンゴが丁度食べたくなった時は、ただ指をピチッと鳴らすだけでいいのです。リンゴがいくつか食べ物入れからすぐに転がり出てトースターの中へ飛び込むのでした。

Tio plaĉis al la korvo Abrakso. Li certigis ĉiam denove: "Tiel oni vere bone eltenas la vintoron!"

Sed la Malgranda Sorĉistino perdis iom post iom ĉiun plezuron pri la senlabora vivo. Iun tagon ŝi diris malbonhumore: "Ĉu mi sidu la tutan vintron sur la fornbenko kaj varmigu mian dorson? Mi bezonas refoje moviĝon kaj ankaŭ freŝan aeron ĉirkau la nazo. Venu, ni elrajdu!"

"Kio? kriis Abrakso ŝokita. "Kion vi pensas pri mi? Ĉu mi estas glacibirdo? Ne, tiu glacia malvarmo estas nenio por mi! Mil dankojn pro tiu invito! Ni prefere restu hejme en la varma ĉambro!"

Tiam la Malgranda Sorĉistino diris: "Nu bone, kiel vi volas! Laŭ mi vi povas resti hejme, mi do rajdos sola. La malvarmon mi ne timas, mi vestos min sufiĉe varme."

La Malgranda Sorĉistino surmetis sep jupojn, ĉiuj unu sur la alian. Poste ŝi ĉirkaŭligis la grandan lanan kaptukon, glitis en la vintro botojn kaj surŝovis du parojn da gantoj. Tiel vestite, si saltis sur la balailon kaj fulmrapidis tra la kamentubo.

カラスのアブラクソは、これが気に入っていました。
いつものことですが、また念を押すように言うのでした。「こうすりゃ冬も楽しく過ごせるね！」

でも小さな魔女にとって、こんな何もしない毎日では、だんだん楽しみが無くなっていくのでした。　ある日、不気げんそうに言いました。「冬中、こうしてベンチに坐って背中を温めてばかりいなきゃならないの？　また体を動かして鼻の回りの新しい空気を吸いたいわ。さあ、いらっしゃい飛び出しましょう！」

「何だって？」とアブラクソは驚いて言いました。
「いやですよ、こんなひどい寒さは私にはろくなもんじゃありません、ごめんですよそんなお誘いは！　家にいて、こんな温かい部屋でじっとしていましょうよ！」

すると小さな魔女は、「そんならいいわ思うようになさい、あんたは家にいる方が良いようね。私一人でいくわ。こんな寒さなんかこわくない、十分着ていくわ。」

小さな魔女はスカートを上へ上へと七枚まといました。　それからウールのスカーフをぐるぐる巻きつけ、冬のブーツに足を突っ込み、手袋を二足はめました。　このように着こんで、箒に飛び乗り、煙突からさぁーと飛び出しました。

(次号へ続く)

ベトナム訪問記（その2）　　1996．12　福本博次

6日朝からは、ワゴン車1台、11名でメコンデルタへ遠足に行く。この日の参加者の内5名はエスペラントをほとんど話さない。3時間程走って、車に酔いかけて気分が悪くなった頃に、ようやく目的地に着いた。しばらく休んで舟に乗り換える。南部ベトナムは広大なメコンデルタで、川と言うよりは流れのある広い湖のようである大きな河と運河、小さな川がつながっている。

これらを小船で巡り、島にある小さな村の家の側を通って、アヒルの群を眺めるゆったりとした船旅はまた格別である。子供達は舟で通学しているのか、ちょうどある島の船着き場で沢山の子供達の乗った舟を見かけた。乗合バスではなく、乗合舟である。快適に走る船上では風で暑さも和らいで感じる。川に面している土地は場所によって、水で浸食されて崩れていっている。このため竹の杭を立てたり、マングローブのような木を植えて、水の浸食を防いでいる。

しかし後から考えると、救命具も付けていなかったので、転覆すればあの世行きだ。ほとんど泳げない上に、陸地まで数百メートルある広い河も通る。ここでは車は余り

（メコンデルタへの遠足に出かける前、ニエムさんの家の前で）

（メコンデルタの舟旅の様子。先頭にいるのはタンさん。よく冗談を言う。）

役に立たない。代わりに舟が人々の交通機関になっている。全ての川に橋を架けるのは不可能だ。

島のレストランで昼食をとる。昼食中、熊木さんが貧血で倒れる。脳溢血かと思い、とても心配したが、貧血と分かって安心した。朝から何も食べていなっかたのと、少々の車酔い、その上にレストランでの強い酒を少し飲んだのが悪かったのだろう。しかし、医者が２人も参加していたので、血圧計も持参していて、手当してくれ大変助かった。夜、市内に帰ってから、心電図も計って、漢方薬ももらう。

ホテルに帰ってから二人で近くに食べに出る。選んだ所が食堂でなく、飲み屋であったので、ご飯がない。英語も話さない。メニューを見てもさっぱり分からない。仕方なく、とりあえずビールをたのむ。隣の席の人が焼き肉のようなのを食べていたので、指をさして同じ物を注文する。道路に向かって開け放しのところで、靴磨きの子供が来たので磨いてもらう。２０００ドン（約２０円）払う。熊木さんが次の子に５０００ドン払ったので、前の子が不満を言った。他にも物売りの人が沢山入ってきて進めにくる。南京豆を買った。店では彼らを無理に追い払おうとはしない。足が曲がっていて、腕で歩く子が店先にいる。客に食べ物をもらっているようだ。熊木さんが物売りから買ったお菓子をあげる。この店の二階は特別室か、アオザイを着た女性が降りてくる。多分お酒の相手をする女達だろう。後で s-ro Tan に聞いてみたが、行ったことがないのでどんなところか知らないとの返事だった。結局余り腹が膨れず帰ることにした。

（続く）

あるエスペランチストの回想

（初めて迎えた Eksterlandano ）

田中正美

私が Verda Monteto にエスペラント漫筆と題して雑文を発表したのは、２０年も前のことで、これを読んだ人は、今では極めて少ないだろう。それで、多少の重複や思い違いなどは意にせず書いてみようと原稿用紙に向かってみた。

何度も思うことは、和歌山県下の運動を進めてきた古いエスペランチストのことである。このことは是非書き残しておきたいし、皆んなに知ってもらいたい。苦難な時代、私達の先輩がエスペラントを学び、この運動を進めてきたが、恐らくどのエスペランチストも新しい時代を夢見ていたに違いない。そしてその目標とするところは、世界平和、人類愛であったことは疑う余地はない。私利私欲を捨て、純粋な気持ちで、この運動を押し進めてきたことに私は感謝せずにはおれない。

［昭和１０年～１１年］

高野口町の横垣孝一君は私と同年輩の２４才、偶然の機会から交際が始まった。　横垣君は当時、大阪美術学校の学生であった。前年の文展に見事入選を遂げ、天才画家として郷土の人々から将来を期待されていた。地方新聞にも報道されて、一躍人気者になっていた。

彼はまた、絵の勉強の外にエスペラントを独習していた。

私は当時、妙寺町（現かつらぎ町）の親戚の家に寄寓し、橋本町にあった会社（現幸福銀行）に通勤していた。高野口町は丁度中間の駅だったから、私は途中下車してしばしば横垣君を訪ねて親睦を深めていた。

そうしたある日、岸和田市の西田亮哉さんから横垣君のところに連絡があり、外国人エスペランチストをバトンタッチしたいから、是非迎えに来るようにと言ってきた。

私達は翌日に、早速岸和田市に向かった。駅前で西田さんの家を訊ねると、「西田さんの家は西方寺というお寺で、この大通りを行くといい」と教わって西の方向へ歩いて行った。両側は商店が建ち並び大いに賑わった街並みであった。

途上、商店街の一角に５～６人の集団があった。見ると一人ののっぽの外国人が見えた。私達はあれが私達の目指す人ではないかと思い近づいてみた。

しゃべっている言葉は一向に解らないが、英語ではないことは確かだ。ひょっとしたら私達が尋ねている人かも分からない。使っている言葉、あれがエスペラントではないだろうか？

横垣君も私もエスペラントは２～３年前から勉強はしていたが、現在のように講習会や勉強会などは地方には全く見当たらない時代だったので、二人共独学で勉強するより外に手だては無かった。それで生のエスペラントを聞いたりしゃべったりするチャンス等は全く無かった。

西田さんは不思議な顔をして突っ立っている私達を見つけて近づいてきた。そこに居たグループは岸和田のエスペランチスト達であった。西田さんは一同を連れてお寺に戻り、改めて自己紹介をした。

Ｊｅｎ　Ｆｅｄｏｒ$\hat{c}$ａｋ！

Ｍｉ　ｅｓｔａｓ　Ｊｏｋｏｇａｋｉ．

Ｍｉ　ｅｓｔａｓ　Ｔａｎａｋａ．

横垣も私もかろうじてこれだけを言った。初めて口にするエスペラントによる自己紹介、しかも外国のエスペランチストの前でのこの時の私の緊張は、言い知れぬ不安、胸の高鳴り、今でもハッキリ思い起こすことがある。

かくしてＦｅｄｏｒ$\hat{c}$ａｋは大きなトランク１個を提げて高野口へやってきた。１９３６年（昭和１１年）４月上旬であった。折から駅の近くにある高野口公園は桜が満開で花見の人々でごった返していた。公園の前を通って少し下ると横垣君の店があり、その裏に別宅があった。ここにＦｅｄｏｒ$\hat{c}$ａｋを泊める手筈になったいた。横垣の家は呉服屋で、表の方には店員さんも大勢いた。その時紹介されたのはご両親始め、横垣の妹さん、店の人達、お手伝いさん等であった。

私どもはＦｅｄｏｒ$\hat{c}$ａｋが過ごす部屋に案内された。私もしばらくここで一緒に寝泊まりする事になった。

夕食を済ました後、改めて自己紹介をした。

彼は横垣君に、「お前はこれから『Horizonta』と呼ぶことにする。田中、お前は名前がマサミだから『Masu-cjo』と呼ぶぞ」と全く一方的に決めてしまった。この呼び名には私は大いに不服であった。なぜなら”Ｍａｓｕ”というと何かしら猥褻なものを感じさせるからだ。仕方がない。彼の独断をしばらく容認するしかない、と観念した。

私は横垣君と相談して彼を『デメ』と言うことにした。そのことを彼に告げると、彼はその意味は何だと聞いてきた。私は次のように説明した。「君の名前は Demetry Fedorĉak だから familia nomo をとって『デメ』と決めた。日本にある観賞用のデメキンに通じ、とても素敵だ。」と言っておいたが、解ったのか甚だ疑問であった。

咄嗟の思いつきで彼のニックネームを『デメ』さんと名付けたのは別に大した理由があったわけではないが、考えてみるとその名は的中しているように思えた。出目キンは持ち前の出目を突きだして水槽の中を泳ぐ姿は愛嬌があってユーモラスである。

しかし、彼はユーモアある話し方で私達のエスペラントを豊かにしてくれたが、また一方皮肉屋で、思ったことをズバリ言ってみたり、彼独特のパーフォーマンスを公衆の前で演じ、私共を少々手こずらしたことも再々だった。

この事は順次書いていくつもりである。しかし、発表する上で、書いても許されること、書いてはならないこともあって、すべて真実だからといって書いては倫理に反することもあるということを最近知った。次は彼の経歴を書くことにしよう。（daŭrigota）

カ　数　ズ　（ himacubusi ）

どこかで読みました。　エスペラントの講習の１時間授業のあと、

『もう、貴方はエスペラントの単語を１０００以上知っているでしょう』

ハテ？　そんなこと出来る？　あり得る？

（その答。　unu du tri kvar kvin ... naŭcent-naŭdek-naŭ mil.）

恐れ入りました。これなら千でも万でも。

かどえるのに、１から始めるのと、０から始めるのと、あります。

高層ビルで、１階２階３階（ unu etaĝo,　dua etaĝo,　tria etaĝo ）と数える地域と、０階１階２階（ter-etaĝo, unua etaĝo, dua etaĝo ）と数える地域とがあるようです。上着売り場と思ってエレベーターを出たら下着売り場だった、なんてことにならないようご用心。

日本人の年令は１始まりは数え年、０始まりは満年令ですね。

世紀（jar-cento）　数えは１始まり。０世紀は無し。　０～99 が１世紀、　1900～1999 が２０世紀。　2000 年になったら２１世紀。

時間（時刻）を示すのにもまた、ややこしい。

私達が『１時１５分』と言う時は、０時→１時→１５分のこと。

でも国によっては、０→１は第一時、１→２は第二時、その第二時の１５分の所なので、『２時１５分』と言うことになります。さあ、汽車に飛行機に乗り遅れぬこと。エス・クンシードに遅刻せぬこと。

日本には物事を数えるのに、１個２個とか１枚２枚とか単位を必ず付けます。何の単位は何と覚えるのも大変。その上に、その単位の読み方がまたややこしい。（１始まりなので、数え違いの心配は無し）

ｋｒａｊｏｎｏ（鉛筆）

１本	１ッポン		
２本		２ホン	
３本			３ボン
４本		４ホン	
５本		５ホン	
６本	６ッポン		
７本		７ホン	
８本		８ホン	
９本		９ホン	
１０本	１０ッポン		

kato kaj hundo kaj aliaj　について、上にならってどう変わるか調べて見て下さい。

１匹　２匹　３匹　４匹　・・・　１０匹。

（奥村林蔵）　　1996-04-15

１９９７年５月［編集］福本博次 〒641 和歌山市関戸 3-3-8（Tel.0734-44-3658）

和歌山 WAKAYAMA　　Majo, Junio １９９７

VERDA MONTETO

Redaktita de fukumoto hirotsugu (*dumonata*) *N-ro 94*

図書館にエスペラントの本を！！

和歌山県立図書館移転直後は、書棚にエスペラント関係の本が数冊しか見当らなかった。しかし、その後文法・語法や外国文学・その他諸文学の書棚に若干のエスペラントの本が現われ、辞書の書棚には「国際語・エスペラント」なる見出板が置かれたのを見つけて、講習書や辞書、文学書など数冊を寄贈した。バブル崩壊後、各地方都市の図書館への予算が減少傾向にあるためか、図書の寄贈は歓迎される。私の如きわずか１０冊たらずの寄贈でも、館長名で感謝状が贈られる有様である。しかし、書棚に寄贈本が並ぶまで１年以上もかかっている。特に、横文字の書籍は分類上時間がかかるそうだ。

昨年のザメンホフ祭で、私は上記に触れた話をしたためか、早速奥村林蔵さんより多数の本が私宅に送られてきた。昨秋は殿井一郎さんよりＰＩＶなど貴重な御本を数十冊いただいた。これらの一部を図書館に寄贈すると共に、残余は勝手ながら私の通信講座終了者に配布した。

時々図書館をのぞいてみると、講習書など誰かに読まれた形跡を感じる。和歌山市民の誰かが、ふとしたことで国際共通語エスペラントなる本を図書館で手に取ってみたことが、エスペラントを学ぶ契機になることを想像してみたい。

いずれにしても、このような機会を提供してゆくことも、エスペラントとのご縁を得た私達の義務かもしれない。今後は、市民図書館にも同様のアプローチをしてゆきたいと思う。特に辞書や講習書について、会員の皆さんからのご協力を期待する。　（江川治邦）

ベトナム訪問記（その3）　1996．12　福本博次

７日は、朝から郊外の遊園地に行った後、エスペラントの支持者であるレンガ工場の持ち主のお宅を訪問する。乗用車２台に分乗して、参加者は全部で８人である。郊外へ向かう道路はかなり広いが、車が多くて運転は危険そのもの、運転手は大変な仕事である。追い越し、急な割り込み、その上単車も多い。信号で止まったことを憶えていないので、市内中心部を出てからは、信号が少なかったのかもしれない。これでは道路を横切っての通行は難しい。

訪れた遊園地は、最近できたところで、乗り物もあり、小動物や鳥も飼っている。入場するにはお金が要る。ここには大きなお釈迦様の像も立ててあったりして、仏教の国であることを知らされたが、公園の中なので何か変な感じであった。結婚式を終わったカップルが、カメラマンに記念写真を撮ってもらっている。立派なウエディングドレスなので目立っている。また、小学校の子供達が遠足にきていた。この子達は栄養も行き届いていて、比較的恵まれている家庭の子のようだ。一方には靴磨きをしたり、路上で物売りをしている子供達もいる。まだまだ福祉制度は整っていないようである。

レンガ工場は、遊園地からさらに少し走って、幹線道路から横に入った所にあった。横道はまだ舗装がされておらず、大きな穴ぼこができていて、ひどい道路である。雨の時はとても通れそうにない。

まず工場の持ち主の家を訪問した。写真のとおり、なかなか大きな家である。この家の後ろには、親族の家が２軒あり、一族がまとまっている。

おばあさんのキム・アンさんは上海大会にも参加していて、写したビデオを見て、昼食をご馳走になった。午後はレンガ工場を２カ所見学する。工場では建築用のレンガ、屋根瓦、耐火煉瓦などを製造していた。手作業も多く、成形後すぐに不良品で元に戻しているものも多く、製品の質はどの程度なのかは分からなかった。今後家の建築は増え、レンガの需要はますます大きくなると思われる。工場では設備の拡大を進めていた。

資金投資の話も出て、すすめられたが、工場の増設費用はやはり数千万円は必要とのことで、私達の取り組める範囲ではない。しかし、ベトナムはいま建設ラッシュが続いていて、経済成長率も非常に高いので、投資効果は大きいのではないだろうか。また、資金があれば土地に投資するのも良いかもしれない。

帰りには、市内に戻ってから家具の販売店を訪ねる。主にテーブルやイスであり、中国風で、細かく彫刻の入れられた立派なものである。

夜にタンさんが訪ねて来てくれた。彼は冗談も言うなかなか楽しい人だ。３５歳程だが、もうすぐ結婚するそうである。ニエムさんも入れて４人で夕食を食べに行く。タンさんにはエスペラントのシールをあげ、単車に張り付けてもらう。良い宣伝になるのではと思う。ヘルメットに「ＥＳＰＥＲＡＮＴＯ」と書いている。熱心なエスペランチストである。　（続く）

あるエスペランチストの回想　　No. 2

（Ｐｒｉ　Ｆｅｄｏｒ ĉａｋ）　　田中正美

１９９１年４月号の"Ｅｌ　Ｐｏｐｏｌａ　Ĉｉｎｉｏ"を読んだときの私の驚きは今に忘れない。

私達の前から風のように消えて行った Ｆｅｄｏｒ ĉａｋ、その後の消息は何一つ掴めなかった彼のことが書いてある。そこには、日本に来るまでのことが書かれてはいたが、彼から直接聞いた事柄以外に私の知らないことも多く報告されていた。筆者は Ｃｈｅｎ　Ｙｕａｎ（陳原）さん、当時は中国科学院の所長で言語学者である。

" homoj neforgeseblaj "（忘れ得ぬ人々）には毎号１人ずつ紹介しているが、何れも Ｃｈｅｎ　Ｙｕａｎ さんとの交友関係のあった人々である。その第１号が Ｆｅｄｏｒ ĉａｋ で、他には日本人としては、私の友人の宮本正男、ベトナム戦争に反対し首相官邸前で悲壮な焼身自殺を遂げた由比忠之進、ＵＥＡセンターに勤めていた永田明子、その外 Ｅｌｐｉｎ（Ｕｓａｎ）、ジャーナリストで探検家の Ｔｉｂｏｒ　Ｓｅｋｅｌｙ 氏など数名が紹介されていた。

（Ｆｅｄｏｒ ĉａｋ の経歴）

Ｃｈｅｎ　Ｙｕａｎさんの記事を参考にしながら、私が彼から直接聞いたことを報告しよう。彼は１８歳のとき故郷ハンガリーを後にして、世界放浪の旅に出た。ヨーロッパ各地を廻り、働きながら遍歴を続けた。彼自身「俺は生まれながらの "kosmopolito"」と言っていた言葉通り、それを実践していたのであろう。それまで一度も故郷の土を踏んだことはないとも言っていた。ソヴィエトに来たときは、ちょうど第１次５カ年計画に入ったところだった。これはゴーリキーが提唱したもので、Ｆｅｄｏｒ ĉａｋ は専門の電気技師として、これに参加している。

１９３３年にソヴィエトから上海に行き、その後１９３４年の夏に広東に着く。彼は広東の pleba domo に宿をとった。（ pleba domo は慈善事業で建てたもので、１泊は 10～20セントで、貧困者の宿泊所である。）広東エスペラント会は Ｆｅｄｏｒ ĉａｋ を講師として講習会を開催した。前記の Ｃｈｅｎ　Ｙｕａｎ さんは当時中学生だったが、この講習会へ通い、会話の練習をやったが、時々分からない単語が出て辞典のお世話になったと書いている。

また、「Ｆｅｄｏｒ ĉａｋ は流暢にエスペラントを話し、初対面から外国人と思わなかった。」と Ｃｈｅｎ　Ｙｕａｎ さんは書いている。そして、「中国に対して批判して、人口が多いこと、 Kontraŭ koncipi が必要なこと、そのために器具が必要だ。例えば kaŭcuka 。辞典を引いて理解した」と。

中国の国内を見て廻ったことは、Ｆｅｄｏｒ ĉａｋ がしばしば中国の美しい湖や渓谷などの話をしていたことで想像できる。私にも、「一生の中一回は中国へ行け」と言っていた。

さて、Ｆｅｄｏｒ ĉａｋ は何時広東を出て日本へやって来たのかは、はっきりしない。しかし、彼は高野口へ来るまで日本の各地を見て廻ったフシがある。ある時彼は、「松江の街には面白い所があった」と言うのである。「それは何だ？」と聞くと、「あそこには Bordeloがあった」と言う。私はこんな単語は初耳だったから、密かに辞典を引いてみた。そこにはDomo, kie la prostituitinoj akceptas la klientojn とあって納得した。大切な単語はすぐに忘れるのに、この言葉だけは今だに憶えている。

（紀州の茶がゆと Ｆｅｄｏｒ ĉａｋ ）

私達が彼に会ったときは、彼が３２～３３歳位だったと思われた。彼が言っていた通り、如何にも労働で鍛えたと思われる体躯、腕っ節をしていた。私達が彼に『デメ』と付けたニックネームは正にそのものズバリで、彼は実際茶目で皮肉やであった。一つ屋根で過ごした１週間の間に私達が彼から教えられたことは、エスペラントの会話だけではなく、ヨーロッパ式の習慣、男女交際やその他も色々教えて貰った。

紀北地方では朝食は『かゆ』である。いわゆる『茶がゆ』は紀州の名物である。横垣の家も、朝は茶がゆであった。Ｆｅｄｏｒ ĉａｋ はこれを Japana kaĉo と言って食べ、Bongusta、Bongusta と言って、お替わりをしていた。

私は日曜以外は会社に出勤し、時間があれば帰途横垣の家へ行き、泊まってデメさんの相手をしていた。横垣は毎日デメさんを連れて、あちこち散歩や小旅行をしていた。

そうしたある日、横垣は「今日デメを連れて、和歌山の橋さんを訪問してきた」と言う。橋さんは県下では古くからのエスペランチストで、私は名前だけは知っていたが一度も会ったことはなかった。横垣にしてみたら、長く病床にある橋さんを訪ねて、珍客のデメを連れて慰問するつもりであったのであろう。

私は早速デメに、今日会った橋さんについての感想を聞いてみた。答えは実にシニカルなものだった。" li estas duone mortinta "　デメにしたら恐らく元気な人を予想していたのではないだろうか。この言葉の前に、" domaĝe " という一言があったのに、私が聞き落としたのかも分からない。

ここで、橋さんの経歴などを一寸かいておこう。橋さんは海草中学を卒業後、野崎村役場、和歌山市役所に勤務、４５歳からは小児麻痺のため終生病床にあった。エスペラントの詩を書いたり、近松ものをエスペラントに訳して、学会の機関誌に発表したことがある。（１９０３年～１９７６年）

当時、私が県下のエスペランチストを学会に照会して憶えているのは、和歌山市の橋さん、山の井某、田辺町の松葉勢太郎、新宮の榎本文太郎、高野山大学の栗山の各氏であった。

(daŭrigota)

LA MALGRANDA SORĈISTINO

小さな魔女

La Maronvendisto　－ 2 －

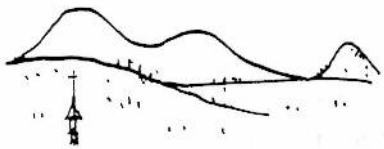
☆ 活字の部分は、木曜会の訳文です。

☆ 手書きの部分は、前田先生に御指導を戴いた訳文です。

Ekstere estis akra malvarmo!
La arboj portis dikajn, blankajn mantelojn. Musko kaj ŝtonoj estis malaperintaj sub la neĝo. Tie kaj tie vojsignis sledspuroj kaj piedsignoj tra la arbaro.

外は厳しい寒さでした。木々はぶ厚い雪のマントを着ていました。苔や石は雪の下に隠れていました。あちらこちらにソリの跡や森を通り抜けた人の足跡が道についていました。

La Malgranda Sorĉistino direktis la balailon al la proksima vilaĝo. La bienoj estis tute neĝkovritaj.



小さな魔女は近くの村の方へ箒を向けました。地面はすっかり雪におおわれていました。

La preĝeja turo portis neĝan ĉapon. El ĉiuj kamentuboj leviĝis fumo.

教会の塔は雪の帽子をかぶっていました。どの煙突からも煙が上がっていました。

Preterrajdante la Malgranda Sorĉistino aŭdis, kiel la kamparanoj kaj iliaj servistoj draŝis la grenon en la garbejoj: Rum pum pum, rum pum pum.

そばをとびながら（そんなあたりをかすめてとびながら、）

小さな魔女は農民と彼らの下男たちが納屋でどんなにして穀物を打つているのかを聞きました。ルンプンプン、ルンプンプン。

Sur la montetoj malantaŭ la vilaĝo svarmis infanoj, kiuj sledis. Ankaŭ skiantoj estis inter ili. La Malgranda Sorĉistino spektis, kiel ili konkure rapidegis malsupren. Iom poste alproksimiĝis neĝŝovilo sur la strato. Kelkan tempon ŝi sekvis ĝin; poste ŝi aliĝis al aro da kampkorvoj flugantaj al la urbo.

村の後ろの（むこう）丘の上で子どもたちがむらがってソリに乗って（そりで遊びをして）いました。彼らのなかにはスキーをしている人たちもいました。 小さな魔女は彼らが競争で滑り降りるのを見物していました。 少したって道の上の雪シャベル（?）（道の上につけた 雪よけに）に近づきました。
しばらくの間、彼女はそれをたどっていきました。そのあと彼女は街に向かって飛んでいる野ガラスのむれに加わりました。

Mi volas iri en la urbon, ŝi pensis, por iom varmiĝi marŝante; ĉar in tertempe ŝi ege frostis malgroŭ la sep jupoj kaj la du paroj da gantoj. La balailon ĉi foje ŝi ne bezonis kaŝi, ŝi metis ĝin sur la ŝultron. Nun ŝi aspektis kiel tute ordinara maljuna panjo, kiu iras por forigi neĝon. Neniu, kiu renkontis ŝin, pensis ion pri tio. Ĉiuj homoj rapidis kaj preterpasis ŝin kun kapoj duone kaŝitaj.

私（彼女）は少し温めるために街へ歩いて行きたいと思いました。なぜかというと、七枚のスカートと二足の手袋を着けていたのにその間も大変に凍りつくように寒かったからです。（あれこれしている間に 体がとても こごえたからでした。）
今回は彼女は箒をかくす必要はありませんでした。彼女は箒をかつぎました。
今（nun こうすると）本当に普通の年とったおかあちゃんが雪かきに行くように見えたのです。
出会った人は誰も何も（ion 変な とは）思いませんでした。人々はみな頭を半分かくして通り過ぎました。

Tre volonte la Malgranda Sorĉistino refoje ĵetus rigardon en la montrofenestrojn de la vendejoj. Sed la vitroj estis plene kovritaj per glacifloroj. La urba puto estis glaciiĝinta, kaj de la gastejŝildoj pendis longaj glacipendaĵoj.

小さな魔女はまた店屋のショーウインドをとても喜んで見ました。（店の陳列まどを またのぞきこみたくて（tre volonte ⇒）しかたがなかったのでした。）
けれどもガラスは一面氷の花でおおわれていました。 街の井戸は凍っていて旅館の看板からは長いツララが垂れ下がっていました。

（次号へ続く）

Jaro de Bovo

OKUMURA-Rinzo (Japanio)

En Japanio, estas stranga kutimo. Tio devenis el Ĉinio, antaŭ longa tempo. Kio ĝi estas?

Oni donas al la jaro, nomon de bestoj, kares-nomon, 12 bestoj, sinsekve, en ronda vico.

1-a estas rato.
2-a estas bovo.
3-a estas tigro.
4-a estas leporo.
5-a estas drako.
6-a estas serpento.
7-a estas ĉevalo.
8-a estas ŝafo.
9-a estas simio.
10-a estas koko.
11-a estas hundo.
12-a estas apro.

奥村林蔵先生より、ハンガリーの子供に送った手紙の写しが送られてきました。１月・２月号に載せるつもりが、遅れてしまいました。十二支については、日本では『ね（ねずみ）・うし・とら・う（うさぎ）・たつ・み（へび）・うま・ひつじ・さる・とり（にわとり）・いぬ・い（いのしし）』となっています。元々、中国から伝わったもので、年の数え方に分かりやすく動物の名前を当てたものです。何かの本で、『他の国では一部の動物が異なっている』と書いていたような気がして、今回図書館で調べてみたが確認できませんでした。ご存じの方はお知らせください。福本

La jaro 1996 estis "jaro de rato". Sekve 1997 estas "jaro de bovo". Kaj tiel 1998 estas "jaro de tigro".

Do 2007 estas ?

Jes, "jaro de apro".

La sekva jaro 2008 estas "jaro de rato", de-komence, rondo-ire.

Returne, 1995 (apro), 1994(hundo), ktp.

En kiu best-jaro vi naskiĝis?

Mi naskiĝis en 1912.

Do, kalkulu en kiu best-jaro mi naskiĝis.

En la Novjara Tago, jam en frua mateno preskaŭ ĉiuj japanoj vizitas sanktejon por kulti klaj ricevi talismanon aŭ amuleton por ke la familio estu feliĉa.

１９９７年７月［編集］福本博次　　Fondita de s-ro Maeda Yonemi en 1980

和歌山 WAKAYAMA　　Julio, Augusto １９９７

VERDA MONTETO

Redaktita de fukumoto hirotsugu　　(*dumonata*) *N-ro 95*

エスペラントで、もっと姉妹都市交流を！

江川治邦

エスペラントによる民際は、本来特定の地域に限られたものでなく、個人の自由意志により、自立した地球市民として幅広い交流をめざすことにある。しかし、少数派の私達がより多くの市民にアピールし、この運動に参加してもらうには、現段階では身近な人々に納得してもらいやすい私達の行動と実績が重要な要素となる。これには姉妹都市間におけるエスペランティストの交流は格好のテーマのひとつと考える。日本の姉妹都市交流は現在のところ、各地方都市行政の国際交流課を中心とした官主体であり、全体としてセレモニーやイベントの域を出ておらず、相手市民の顔が見えてこないのが実状である。

そこで、相手市民の生活が見える記事を私達ボランティアがお手伝いしましょうと、１９９６年春、タウン紙「ニュース和歌山」の編集部に提案し、快諾を得た。同社は市民生活の出来事を広く伝えるために、和歌山各地区に市民のボランティアによる通信員を配置している。これに目をつけた私達は、姉妹都市の通信員を提案した次第である。韓国・中国・アメリカ・カナダ・フランスにある姉妹都市とはエスペラントだけで可能であるが、私の提案に賛同する他の言語グループの人達とのジョイント・ベンチャー方式で作業を進めることにした。グループ名をエスペラントで『インテル・ポポーラ』とし、エスペラントは中国とフランスを、英語チームはアメリカとカナダを、そして韓国語チームは和歌山大学の留学生達が自国を担当した。

テーマは「各姉妹都市の市民から見た和歌山のイメージ」、「結婚式」、「教育問題」と続き、数ヶ月に亘り各都市順に連載された。勿論エスペラントを媒介した記事については、翻訳者名や先方エスペラントクラブ名と投稿者名も末尾に記載された。中国・山東省の済南エスペラント協会の皆さんや、、フランスのペルピニアン市エスペラントセンターの皆さんは、私達の要望に応えて熱心にレポートを送ってくれた。送られてくるレポートはそれぞれに楽しく、これらのボランティアと編集部の会合では、「エスペラントはすばらしい」と言ってくれた。このようなオープンな作業にすることで、エスペランティストの間には他の言語グループの人

間関係にない強い連帯感があることが、解っていただいたからだと思う。また記事を読んだことでの市民の反応も寄せられ、これを姉妹都市の寄稿者にフィードバックすることで喜ばれた。今後はインターネットの活用も考えたい。また当然ながら関心を持ってくれた市民を講習会で勧誘してゆきたい。

昨年の上海でのアジア大会では、プログラムの合間をぬって、山東省世界語協会の参加者（２０名のうち７名）とシルクロードホテルの喫茶室で会合を持った。内容はこのＶｅｒｄａ Ｍｏｎｔｅｔｏ誌９２号で報告の通りであるが、要はエスペラントで出来ることから実行し、私達の内容ある交流を両姉妹都市市民に広報し、エスペラントを広めてゆこうということであった。

地方都市にあって、「エスペラントはどんな言葉？何をしているの？」と問われた時に、国際語としての原理原則を説明するより、姉妹都市にあるエスペラントクラブとの具体的交流や、地域社会でのエスペラントの貢献内容を伝える方が理解を得やすい。和歌山では他の言語グループに先がけて和歌山市の民話「和歌山むかしむかし」のエスペラント訳出版（これをもとに済南市で中国語訳が出版された）や、和歌山児童合唱団のヨーロッパ公演（オランダ・ベルゲン市とドイツ・ボン市）をエスペラントのネットワークにより実現させたことは、地域社会を説得するのに十分な材料と思っている。

今夏、わかやま絵本の会のご協力を得て、和歌山が生んだ聖医華岡青洲の絵本を出版する。華岡青洲会館が建設される好機を捕らえての企画である。これはグループ・インテルポポーラの発行となるため、４カ国語（エスペラント・日本語・中国語・英語）での出版とした。本書は各姉妹都市の図書館への配布や、姉妹友好校への贈呈も考えたい。これは、地方文化の海外発信でもあり、言葉の勉強はもとより、姉妹都市市民間の相互理解の向上に役立ち、何によりもエスペラントの宣伝に寄与できることを期待している。また東南アジアでのエスペラント初級者の学習の手助けになればと考え、インド、シンガポール、ベトナム、中国のエスペラント協会へ送るつもりである。

日本では国際化が叫ばれて２０数年になる。しかしまだ自立した市民による民際の域にまで全体として到達していない。この点、一日の長にあるエスペラントには他の国際交流グループと比べて優れたノウハウの蓄積があるのではないか。そうであれば、もっとオープンな形で市民に向かって提案し、実行してゆくことを心掛けたい。エスペラントにはエスペラントとしての言葉の説明やエスペランティスト同志の活動報告が多いが、市民と一緒に国際社会にどうかかわってゆくかという行動様式がそれらに比べて不足しているように思える。すなわちＥｓｐｅｒａｎｔｏ ｐｏｒ ｓｏｃｉｏ．という視点である。これにはｐｅｒｉｓｍｏもｐｏｒｉｓｍｏも内包され得る。地方にあってエスペランティストがこれを克服する身近なテーマのひとつに姉妹都市があると思う。

来年の第８３回世界エスペラント大会は南フランスのモンペリエで開催される。和歌山県の姉妹都市ペルピニャンとは１５０ｋｍの近隣に位置する。私はこの大会に参加し、途中ペルピ

ニャンエスペラントセンターを訪問しようと決めている。このため、今秋より御坊の道成寺に通い、安珍・清姫の絵巻による「妻宝極楽」説法を習得し、これをエスペラントで紹介しようと考えている。和歌山の文化を海外で紹介するということに道成寺の和尚さんも賛同してくれた。人間、人生は一回。好きなことで少しでも世の中のためにお役に立つならばこんな極楽はない。いろんな言語を話す和歌山の姉妹都市の市民と国際補助語エスペラントを媒介して交流し、楽しみ、そして共生に向かって創造してゆく私達の姿が市民の目にうつる時、エスペラントが市民に身近なものとして認識されることでしょう。このことを意識した学習と行動を望みたい。

KARA, MANON DONU KORE!

TAĈIBANA Kenĵi

Kara, manon donu kore!
Kaj ni dancu sub la lustroj;
dume lasu la orelojn
nur al miaj basaj flustroj!

Ho, la nokto plenjuneca!
Ĉe la fingroj flamas sango;
Ĉu ne vibras, vin allogas,
tikla varmo, sur la vango?

Mem saltadu la piedoj
laŭ la ritma melodio;
ĉu ne flugas en la brustojn
trila ĝojo de pasio?

Nun ripozu por momento
sub la steloj rozariaj;
ĉu ne volas viaj lipoj
tuŝi ... ho jes! ... al la miaj?

（江川さんより次のハガキを頂きました。）

『あるエスペランチストの回想』のｐ５に橋（健二）さんが出てきます。戦後、関西大会を和歌山で開催するのを機会にお会いしたことがあります。

北島橋を北へ渡って、すぐ左へまがった所の大きな家であったことを思い出します。以下、彼の tipa な経歴を書きます。

橋健二（KENJI TACHIBANA)さんは小児麻痺の為エスペラントを独習していたが特に詩がお好きのようでした。

和歌山ではあまり知られていないようですが１９６５年６月１７日Stafeto 25 発行のjapana kvodlibreto に小坂狷二や宮本正男と肩を並べて彼の詩（１９４８年）が出ているので、ここで紹介させてもらいます。

あるエスペランチストの回想

No. 3

（Ｆｅｄｏｒ ĉａｋとパーフォーマンス）

田中正美

（ｍａｎ ĝｅｊｏ　ｄｅ　Ｖｅｒｍｉ ĉｅｌｏ、ウドン屋で）

ある日、３人連れでウドンを食べに行った。そこに来合わせたお客さん達１０人余りは、外人を見て奇異な感を抱いたのかジロジロと見る。 Ｆｅｄｏｒ ĉａｋ はテーブルの上にあった振りかけ用のトウガラシ瓶を持って、つっと歩き出した。見ていると一人一人のお客さんの前に立って、おどけた仕草をしながらお辞儀をし、食べているドンブリ鉢にトウガラシを振りかけている。 Senpage! Senpage!と言いながら・・・。私はデメさんの後について、「これはタダです」と説明して廻ったが、冷や汗ものだった。なぜならトウガラシの嫌いな人や、適当に振りかけていたお客さんも居たはずだから。

さて、デメのパフォーマンス振りを書くつもりだが、今まで誰にも語ったことのない話を思い切って書いてみよう。

（Ｐｕｂｌｉｋａ　ｂａｎｅｊｏ、銭湯で）

ある夕方、私達３人連れで町の銭湯に行った。湯船の中は大勢の人でごった返しであった。デメは早速裸になって、準備体操みたいな事をやっていた。プロレスラーと見違えるような引き締まった肉体、余計な贅肉は何処にも残していない正に鋼鉄の如き体躯であった。風呂に浸ると、入浴客は一斉に珍奇な目をデメに注いでいた。デメは彼等にサービスのつもりか、おどけた格好をしながら浴槽の中央に立って、 ŝipo, ŝipo と言いながら、浴客の間を行ったり来たりしている。一体何をしているのか、私は彼を注視した。（以下は表現しにくいので省略する、ご想像にまかせる。）

（プライベートな宴会で男性の裸踊りを何回か見たことがある。生まれたまんまの姿で踊っている本人は、宴会の雰囲気を盛り上げようとのサービス精神の外に自分の肉体を誇示する考えも多分にあって、何れも筋骨たくましい人ばかりだった。）

（高野山参拝）

さて私達は日曜日を利用して高野山へ参拝に行くことにした。高野山へは、高野口から汽車と電車、ケーブルを利用すれば日帰りで簡単に小旅行ができるので、デメと共に駅に向かった。汽車賃は各自負担である。この時、デメは高野下まで電車で行き、ケーブルは利用しないと主張した。私達はケーブルの区間は歩いて行った。急坂をよじ登るのはつらい行軍であった。高野山に着くと、丁度弘法大師１０５０年祭とかで多くの参拝客で賑わっていた。私達は別に頼んだつもりはなかったが、一人の若い僧侶が案内役を勤めてくれた。彼はお寺の由来や、灯籠の説明をしたが、まるでお経を唱えている如くで、私はどう訳してよいのか戸惑うばかりだった。デメは『何と言っているのだ』と私達を急き立てるのだが．．．。

『金堂の高さは○○尺、○○天皇の時代に建立されたのであります。』（ホンヤクは無し。全然無視。通訳なし。

途中、土産物店の並ぶ商店街に出た。ここに私の知人の土産物店があったので立ち寄ってみた。すると、ご主人は是非昼食をしてくれとのこと。応接室に案内され食事のご馳走に預かった。ご主人のお母さんや家族の人々、それに近所の人々が集まってきて、外人珍しさに私達を取り囲んでしまった。

この時集まってきた人々の質問と、Ｆｅｄｏｒｃ̂ａｋの応答は次の通りであった。

『日本の印象は？』

① Tre bela lando kaj domoj, kies pordo ne troviĝas seruroj.

② Japaninoj, kiuj sin vestas per Kimono, estas tre belaj.

②のところで、私は『日本の女性は大変きれいだ』と直訳したのだが、Ｆｅｄｏｒｃ̂ａｋは”Vi eraras.”と言う。私は改めて、『着物を着た日本の女性は・・・』と訳し直したらＯＫが出た。

デメは皆さんの歓迎に応えて、ハンガリーの民謡を歌うと言い出した。彼はあの堂々たる体躯から、声量豊かな声で歌い始めた。　Ｔｒａ　ｌａ　ｓｔｒａｔｏｊ、ｔｒａ　ｌａ　ｓｔｒａｔｏｊ　．．．。　それはエスペラントであった。私は初めて聞いた彼の歌に感動した。

Tra la stratoj

Tra la stratoj, tra la stratoj
marŝas, marŝas la soldatoj
Deksejara bruna junulino
iras ĉe l' regimentfino

Kapitan' ŝin alparolas
Junulin' vi kien volas?
Kial tion scii vi deziras?
Ja amatin' mi post-iras.

大勢の観客の前で歌った歌に、皆んなから割れんばかりの拍手をもらったデメはすごく感動したのか、『これはおまけだ』と言って歌い出したのは、その当時大流行していた小林という女性歌手の唱う「涙の渡り鳥」であった。しかも日本語だ。全く正確な日本語だ。

『わたしゃ涙の渡り鳥．．．』

私が漫筆を書いた時は、確か歌詞を憶えていて全部書いたと思うが、今はすっかり忘れてここに書くことができない。デメはこれを三番まで見事に歌ったのである。しかも両手を胸に当て、表情豊かに歌った彼の姿に、私達は期せずして喝采したのである。ところで彼は何時、何処で日本語の歌を憶えたのであろうか。しかも正しい発音だった。

店を出る時、ここでデメは絵はがきを買った。彼は店の人に、同じ風景のものを揃えてくれ

と言っていたが、店の人は１０枚セットになっている旨を言った。デメは仕方なく一組を買った。記念スタンプを押したものを私は直ぐに揃えてまとめようとしたら、デメは目をむいて怒っている。 " ankoraŭ freŝa " （まだスタンプが乾いていないじゃないか。） 成る程、成る程。

その日は歩き通しで、私達はヘトヘトになっていた。デメだけは平気で、スタスタと歩いて行く。奥の院が今日の最後の行程になっている。鬱蒼と生い茂る樹木の立ち並んだ歩道を行く。何百年も前からそびえている古木の間には、歴史上の名高い人々の墓碑が並んでいる。デメはしきりに、そこにある碑のことや、その由来などを訊くのだが、私達にはそれを説明する余裕は全くないので、無視していた。やっと奥の院にたどり着いた。

奥の院の前には今でも置いてあると思うが、格子窓のついた囲いの中に、力ためし用の円形の石が置かれている。格子窓から腕を差し込んで、この石を持ち上げる仕組みになっている。デメは早速、この石を手の平に乗せ、上段の置き場所へ移す作業に取りかかったが、何回やっても失敗した。私も試してみたが駄目だった。何分にもその石は、大勢の人の脂のせいかピカピカに光って滑りやすくなっていた。

参拝を終えて帰路についたが、横垣も私も一日中歩き通しのために疲れ切っていた。物を言うのも億劫で無言の状態が続いた。突然デメは私達に言った。

Vi estas.... Via kapo meritas eĉ unu rusan kapekon!

一人称だったが、私や横垣に対して言ったのであろう。私は少し頭に来たが辛抱した。横垣はと見たら、いつの間にか居なくなっていた。恐らく先に帰ったのであろう。仕方がないので、デメと二人でケーブルの乗り場まで行った。

ふと駅舎のかげから横垣が出てきた。私達の来るのを待っていたらしい。機嫌は直っていた。さて私は切符売り場に行ってデメを待っていたが、彼は一向に来ない。デメを促すと、彼は「帰りは歩いて行く」と言うのである。彼にその理由を聞くと、次のように答えた。

"la vetura kosto de tiu vagono estas tre altkosta, la plej kara en la mondo"

そして曰く

"la kompanio estas publika ŝtelisto jure permesita"

とは言うものの、私達はもうこれ以上歩く気力は無い。途方にくれていると、横垣は切符売り場に走った。そしてデメに一枚の切符を差し出して、"Jen via" と言って渡した。デメは笑顔で受け取って、"bone, bone, tre bone", "do ni kune envagoniĝu" と言いながら電車に乗り込んだ。

かくして高野山参拝は終わった。

デメは翌朝、高野口駅から名古屋へ旅だった。この時見送ったＦｅｄｏｒｃ̂ａｋは再び私達の前にその姿を現すことはなかった。

それ以後彼は何処へ行ったのであろう？

そして何時日本を去ったのであろう？ (daŭrigota)

LA MALGRANDA SORĈISTINO

小さな魔女

La Maronvendisto —3—

☆ 活字の部分は、木曜会の訳文です。

☆ 手書きの部分は、前田先生に御指導を戴いた訳文です。

Sur la foirplaco staris mallarĝa, verde farbita lignobudo. Antaŭ ĝi staris fera forneto; kaj malantaŭ la forneto staris dorsekontraŭ la budo malgranda, ŝrumpita vireto. Tiu surhavis vastan ĉaristan mantelon kaj feltŝuojn. La kolumon li estis levinta, kaj la ĉapon li estis tirinta sur la vizaĝon. De tempo al tempo la viret ternis. Tiam gutoj falis sur la ardan fornplaton kaj siblis.

"kion vi faras tie?" demandis la Malgranda Sorĉistino.

"Ĉu vi ne vidas tion? Mi-haĉ!-mi rostas maronojn."

"Maronoj? Kio estas tio?"

見本市の広場に緑色にぬったせまくるしい木小屋が建っていました。その前に小さな鉄のストーブが置いてあって、その後ろに小屋を背にして　しわくちゃの小男が立っていました。

彼はフエルトのくつをはいて御者用のマントを着ていました。彼は衿を高く立て帽子を顔の上まで（sur）　ひっぱり下ろしていました。時々彼はくしゃみをしました。するとそのしずくが燃えさかっているストーブの板金の上に落ちると、シュウシュウ音を立てました。

"こんなところで何をしているの？"と小さな魔女は尋ねました。

"あんたはそれを見ないのか？（これ、見えないか？）わしは....ハックション！....栗を焼いてるんだ。"

"栗？栗って何？"

"Manĝeblaj kaŝtanoj ili estas", klarigis la vireto. Tiam li levis la kovrilon de la forneto kaj demandis ŝin: "Ĉu vi deziras kelkajn? Dek fenigojn por la malgranda papersaketo kaj dudek por la granda. Ha -a-ĉ!"

La odoro de la rostitaj kaŝtanoj atingis la nazon de la Malgranda Sorĉistino.

"Mi tre volonte gustumus, sed mi ne kunportis monon."

"Tiam mi esceptokaze volas doni al vi kelkajn senpage", diris la vireto.

"En tiu siberia malvarmego vi nepre bezonas iun varmaĵon. Haĉ, tiel estas!"

La vireto blovpurigis la nazon per la fingroj. Poste li prenis manplenon da kaŝtanoj el la rostujo kaj metis ilin en saketon el bruna pakpapero. Tiun li donis al la Malgranda Sorĉistino kaj diris:

"Jen, prenu ilin! Sed vi devas senseligi ilin antaŭ ol ŝovi en la buŝon."

"Koran dankon", diris la Malgranda Sorĉistino kaj gustumis.

"Ha, ili estas bongustaj!" ŝi kriis surprizite ; kaj poste si diris:

"Sciu, vin oni povus envii! Vi havas facilan laboron kaj ne bezonas frosti, ĉar vi staras ĉe varma forno."

"Ne diru tion!" kontrauis la vireto.

〝食べられるどん栗だよ。〞と小男は説明しました。彼は小さいストーブのカバー（コンロのふた）をあけて、彼女に質問しました。〞いくつか欲しいかい？　１０個の小さい紙袋と２０個の大きい紙袋があります。（小さい紙袋で10ペニー，大袋で20ペニー……. La kaŝtano kostas が省略されている……Dek fenigoは値段のこと。）

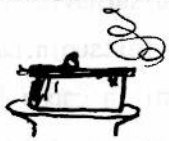
ハクション！〞

焼けた栗の匂いが小さな魔女の鼻に漂ってきました。〞私はとても食べたいけれどお金を持っていないわ。〞

〞それなら例外として、（特別だ ただであげよう。〞と小男は言いました。〞シベリアのような寒さの中ではあんたは何か温かいものがきっと必要だ（あんたもきっと何かあたたかいものが ほしかろう。）

ハックション，ほら　ね！〞

小男は指で鼻をほじくりました。（さっとこすりました。）そして焼き釜から手に一ぱいの栗（ひとつかみの栗）をつかみだして茶色の包み紙の袋へ入れました。それを小さな魔女に与えて言いました。〞さあ持って行きな、けど口へ押しやる前に（口へほうりこむ前に）皮をむかねばならない。



〞有難う〞と小さな魔女は言って味わいました。

〞あら、おいしい！〞と彼女はびっくりして叫びました。そのあと彼女は言いました：人はあんたをうらやましがるにちがいないわ、容易な仕事を持っているし、凍えることはないし、なぜって温かいストーブのところに立っているんだから。〞

〞そんなこと言わないで！〞と小男は反論しました。（〞とんでもない！〞と言い返しました。）

（次号へ続く）

１９９７年９月［編集］福本博次　　Fondita de s-ro Maeda Yonemi en 1980

和歌山　WAKAYAMA　　Septembro, Oktobro １９９７

VERDA MONTETO

Redaktita de fukumoto hirotsugu　　(*dumonata*) *N-ro 96*

コンスタンスさんが再び和歌山へ

（オランダのS-ino Constance HARVEY さんが１０月に和歌山を訪問予定）

約１１年前、オランダで難病のＡＬＳ患者へのボランティア活動をしているコンスタンスさんが、京都で開催のＡＬＳ世界会議に出席の途中、和歌山に立ち寄った。

世界的にみて、ＡＬＳ患者が和歌山県に多く、この点で和歌山医科大学の研究が進んでいることもあり、和医大研究室に案内した。当時、田端和医大附属病院長（後年の和医大学長）も出迎えてくれた。コンスタンスさんがカナダ人であり、田端病院長は青年時代カナダに留学したこともあり、話がはずんだことを思い出す。

その後、病院の近くの喫茶店で和歌山緑丘会の歓迎会があった。そんな関係で１９８８年のロッテルダムで開催の第７３回世界エスペラント大会に出席の時、ベルゲンの彼女の邸宅でご馳走になり、有名なオランダの風車や干拓地等を案内していただいた。

また１９９２年、和歌山児童合唱団のヨーロッパ演奏に際し、ベルゲン市での公演と総勢５２人のホームステイのお世話を一手に引き受けてくれた。

先日の彼女からの手紙によると、今年の１０月５日に日本に到着後、１２月１５日まで日本各地のエスペランティストを訪ねての旅が予定されている。『和歌山には是非立ち寄りたい』と書いている。和歌山のために働いていただいた彼女を心から歓迎したいと考えますので、緑丘会の皆さんのご協力をお願いします。

５月１日付けの手紙のよると、彼女の娘さん Bregje (31才)は、１９９６年に南アフリカの Salt 市で開催された世界空手選手権大会で銅メダル（３位）を獲得したこと、また、１９９７年 Ruhrlandhalle（ドイツ）で開催のヨーロッパ空手選手権大会で、「形」および「組手」の部で金メダルを獲得したことを知らせている。

Bregje も１９８５年以来のエスペランティストで、アウグスブルグ（１９８５年）とワルシャワ（１９８７年）の世界エスペラント大会にも参加している。

（余談）当時コンスタンスさんを京都までご案内した途中、大阪駅で東京発長崎行きの特別列車と出くわした。オランダ村ハウステンボス行きのキャンペーン列車で、東京オリンピックの柔道無差別級で金メダリストとなったヘーシングさんが乗っていた。ホームは出迎えの人々であふれていた。私はコンスタンスさんの案内で、人垣をかき分けてヘーシングの前に立ち、彼女の通訳で彼と話をし、握手をした光栄を思い出します。　（江川治邦）

あるエスペランチストの回想

Ｎｏ．４

田中正美

（ 戦前の運動 ）

私はこの稿を書くために古い日本エスペラント学会の機関誌「Revuo Orienta」を引き出してきた。私の手元にあるのは、１９３３年（昭和８年）以降、現在まで殆ど揃っている。それを手掛かりにして、その後のＦｅｄｏｒ ĉ ａｋの足取りを調べて見たが何も見出すことが出来なかった。

私が一番心配したのは、彼は当局からスパイの容疑をかけられているという風評を耳にしたからである。当時はエスペランチストは危険人物として見られていて、特高は尾行したり、警察に出頭させてわれわれを悩ましたものである。私も例外ではなかった。この事は稿を改めて書く。さきのＦｅｄｏｒ ĉ ａｋが日本に来る直前、広東でエスペラント講習会を開いた時のことを書いたＣｈｅｎ　Ｙｕａｎさんのレポートを借用する。

Fedorĉak, kien iris la inĝeniero, forlasinte Kantonon?

Ĉu li revenis en sian　hejmlandon?

Ｃｈｅｎさんは、ヨーロッパに行った時、ハンガリーの古いエスペランチストやその他の知人に彼のことを聞いてみたが何れも徒労に終わった。

（ 田辺支店勤務時代 ）

私が田辺支店勤務を始めて２年目、横垣が私の下宿にやって来た。２ヶ月余り彼と一つ屋根で過ごすことになった。　彼はその時、秋の文展へ出品する作品の制作準備中だった。私達はＦｅｄｏｒ ĉ ａｋのお陰で、エスペラントで不自由なく会話が出来た。今思うと、結局若さと度胸だったと思う。人の前でもエスペラントで話すことは一種のプロパガンダだと自負していた。

横垣は毎日画架をかついで大浜海岸等へ写生に出かけていた。写生したものの中には、未完のものや、出来上がったものもあり、下宿の部屋はそれらで占領されていた。

ある日曜日だったが横垣を尋ねてきた中年の紳士があった。横垣は自分の描いた作品の批評を頼んだものらしい。後で聞くと、その人は白浜に住んで居られた二科の原勝四郎先生だった。

夕方は、私達は散歩がてら街を歩いて、行きつけの喫茶店に落ち着くのが日課となっていた。その日は、横垣の姿は下宿には見当たらず、私一人でブラリ散歩に出て行き、いつもの喫茶店へ入った。フト見ると、横垣はすでに来ていて、見知らぬ女の子と話をしていた。可成り親密な様子である。女の子はと見れば、田辺では見かけないスマートな容姿の人である。一寸日本人離れしたスペイン系の女の子である。私はツット彼の前の椅子に座った。するとテーブルの下から横垣の手が伸びてきて、私の手の平に何か握らしてきた。

"Ｆｏｒｉｒｕ　ｔｕｊ"（とっとと立ち去れ）と彼は私に言う。私は何のことか分からぬまま外へ飛び出した。手の中のものを見ると、１円札１枚だった。これは有り難い。１円あれば、関東煮きで一杯飲める。ご機嫌になって下宿に帰った時は、夜もかなり深まっていた。横垣の姿はなかった。

（ エスペラントと特高 ）

ある日、宮本が私を訪ねてやって来た。エスペラントの会話をやりたいという。私は彼を連れて闘鶏神社へゆき、ここの由来を話し、次いで大浜海岸を散歩して廻った。ずーとエスペラントで説明した。その時彼は、治安維持法で別荘ゆきをして、出てきた直後だった筈である。戦後の彼の葉書には、「田辺へ行ったのは、同志との連絡をとるためだった。ところが田辺から帰って来るのを待ち構えていたかのようにポリさんにパクられてしまった。」と書いてあった。この時の宮本の葉書は今でも私の手元にあるが、細い字で（コレは書くな）と書いてある。ずいぶん昔のことだからもういいだろう。

１９３６年暮れ、和歌山商工会議所でザメンホフ祭が開かれた。呼びかけ人は当時県の商工課に勤めていた岩崎さんであった。私は会社を早めに出て和歌山へ向かった。今のように急行はなく鈍行だったから、着いた時は集合時間ぎりぎりであった。会場にはすでに１４～５名の人が集まっていた。私が受付の前に立つと一人の僧衣を纏った若い人が話しかけてきた。Kiu vi estas? Kia nomo? El kie vi venis? 矢庭にエスペラントで話しかけてきた。私が名前を告げると、彼は会場に向かって叫んだ。Venis Tanaka el Tanabe!

このザメンホフ祭に（私は忘れていたのだが）宮本も出席していたことを、彼からの手紙で知らされた。その文面の中に席上、横垣は来ていたが、前田さんの顔は見えなかったと書かれていた。僧侶姿の人は服部保さんと言って、私の隣に居た人の説明では、みんなは彼のことを strangulo と呼んでいるということだった。私は密かに彼を観察すると、なるほどと理解できた。第一、僧衣を纏ってエスペラントをまくし立てている姿は、凡人の出来ることではない。彼は徹頭徹尾エスペラントを使った。相手が理解しようとしまいと不関の態度だった。

後年、宮本に彼のことを聞いたら、彼はその後大阪府下の高校で教師をしているということだった。宮本が彼に何処かで会ったときは、昔のように僧衣を着て、相変わらずよくしゃべっていたと話していた。

会合がすんだ時は１１時を過ぎていた。夜行列車はなく途方に暮れていると、和歌山新聞社に勤めている若いエスペランチストから和歌浦から船が出ることを教えられ、それを利用することにした。その青年は親切にも新聞社員の臨時出張証明書を持ってきてくれた。お陰で割引運賃で翌朝５時すぎ、田辺文里港につくことを出来た。

岩崎さんは県庁を退職した後、和歌山商工会議所の理事長を長年務めた人である。今この人が生存していたら、あのザメンホフ祭に集った人たちのことも伺えるのに残念に思う。

昭和１２年以降は、軍国主義一色で時の政府は戦争突入を計画していたから、政府のやり方に反対したり批判したりする者は一人残らず拘束したのであった。私も例外ではなかった。私は労働運動に参加していた訳ではないのに特高警察は私を危険人物としてマークしていた。田辺警察の二名の警察官が常時私を監視していた。

昭和１４年６月、私は銀行を辞めて、海南市で古本店を開いた。私は独身であったから転業したのだった。今で言う脱サラと言うところだろう。ところが開店早々、一番手に訪ねてきたのは私服の二人であった。名詞をみると二人とも海南警察署の特高である。この二人は私に赤紙（召集令状）が来るまで常時やって来た。

当時、海南市には二人のエスペランチストがいた。山県、青木の両氏。戦時中だったこともあってエスペラント運動はやっていなかったが、田辺から海南に来た私のことを知って、開店のお祝いに来てくれたのは何よりもうれしかった。

翌年初春、結婚して間もない私達の店に一人の軍人が入ってきた。長靴を履き、腰に軍刀をつけた長身の人であった。差し出した名刺をみると、和歌山憲兵分隊、憲兵軍曹荒木五郎とあった。私は用件を聞くと、それには答えず彼は店に並べてある書籍をあちこち見て廻っていた。どうやら思想関係のものを探しているらしい。何も見当たらなかったのか暫くして奮然として立ち去った。傲慢の一語につきる。

私と妻は顔を見合わせて、出ていく彼の背を憎しみの目で見ていた。この時、一冊でも思想関係の書籍が発見されたら、それを理由に拘束する予定だったのであろう。　　（Ｆｉｎｏ）

El ege malnova libro: "Miru Pensu Ridu" (1950)
ずい分昔の本から、今に通じるお笑い

Vidvino igis skribi sur la tomboŝtono de sia mortinta edzo:

Ripozu en paco
ĝis kiam ni revidos nin!

(kaj Kio okazos poste?)

ベトナム訪問記（その4）　1996．12　福本博次

（ハノイのホーチミン廟の前で：ＶＥＡ役員と）

８日。朝からハノイへと向かう。ノイバイ空港ではＶＥＡの会長などが出迎えてくれ、自動車でホテルに直行し、一休みする。午後ＶＰＥＡの最初の会長グエン・バン・キン氏の墓参りをする。共産党の歴代書記長などの墓もあり、ここには一般の人の墓はないとのことであった。

９日。朝は市内の文廟、一柱寺などを見学する。文廟には、中国に倣って導入されていた科挙の合格者全員の名前が年代順に記されている石碑を背負った石の亀が沢山並んでいる。ベトナムでは現在ローマ字を使って表記しているが、かつては日本と同じく漢字が国家の言語であった時代が続いた。しかし今では、中国系の人の一部しか漢字の読み書きはできない。漢字を捨ててしまったことは、ちょっと残念な気もするが、歴史のなせることで仕方がない。（ちなみにハノイとは「河内」、ノイバイ空港は「内牌空港」とのことである。）

午後は４０周年大会に参加する。参加者は７０名程である。外国からは、私たち２人と西園寺さんであった。西園寺さんはベトナムのエスペラント仲間では知らぬ人はいないくらい有名人で、「湧命法」はよく知られていた。ホーチミン市からは後で分かったが数名であった。他の地区からの参加があったかどうか訪ねなかった。最初にベトナム国歌と「エスペロ」を歌う。挨拶はベトナム語が多く、エスペラントの通訳が付かなかったので、内容は良く分からなかった。エスペラントの挨拶は、ダオ・アン・カさんがベトナム語に逐次訳してくれた。私は檀上にいながら写真を撮ったりし

て落ち着かず、挨拶の内容については記憶に残らなかった。この記念大会で「ベトナムエスペラント協会」の健在ぶりを対外的に示せたのが成果ではなかろうか。来賓は別として、もっとエスペラントでの挨拶が欲しかった気がするが、参加者の中にはエスペラントを解さない人も含まれていそうである。集会のあとは、お茶とお菓子が用意されていて、参加者とは少しだけ話ができた。しかし、私にエスペラントで直接話しかけてくれたひとと、書記長のホン・ハックさんが通訳してくれた人で、時間も少なくて十分な交流にならなかった。

夜はホテルで食事をし、還剣湖（ホアン・キエム湖）の周りを散歩する。ホテルから湖までは歩いて５分程なので、何度かここを歩くことになった。湖の周囲は数十メートルの幅に公園になっていて、朝はあちこちで体操や、バドミントンをしている。昼間は土産物売りの子供等がしつこく迫ってくるので、何個か買わされてしまう。子供たちは路上で、観光客相手に実践しながら英語を学んでいる。先生も学習書もなしに、通じる外国語を身につけている。われわれもこの点は学ぶ必要があるかもしれない。「使う必要があるから修得できる。必要のない言語は習得できない。」

（ＶＰＥＡ創立４０周年記念大会　）

LA MALGRANDA SORĈISTINO

小さな魔女

La Maronvendisto　－4－

☆ 括字の部分は、木曜会の訳文です。

☆ 手書きの部分は、前田先生に御指導を戴いた訳文です。

"Se oni staras en la malvarmo la tutan tagon, oni tamen frostas. Tiam ankaŭ la fera forneto ne helpas. Per ĝi oni eĉ brulvundas la fingrojn elprenante la varmegajn maronojn. -Haĉ!-kaj krome? Miaj piedoj estas paro da glacipendaĵoj, tion mi diras al vi! kajeĉ la nazo! Ĉu ĝi ne estas ruĝa kiel kandelo de kristnaska arbo? Mi ne plu povas liberiĝi de tiu nazkataro. Estas malesperige!"

Kvazaŭ konfirme la vireto ternis denove. Li ternis tiel korŝire, ke la lignobudo ŝanceliĝis kaj la foirejo resonis de tio.

Tiam pensis la Malgranda Sorĉistino: Tion mi povas ŝanĝi! Atendu iomete.... Kaj ŝi murmuris sorĉdiraĵon, sed kaŝe. Poste ŝi demandis:

"もし、一日中この寒さの中で立っていたら、やはりこごえるよ。鉄のストーブも役に立たない。高温の栗をとりだして、やけどさえする。（こんろで熱くなった栗を取り出す時、やけどもするしな。）ーハック！ション ー その上、わしの足は一対のツララだ。 それを わしはあんたに言いたい。（tion mi diras al vi ⇒ まったく！）
それに鼻さえも！この鼻はクリスマスの木のローソクみたいに赤くはないかね？ わしはそんな鼻カタルから解放されることはない。 絶望させる！"（もうのがれられないんだ。まったく かなわんよ！）

確かめるように小男は再びくしゃみをしました。彼は、木小屋がゆれ動き見本市広場が反響するくらいに、胸をひきさく様なくしゃみをしました。（とても痛々しいくしゃみで、そのために木小屋が揺れ、市場の広場にくしゃみがこだましました。）

その時、（そこで）小さな魔女は考えました：わたしは それを変えることができる！（ŝanĝi ⇒ よくして あげられる！ ） ちょっと待って....
そして彼女は魔法の呪文をつぶやきました、そっと。そのあと彼女はたずねました：

"Ĉu vi ankoraŭ havas malvarmajn piedfingrojn?"

"Momente ne plu",diris la vireto. "Mi kredas,ke la malvarmo iom malpliiĝis. Mi sentas tion je la nazopinto.Kio do okazis?" "Ne demandu min",diris la Malgranda Sorĉistino,"mi nun devas rajdi hejmen."

"Hejmen-rajdi?!"

"Ĉu mi diris rajdi? Vi certe misaŭdis."

"Supozeble estis tiel",diris la vireto.

-"Gis revido!"

"Gis revido",diris la Malgranda Sorĉistino."Kaj koran dankon!"

"Ne dankinde,ne dankinde,nenia kaŭzo!"

Tuj poste kurante venis du knaboj trans la foirejo kaj kriis:"Rapidu rapidu,sinjoro Maronvendiso! Al ĉiu por dekfeniga monero!"

"Jen,bonvolu,dufoje por dekfenigoj!"

La maronvendisto metis la manon en la rostujon.Sed unufoje en sia tuta longa maronvendista vivo li ne brulvundis la fingrojn per la varmegaj kaŝtanoj.

Li neniam plu brulvundis ilin. Kaj ankaŭ neniam plu li frostis je la piedfingroj. Kaj ankaŭ ne je la nazo.La kataro estis kvazaŭ forblovita por ĉiam.Kaj kiam li foje tamen emis terni,tiam la bonkora maronvendisto devis preni iom da snuftabako.

" まだ足の指はつめたい？"

" もう　冷たくないよ" と小男は言いました。" わしは寒さが少しましになったと信じている。(寒さが少しゆるんだように思うね。) 鼻の先で感じるよ、どうしたんだろう？"

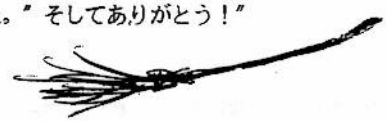
" わたしにそれを問わないで "と小さな魔女は言いました。" わたしは家へ乗って帰らなければ"

" 家へ....乗って？！"

" わたし、乗ってと言った？　　きっとあんたの聞き違いよ"

" 多分そのようだね" と小男は言った。

" さようなら" と小さな魔女は言いました。" そしてありがとう！"



" どういたしまして"(何でもないよ！〈お礼を言っていただく何の kaŭzo (理由、根拠)もないよ〉)

そのあと、二人の子どもが見本市場を突きぬけて (むこうから) 走って来て叫びました。" 早く早く、栗やのおじさん、１０ペニーの栗をわたしたちに下さい" (Al ĉiu ひとりひとりに ⇒ ぼくらに!)

" さあ　どうぞ (はいよ, (はいきた) １０ペニーのを二袋！"

栗売りは手を焼きなべの中へいれました。でも、彼は長い栗売りの人生を通じて、熱い栗で　初めて指をやけどしなかったのです。(こんなことは、栗屋さんが　長い間 栗屋のしごとをしていてはじめてのことです。)

そして又、鼻も。鼻カタルは、その後ずっと　まるで吹き飛ばされたようでした。そして、くしゃみをしたくなった時に、心やさしい栗売りは、少しのかぎタバコをとり出さねばならなくなりました。

かぎたばこを少し ⇒ 使うことになりました。)

(Fino)

１９９７年１１月［編集］福本博次　　Fondita de s-ro Maeda Yonemi en 1980

和歌山 WAKAYAMA　　Novembro, Decembro 1997

VERDA MONTETO

Redaktita de fukumoto hirotsugu　　(*dumonata*) *N–ro 97*

Mia frua eksiĝo tra amara laboro kaj serĉadi la vivĝojon per Esp.

EGAWA Harukuni

Finfine mi eksiĝis du jarojn pli frue ol je 60-jara aĝlimo.

Jam pasis 40 jaroj depost mia eklaboro. Ja mi persistadis kiel unu el ekonomiaj animaloj, de frua mateno ĝis profunda vespero ĉiutage en mia okupo, tamen kompreneble por mia pano. Dum tiom da jaroj mi spertis la preskaŭan bankroton de mia kompanio, ĝian nomŝanĝon kaj neforgeseblan petrolkrizon.

Kiel la laboristo en la komerca fako ĉiam min okupadis la severaj negocoj kaj konkurencoj superi aliajn. Por glate plenumi la taskon mi devis legi ĉiutage plurajn ĵurnalojn por akiri konon persvadi, akumuli pli avantaĝajn informojn, kolekti pli valorajn novaĵojn kaj plibonigi mian talenton de golf-ludo, maĝango, sociala danco kaj kantado per Karaoke en drinkejo, kie mi sintenas por ne doni malagrablecon al miaj klientoj kvazaŭ vira gejŝo.

La klientoj ĉirkaŭ mi estas diversaj: laboristoj en fabriko, kompaniaj direktoroj, laboratorianoj, oficistoj kaj eĉ profesoroj. Vero kun malvero, principo kun vera intenco ĉiam kunestas danĝere dum negocado. Sed konklude menddecido kuŝas en la mano de kliento. Do , kliento estas reĝo. Tamen surgenue peti al li estas mizere kaj tia negoco neniam alportas bonan frukton. La faktoroj por akiri mendon konsistas el la kvalito pri varo, la prezo , la uz-celo de kliento, la kosto kaj la homrilato inter vendisto kaj kliento.

Tio estas la mondo de kapablo en libera merkato ekster sia kompanio, kvankam estas hazardo, kio tamen ne daŭras longtempe. Sed bedaŭrinde en kompanio ankoraŭ regas ene tiel nomata diskriminacio kiel sekso, aĝo

kaj lerneja kariero. Do, kapablo ekstere prilumata ofte baras sian promocion en fermita mondo. Sed tia fenomeno devos degeli vole-nevole en la venonta jarcento por konservi japanan bonan konjunkturon, mi pensas.

Kapablismo disvolviĝos en libera, nereguligita de registaro kaj malfermita mondo. Sed aliflanke plua prizorgo al hadikapuloj, maljunuloj, ekloĝantoj el aliaj landoj kaj pli bona medio estos des pli bezonata laŭ la disvolviĝo de libera konkurenco. En tia mondo, sindediĉa kaj volontulema agado estus estimata kaj spegulata kiel alta moraleco.

Traviva eduko sur memstaro florados diverskolore en tia direkto kaj ankaŭ prosperos nia Esperanto ne sole kiel inteligentula hobio sed kiel praktikilo por socia servo. La ŝlosil-vorto por la 21-a jarcento povas esti "HOMO", pri kiu politiko, religio, eduko kaj ekonomio devos denove rekoni sian strarpunkton.

Ĉiutaga frekventado per trajno dum 34 jaroj inter Ŭakajama kaj Osaka lacigis min ĝisoste. Sed mi ne forgesis kunporti la vortaron de Esperanto kaj organojn en mia teko. Mi povis legi ilin en trajno. Por mi tiu okazo estis Verda Tempo konsolata for de laboro pelata de peza normo kaj hejma afero.

Bastono por apogo antaŭ ol falo! Tuj post la eksiĝo mi konsultis kuraciston. Apenaŭ mi rimarkis min sana, mi tuj komencis vivi kun Esperanto: legi laŭvole libron en Esperanto, eklerni interreton per Esperanto, traduki la bildolibron "Hanaoka Seiŝu" de "Ŭakajama Ehon no kai" (Societo de bildlibro en Ŭakayama) en Esperanton, sinpreparo al U.K. kaj provi la komercon kun ĉino per Esperanto, kio estus profitdona al Azia Movado, se sukcesa.

De venonta aŭtuno mi ekzercos min ludi la bildrakonton pri Anĉin kaj Kijohime, pri kio la bonzo de la templo Doĵozi permesis min aktori en Esperanto. Se la de mi aktorota ludo fariĝos kontentiga, mi esperas prezenti ĝin al precipe Esp-istoj en la ĝemelaj urboj en estonteco okaze de mia vizito. Kaj se prezenti tiamaniere lokan kulturon per Esperanto helpos internacian kompreniĝon kaj fariĝos bona propagando por Esp., mi estas tre feliĉa.

Post la eksiĝo ĉiuj tagoj estas dimanĉoj por mi. Sed homa vivo havas limon. Do, mi kreu mian vivĝojon per amata Esp., kun kiu mi jam estas forte ligita kiel mia sorto.

ベトナム訪問記（その5）　1996．12　福本博次

１０日。ハノイ友好協会連合会を訪問した後、前会長ダオ・アン・カさんの自宅を訪ねる。この訪問で市内の住宅の様子が少しわかる。我々のために書いてくれた詩を朗読してくれる。ダオ・アン・カさんは詩人とのこと、彼の詩集をプレゼントしてもらう。ベトナムでは折りにふれて詩を贈ることがあるそうだが、知識人の間のことかもしれない。「歌垣」の習慣が中国南西部の少数民族やベトナム北部の地域に残っているので、即興の歌を歌うのは伝統的かもしれない。

ダオ・アン・カさんの家でご夫妻と一緒に

次に、彼の送ってくれた詩のエスペラント文と、ベトナム語訳を見てください。

ベトナム語は現在ローマ字で書かれているが、元々中国語と同じように、単音節語（一つの漢字に対応する）の組み合わせでできている。声調は６声で、中国語の北京

Hanojo, la 12-an-12-1996

DAO ANH KHA

Adiaŭo

Al Kumaki H.
Fukumoto H.
Saionji

Nu hejmen, vin atendas la sakura sezon'
Jen glaso krizantema de ĉi-nia aŭtun'
Persikojn ne forgesu, nepre vi revenos
Printempoj novaj per am-kantoj vin plu benos

(en vjetnama ligvo)

Tiễn dưa

Vâng, anh về, mùa anh dào ngóng đợi
Chén cúc nồng thu dượm tiễn chân nhau
Đây có dào, xin dừng quên trở lại
Sẽ đơn ngày xuân mới, hát tình sâu

の４声ではなく、広東語の６声に似ている。従ってこの詩も、もし漢字で書けば、漢字８文字の４行に表されることになるだろう。

詩では、sakura と krizantemo で日本を暗示している。persiko は詩人の姓の Dao で、漢字で書けば「桃」である。ベトナムでは新年（旧暦の正月）に、桃の枝を飾るそうです。旧正月はまた春を意味します。　（続く）

田中正美さんの「あるエスペランチストの回想」に次の原稿を付けるつもりが、遅れてしまいました。お詫びして、掲載します。また、奥村林蔵さんの「十二支の記事」へのコメントも頂いておりました。

・・・・・ 一期一会 ・・・・・

一期一会（いちごいちえ）という言葉がある。茶人千利休の弟子の宗二の書いた本に出てくるという。Ｆｅｄｏｒｃａｋとの出会いは正にこのことを表している。これをエスペラントで書いてみた。

これは皆さんへの宿題のつもりです。

Unu foja renkontiĝo
en viv-tempo,
Unu foja renkontiĝo
en tuta vivado.

<< ベトナムでは水牛になっている >>

この間、ベトナムの十二支のことが書いてあったと思いますが、私の持っているベトナム発行の本の中で、日本と同じ十二支を使っています。ただし、牛（ｂｏｖｏ）は『水牛』（ｂｕｂａｌｏ）になっています。　ベトナム発行の本は大分読みました（１０冊程）が、そのどれに載っていたかは分かりません。　（田中正美）

エスペラントで書くむつかしさ

江川治邦

エスペラントの原作ものベストセラーといえば、 Cazaro Rossetti の "Kredu min sinjorino!" である。内容のおもしろさは勿論のこと、歯切れの良い表現はうならせる。まだ読んでいない方は是非一読されたい。すでにハンガリー語、ポーランド語、日本語と英語に翻訳出版されている。ハンガリー語版は１ヶ月で２万冊が売り切れた程である。

弟の Reto も熱心なエスペランティストで、多くの原作を発表している。最近、彼の "El la amiko" を読んでみた。そこで感じたことは、エスペラントからの日本語訳は辞書と文法書を片手になんとかできても、エスペラントで文章を書き、意に添った表現をすることは大変難しいと言うことである。それにはエスペラントの本を多く読むこと以外にないらしい。

"El la amiko" には次のような文章があった。こんなエスペラント表現には相当の経験を積む必要がある。仮に右側の日本文ならあなたはエスペラントでどう表現しますか。

① li haltis en sia paŝegado	①足早に止まった
② klaĉema, ventokapa virino	②うわさ好きの軽率な女
③ ekvidis ŝin dumpase	③通りすがりに彼女をちらっと見た
④ Neniu virino min svate rigardas.	④どの女も私を結婚相手として見ていない
⑤ rigardis min disokule	⑤きょろきょろと私を眺めた
⑥ en la momento de ekrigardo	⑥見た瞬間
⑦ adaptante sian paŝadon al la ŝia	⑦彼女に歩調を合わせて
⑧ la parolo turniĝis sur la temo de ～	⑧話は～の話題に移った
⑨ la vaske klara haŭto	⑨（日本で言う）「もち肌」か
⑩ Frosto trakuris min.	⑩ぞ～とした。
⑪ post rapida ĝis-saluto al ～	⑪～に早々に挨拶をすませて
⑫ Kiel mi morgaŭ povus montri la vizaĝon?	⑫明日は人前に出たくない（世間に合わす顔がない）
⑬ Mi ne estas ventoflago sed principulo	⑬私は人の言いなりにならない、自己主張のできる（意見の持った）男だ。
⑭ kion vi kaŝas sub tiu kasita ekstero, Bili? Amotigro, ĉu? La kaŝita donjuano de la klaso?	⑭ビリー、お前は仏顔（ほとけづら）をしている（おとなしく装っている）が、そうではないだろう？送り狼か？（日本では amolupoとなるのか）このクラスの角に置けない女たらしか？

Zamenhofa Festo 1997

和歌山緑丘会
Wakayama klubo Verda Monteto
ザメンホフ祭　ご案内
日時：１９９７年１２月　６日
　　１２時～
場所：サロン「会」（いつもの場所）
参加費：１０００円
（コーヒー、お菓子、軽食あり）
（参加者は福引き用の賞品として１人１個、不要品又は２～３百円程度のものをご用意下さい。日本エスペラント学会、関西エスペラント連盟の会員の方は会費も集めます。）

◎ Joel Brozovsky さんが来られます。
◎宮本さんの楽しい腹話術があります。
◎ザメンホフ祭は世界中で本の日になっています。今年はＫＬＥＧより本の販売あり。
◎エスペラントと関係の深いユネスコの話しがあります。
◎その他、色々あり。多数ご参加を！！

会費の払い込みは、〒振替をご利用下さい。（印刷費、郵送費として使用します）
振込番号：「大阪　６－３６３０」　名義：和歌山緑丘会　会費：年３０００円
家族・学生は１０００円　　会計係　〒640 -8412 和歌山市狐島 65-12 牛島美恵子

Ｖｅｒｄａ　Ｍｏｎｔｅｔｏ誌の　***１００号記念の原稿募集***

１９８０年に新しい装いで始まったものが、前田さんの努力で隔月間を続けて約１７年、まもなく、この機関誌も１００号を迎えます。会員の皆さんの投稿、その他何でも、原稿を募集します。記念号だけでなく、いつでも原稿は歓迎します。

編集後記：わずか８ページのものでも、続けていくのはなかなか大変。今年は退職してから、エスペラントの活動一筋の江川さんがたくさんの記事を書いてくれました。また海南市の田中さんの「回想」は当時の様子を伝える貴重なものです。多くの熱心な人に支えられて広がってきたエスペラント、１２月の例年のザメンホフ祭を前にして、この世界共通語の誕生に思いを馳せたいものです。

オランダのコンスタンスさん（愛称はコニー）との２回目の出会い。今回は町の中よりはと言うので、生石高原を通って、有田の実家により、護摩壇山、高野龍神スカイライン、高野山と巡ったが、午後から出発したので奥の院に着いたのが５時前で、高野山ではゆっくりとできなくて残念だった。山はないというオランダから来たので、大変喜んでいた。他には、交番を見に行ったり、近所の一人暮らしのお年寄りを訪ねたり、天理教の教会を覗いたり、最後は金屋町下六川のヤマギシム実顕地を見学したりで、通常の旅行者では体験できないものだった。６７歳とのこと。これから日本語の勉強をしようとしている。何事にも興味を持って、何でもおいしく食べてもらい、本当に楽しい出会いでした。（福本）

１９９８年　１月［編集］福本博次　　Fondita de s-ro Maeda Yonemi en 1980

和歌山　WAKAYAMA　　Januaro, Februaro　１９９８

VERDA MONTETO

Redaktita de fukumoto hirotsugu　　(*dumonata*) *N-ro 98*

el GUTO da ROSO la dua　No. 1

誰のどの句の訳句かをあててください。随分変形されていますよ。　奥村林蔵

Ridu, rampu Hodiaŭ ci aĝas Jarojn du.	Printempo maro sin lulas tut-tage.	春の海 ひねもすのたり のたりかな
Bufo kvakas "Kie printempo?" en Tôŝôdaiĵi.	Ploras je umbliko ŝnuro. Jarfino.	Ĉu nobelid'? ĉu vulpa feo printempa?
Kolz-floro ornamas kastelon de Kôrijama.	Anhele printempon kaptas mi Ŭaka-plaĝe.	

一つだけ思いついたので、元の句をつけてみました。合っているのかな？ 皆さんも元の句を考えてみませんか？　思いついたら、福本までハガキか電話でご連絡ください。

次号以降に、新しい句の紹介と、前号に載せた元の句を日本語で対訳してみたいと思います。　（福本）

ベトナム訪問記（その6）　　1996．12　福本博次

午後にはベトナムテレビを訪問し、渉外部の副部長さんなどと会う。多くの建物は改修中で、パラボラアンテナが新しかった。テレビ塔はもう使われていないのではないかと思うくらい古くて、これから建設し直す必要がある。写真にあるパラボラアンテナは新しい。

その後、ベトナム外文出版の関係者と会い、その建物の屋上にあるレストランで早い目の夕食をごちそうになる。ベトナム戦争の頃は、ここからエスペラントの本がたくさん出版されたので、中国と同様に職業的エスペランチストがいたことになる。ベトナムの建物は、地震がないからなのか、５階以上もあるビルも煉瓦を積み上げただけで出来ているようである。ハノイは建物の数の割には人口が急増してきたので、狭い建物にもたくさんの人が住んでいるとのこと。最近では外国人向けの住居が不足して、売り手市場のため家賃が大変高いそうです。

１１日。朝のうちはホテルでＶＥＡの役員と、第２回アジア大会、辞書の出版準備状況や今後の協力について話し合いをする。辞書は、①ベトナム語ーエスペラント辞書、

（ベトナムテレビのパラボラアンテナの近くで、左端が HANESPE のホップさん）

（玉山祠の入り口でランさんと熊木氏。日本と同じく以前は漢字を使っていた。）

②エスペラントーベトナム語辞書、③エスペラントの語根から派生語を知る辞書の３つを出版できるように準備しているが、資金不足で具体的な出版計画は立っていないとのことである。

第２回アジア大会については、ハノイで開催したい意向であり、カムラン湾で青年合宿のような企画も実施したい考えも持っていた。私自身は外国から参加しやすい大会にしてほしいと思う。ハノイとホーチミン間の飛行機代も入れるとベトナム行きは比較的高くなるが、日本からも多くの参加を望みたい。ベトナムのエスペランチストは第２回アジア大会を成功させようと全力をあげているので、今回ベトナムを訪問した一人として日本の皆様にもできるだけの協力をお願いしたい。

午後は市内見物及び買い物で過ごす。泊まったホテルはホアン・キエム湖の近くなので、まず湖のそばにある玉山祠という、モンゴルの侵略を撃退したチャンフンダオなどが祀られている寺に行く。ここは湖の中の小さな島の中にあり、木の橋を渡って行く。ベトナムの寺には沢山の漢字が使われているが、今のベトナム人にはさっぱり分からない。案内してくれたランさんもフランス語や英語は分かるが漢字は全然分からない。

（続く）

― コピウエだより ―　第1回

和歌山緑丘会の皆様　お元気でおすごしですか？

チリ・サンチャゴへ来てから７ケ月すぎようとしています。　主人のチリ赴任に家族で同伴してきましたが、見るもの　聞くもの　めずらしいことばかりです。

毎日とても忙しく、和歌山にいた頃よりも家事に精を出し、がんばっています。

時々、日本からのお便りや日本のニュースが届くと本当に嬉しいです。

地球の正反対の所でも日本人がくらしているなんて不思議ですネ。

日本の製品は、ここでも大変評判が良く、時計や計算機などを初めとして色色なものが輸入されています。　ｄｅ　Ｊａｐｏ́ｎ（日本製）は何でも誇りにできます。

すばらしい製品をつくるために日本人がどれほど努力しているか、また、小さい頃から勤勉に励んでいるか、ということをチリの人たちは知っています。

これからも世界の国の一員として、先進国の名にはじない日本人になっていきたいと思います。　また、いろいろな国のそれぞれの良さを知って、どんな国の人たちとも仲よく友だちになっていきたいですね。　平和は一人一人の手でつくっていくものだと思います。

コピウエはチリの国花です。

日本人は知らないと思いますが、つる科の植物で　赤い小さな花が房のように下がって咲いています。

４月～６月頃　ちようどこちらの秋の頃ですが、４ｃｍ位のかわいらしい花がたくさん見られます。　本当に濃い赤い色をしています。

こちらの花々は本当にきれいで大きく、たくさん　鮮やかな色の花が見られますが、コピウエは小さくて野生の強い花です。　チリの人たちが、この花を国花として愛していることがよくわかります。

厳しい自然の中で、寒い冬の前に美しく咲いている小さなコピウエの花は、日本の桜の花とは又ちがった印象的な花です。

楠　見　悦　子

1997.oct コンスタンスさんの和歌山再訪！

（ユネスコ協会の５０周年記念で講演するコンスタンスさん。左は合唱団の子供達）

Ｖｅｒｄａ　Ｍｏｎｔｅｔｏ誌の前号に、福本さんからコンスタンスさんの和歌山案内の報告がありましたので、その他の部分について報告します。

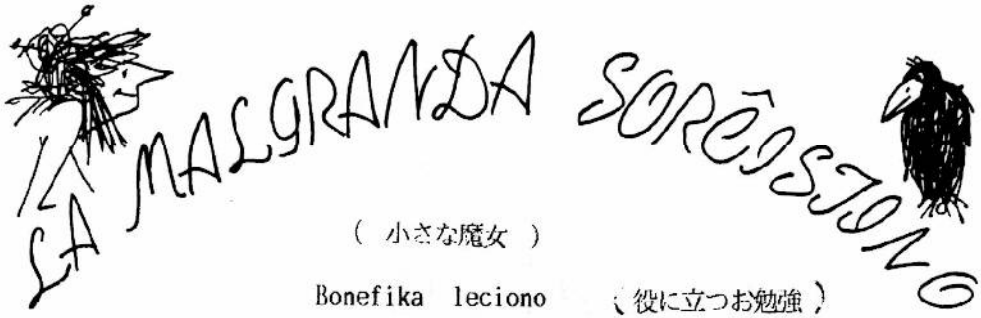
１０月１１日、私の長女の結婚披露宴に出席していただいて、日本の結婚式を体験してもらう。１２日の朝、サンピアでコンスタンスさんを囲んで、松下、福本、亀井、橋口、米田の６名で懇談会を行った。午後は和歌山児童合唱団の父兄のお世話で日本の米秋を農家で体験した。その夜は、日本語の実地勉強ということで、 ne-esperantisto の岡本宅に泊まる。

１３日は、和歌山ユネスコ協会会長の松尾久さんのお世話で、木ノ本の獅子舞と宇治田空手道場を見学した。コニー（コンスタンスさん）の娘さんは空手をしていて、世界空手大会で銅メダルを獲得している。同夜は、ユネスコと児童合唱団主催の新地、浪漫亭での歓迎会に出席し、すき焼きとビールで５年前の和歌山児童合唱団オランダ公演の思い出話しに花を咲かせた。１５日は江川宅で過ごし、京都へ見送った。

１１月１日に、和歌山ユネスコ協会創立５０周年記念祝典にも招待され、再度和歌山に来られた。ここでは、オープニングセレモニーでの児童合唱団の歌の後、和歌山市長、各教育委員や近畿地区各県ユネスコ協会会長が居並ぶ前で、彼女がエスペランティストであること、児童合唱団のオランダ公演成功の功労者であることが紹介された。晩餐会ではエスペラントと日本語で挨拶をした。

京都の西村那智子さん宅では、ホームステイしながら、近畿各地のエス会を訪問したり、日本語教室に通ったりしていたが、１１月末、駅に向かう途中で転倒して肩を骨折したため、１２月初旬に予定を繰り上げて関西国際空港より帰っていった。　（江川治邦）

今年のザメンホフ祭は、京都からジョエルさん、和歌山ユネスコ協会の会長さん、和歌山医大の中国からの留学生の陳さんも含めて沢山参加された。ユネスコの話し、原水禁の話し、それにジョエルさんの指導で、簡単な単語を使って会話の練習。宮本さんの腹話術もあって、多くのプログラムで時間が足りなかった。関西エスペラント連盟からは、中道さんが重たい本を運んで来て販売してくれた。（途中で自動車が故障し、本を運ぶのは大変。中道さんご苦労様でした。）木曜会の皆様、毎年毎年、色々と準備して下さり有り難うございました。（福本）



（ 小さな魔女 ）

Bonefika leciono （役に立つお勉強）

Dum kelkaj tagoj pluvadis senĉese.Tial la Malgranda Sorĉistino nur havis la eblecon vole nevole sidi en la ĉanbro kaj oscedante atendi pli bonan veteron.Por pasigi la tempon ŝi kelkfoje sencele sorĉis:ŝi igis la nudelrulilon danci valson kun la fajrohoko sur la fornoplato kaj la rubaĵŝovelilon rulfali,la buterobarelon stari surkape.Sed ĉio ĉi ne kontentigis ŝin,baldaŭ tio ne plu plaĉis al ŝi.

Kiam ekstere la suno denove ekbrilis,la Malgranda Sorĉistino ne plu povis resti en la sorĉistina domo."Ek!"ŝi kriis entrepreneme,"tuj for tra la kamentubo! Mi devas vidi,ĉu estas io sorĉinda!"

"Jes,sorĉu ion bonan antaŭ ĉio!"atentigis Abrakso. Kune ili rajdas super la arbaro kaj al la herbejoj.Tie ankoraŭ ĉie restis akvoflakoj.La kampvojoj estis ŝlimplenaj,kaj la kamparanoj vadis profunde ĝis la maleoloj en la marĉo.

何日か雨が降り続きました。それで小さな魔女はいやでも部屋にとじこもってあくびをしながらお天気がよくなるのを ただただ待つばかりでした。

あてもなく時間つぶしに何回か魔法をかけてみました。だんろ棚の上でめん棒と火かき棒とでワルツを躍らせたり、ちりとりをころがしたり、バターつぼをさか立ちさせたり。でもこんなことはどれも満足できず、じきに飽きてしまいます。

外でふたたび日が輝きだすと、小さな魔女はもう家の中なんかでじっとしていられません。何かやりたくてうずうずして、「さあ！さっそく煙突から外へ！何か魔法を使うことがあるか。さがさなきゃ！」

「そうだね。まず何かよいことに魔法を使いましょうよ」とアブラクソがひとこと注意しました。

魔女とからすはほうきに乗って、森や野原の上を飛んでいきました。森や野原にはまだあちこちに水たまりがのこっていました。野道はどろだらけで村人たちはくるぶしまでぬかるみにつかって歩いていました。

次号へ続く

（この記事の版権は、前田先生が S-ino Yoshie Kleemannから戴いています）

1997年会計報告

（平成8年12月16日～平成9年12月15日）

収入の部

項目	金額	摘要
前年度繰越し	73,676	
会費	99,000	当日会費11名 会費24人
会員割引	12,000	KLEGT5600 JEJ 6.400
預金利子	177	
	184,853	

支出の部

項目	金額	摘要
通信費	42,680	
印刷費	59,976	
事務用品	16,281	
会議費	9,915	
	128,852	

収入の部	184,853
支出の部	128,852
	56,001

平成6年5月から和歌山緑丘会の郵便振替口座の番号が下記のように変更しましたのでお知らせします。

新口座番号
00960－8－3630

会計係　牛島美恵子

１９９８年　３月［編集］福本博次　　Fondita de s-ro Maeda Yonemi en 1980

和歌山　WAKAYAMA　　Marto, Aprilo　１９９８

VERDA MONTETO

Redaktita de fukumoto hirotsugu　　(*dumonata*) *N-ro 99*

ベトナム訪問記（その７）　１９９６．１２　福本博次

１２日。朝からワゴン車でホア・ルーに遠足に行く。ここは９６８年から１００９年の間、ベトナムの首都であったところだ。ディン王朝等の王様を祀っている寺が残っているが、戦争が続いたせいか、十分な手入れがされてなく、訪れる人も少ない。

ホアルーはハノイから南へ約１００キロの位置にあり、ホンハ（紅河）デルタの平地を南へ国道を走った。道路は一部ホーチミンへ向かう線路のそばを通っているが、便数が少ないのか、貨物列車に１本に出会っただけであった。道路は周りよりも数メ

ートル盛り土をして作られている。こうしないと雨期や洪水で水につかってしまうのだろうと思う。湿地や沼沢地の中に土地を作るのは大変なことである。遠く田んぼの中には農村の集落が木立に囲まれて見える。農作業は手作業でやっている。ところどころ牛も見える。

ホアルーに近づくにつれ、あちこちに山が見えてきた。これらは平地に据え付けられたかのように、突き出た山ばかりだ。後でビッグドンでも見るような岩山ばかりである。寺の近くも水路がつながっていて家には舟がおいてある。ここでも雨期には水

（山の形が変わっている。急な崖の上に野生のヤギが見えた）

に浸かってしまうのだろうか。このあたりには田んぼが見えない。寺の前では、おばあさんが線香を売りつけにくる。

この後はすぐ近くのビック・ドン（Ｂｉｃｈ　Ｄｏｎｇ）に向かった。舟乗り場のそばのバスの待合所のような家で、持参のパン、ハム、缶詰、野菜などによるピクニック形式の昼食をとる。ここは陸のハロン湾といわれ、ここらの地域には切り立った岩山が沼沢地の中に突き出ていて、景勝の観光地となっている。

小さな手こぎのボートに分乗して、往復３ＫＭほどの行程で左右にこれらの山を眺める。途中山の下にできた洞窟を抜ける。ボートは竹を編んで作っているが、防水が悪いのか、我々の乗ったボートは少しずつ水が浸みてきてたまるので、時々すくいだしていた。大きな水音もたてず滑るように行く、騒音に馴れた耳には、この静かな舟

旅は何ともいえない気分になる。狭い浅瀬に稲を植えていたが、普通の水田は見られない。聞くところによれば比較的貧しい地域であり、刺繍が大きな仕事になっているらしい。帰りの舟では、積んでいる刺繍入りのテーブルカバーなどの販売をする。ここの村人は一月に約１回の割合で交替して、この仕事をしており、貴重な収入源となっているようである。

（私たちのボートのこぎ手はこの姉妹で、中学生とのこと）

（続く）

アメリカ人なのに、なぜエスペラント？

私は日本にいるアメリカ人ですが、初めて私に出会った人たちは、私が英語でなくエスペラントで話しているのを知って驚いているのです。時には、私がほんとにアメリカ人なのか信じられないとまで申します。というのは、私がエスペラントだけでしゃべっているのを聞いたからなのでした。

さて、アメリカ人の大多数は英語を使いたがるのはほんとうです。多くのアメリカ人は、英語でけっこう事足りるし、世界ではどの人も英語を学ぶべきだと考えているのです。では、なぜ私が、アメリカ人以外の人たちと話をするのにエスペラントを使うのか？そのわけを以下いくつか書いてみます。

☆　友情　☆

長い旅行中、私に英語で話しかけてくる人たちの大部分は、人間としての私にも、また私の生い立ち（来歴）にも、関心を持っていなかったことに気付きました。彼等の関心の第一はお金でした。私に何かを売ろうとしたり、私から英語を習おうとして、より高い教育や、より高給の地位などを得ようとしているのです。それとは対照的に、私とエスペラントで話し合う大部分の人々は、人間としての私、あるいは私の生い立ちについて関心をもっています。その人たちの多くは、私と友だちになろうとし、また事実その中の多くの人と友だちになりました。

☆　平等　☆

日本人やその他の国で英語を母国語としない人と英語で話していると、いつも私は英語達人の位置に必ず座らされ、そしてその相手がどれほど英語を勉強したかということに関係なく、生徒と先生とか、目下目上の人のような、低い位置で話すのです。それとは変わって、もし私と話し相手が、例えば日本語で話し合ったとしたら、立場が同等か逆になるのかも知れません。こういう不平等は、交友をはなはだ妨げます。

☆　とびらを開く　☆

長い世界旅行中、エスペラントは形の上でも、ことばの上でも、私にたくさんのとびらを開いてくれました。３年間の旅行中、私は１５０家庭のエスペランチストの家に泊めてもらいました。お金を払ってホテルで泊まったのは一晩だけでした！エスペラントとエスペランチストを通して、私は実に豊かな文化を楽しみ、さまざまな多くの人々と出会い、その人たちの生活、文化、家庭、考え方などに接して、親しく知り合いになることができました。

何年か友情が続いたあと、その親友たちの何人かは、私と出会うまでは、アメリカ人はきらいだったと打ちあけました。だから私が英語を使っていたら、今はもうすっかり親しくなったその友だちとは、きっと友だちになれなかったでしょう。エスペラントはその人たちへのとびらを開いてくれたのでした。

☆　世界へ貢献　☆

エスペラントをひろめる仕事をやりながら、私は何か世界へ役立つことをやっていると感じています。世界の人々が、自由に対等な人間どうしとして交流できるなら、そしてエスペラントによって友だちになれるなら、世界はきっとより良くなり、公正になり、共感し合えるでしょう。エスペラントだけであらゆる世界の問題が解決できるとは思いませんが、解決をやりとげようとする人々を助けることができます。

☆　創作意欲　☆

私はエスペラントを使うのが大すきです。エスペラントは創作意欲をより高めてくれるような道をつくってくれているからです。エスペラントには、大きな融通性があって、文を書いたり話したりするとき、英語とくらべて自由を感じます。英語の構造や語いは比較的固着しています。エスペラントでは、新しい表現を作り出す可能性はほとんど無限です。エスペラントが既にもっている素材を使って新しい表現法をさがしたり、ぴったりの表現をみつけたりするのは大きなよろこびです。

☆　価値ある体験と自信　☆

エスペラントによって開かれたとびらをくぐって、私は多くの価値ある生活体験を得ましたが、それはエスペラントなくしては容易に得られないものでしょう。そのような豊かな生活体験は、私の自信を大いに高めてくれて、世界の場でより適切に行動する心構えを私に持たせてくれました。

☆　新しい世界観　☆

エスペラントを使うことによって得た、恐らく最大の収穫は、私の世界観が急激に変ったこ

とです。以前は、世界を満たしているのはあかの他人ばかりだと想像していました。とても変わった人たちで、近よれないと思っていました。そういった「他人」にはあまり気を許すこともできません。というのは、そんな人たちは見知らぬ人びとだからでしょうね？

ところが、エスペラントを使っての私の体験で、この想像は大へんまちがったものだと気づきました。世界を満たしているのは、あかの他人ではなくて、私や私の家族と同じ人間なのです。その上、それらの人間の中のずい分多くの人たちは、私と出会い、知り合いになる機会があると、私と友だちになりたがるのです。だからその人たちは、あかの他人でなく、友だちか、将来友だちになる人々なのです。

なんと大きな違いでしょか！今や、私は世界中の人たちと現実に結ばれていると感じています。そして世界の一部分にだけとか、ひとつだけの言葉とか、ひとつだけの文化にだけにもはやしばられていないのだと感じています。世界中の人々とつきあうことに私は自由なのです。どこにでも友情をもった人がいるし、エスペラントは、簡単に彼等と話し合える手段を私に与えてくれているからです。

JOEL BROZOVSKY　　(前田　訳)

ーコピウエ だよりー

第２回　＜　ナ　ナ　＞

和歌山緑丘会の皆様

お元気でお過ごしでしょうか？　学校は１２月１４日から１ケ月間の夏休みになり、私もホッと一息ついているところです。

チリは、他の中南米の国々と同様で、習慣として中流以上の家庭では普通ナナというお手伝いさんを雇っています。家事一般のことをナナがしてくれます。　日本の女中さんというような感じとは少しちがっていて、家事専門家というか、とにかく　ナナという一つの仕事のプロとして存在しています。　その家族のなくてはならない一員で、家のこと一切仕切ってくれる頼りになるナナさんです。　掃除、洗濯、子守り、料理と　奥様は殆ど手を出しません。　デパルトでは主に通いですが、カサ（家）だと住込みのナナさんも多いです。　お給料の他、食事や制服もその家で払っています。

しかし、我が家では今のところナナさんを雇っていません。　デパルトは狭いし、日本食大好きの家族ですので、チリ料理はあまり食べません。

また、日本人にきてくれるナナはあまり評判がよくないこと、また、ナナの給料も最近は高くなっていて、節約のため、などなどの理由ですが、チリ人のお宅でテキパキと働いているナナさんたちをみると、とても羨ましいなあ～（ケ．エンビディア）と思います。

楠　見　悦　子

（和歌山県腹話術協会主催の、第１６回腹話術発表会での、同会副会長宮本敏企さんの作品です。５００人の聴衆を前にエスペラントの大変なＰＲになりました。またザメンホフ祭でも披露されましたが、実際に聞くととても面白いですよ。）

中国語・エスペラント・紀州弁

宮本敏企

花子：（チャイナ服で）ニーハオ！

敏企：おや、花子ちゃん、中国の衣装を着て中国語でご挨拶ですね。でも中国語ではどうして「こんにちは」を「ニーハオ」って言うの？

花子：ニィッて笑って歯を出すからよ。ではこれから、中国語入門講座を始めます。中国語には４つのイントネーション、つまり音の上げ下げの調子があります。これを四声と呼びます。

敏企：一つずつ教えて下さい。

花子：一番目、第一声は高く平らに伸ばす。そして第二声は、驚いたときの「ええっ！？」みたいに下から上へ上げる調子。三番は高いところからいったん下げて少し上がる。最後はカラスの鳴き声みたいに「カァー」と落とす。

第一声　第二声　第三声　第四声

敏企：どう？太郎君、分かったかい？

太郎：そんなの、和歌山弁にもあるで。

敏企：えっ、ほんと？

太郎：第一声は平らな調子、上がっても下がってもあかん。「胃（いー）」「血（ちー）」「気（きー）」。胃袋も血圧も気分も、上がり下がりは禁物。

敏企：なーるほど、理屈が通ってる。

太郎：第二声は上がって表へ出る。「手（てー）」「目（めー）」。

敏企：つい手が出る、目玉が飛び出る。ふーん、出るもんは上がり調子か。

太郎：もう一つあった「屁（へー）」。それとは逆に、下がり調子の第四声は、抜けて落ちる。

敏企：太郎君の口元見て分かったぞ。「歯（はー）」やろ？

太郎：それとあんたに関わりの深い「毛（けー）」やな。

敏企：くやしいけど、ちゃんと筋が通ってるだけに文句が言えんわ。待てよ、第三声、いったん下がって少し上がるやつ、こんなん和歌山弁にはないで！

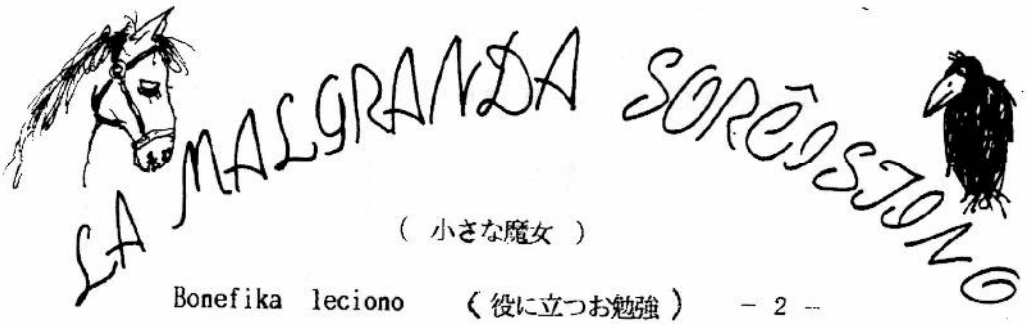
太郎：おっしゃる通り、最近まではなかった。しかし、去年の秋にできた。「あーぁ、銀行つぶれてしもた！」

敏企：お気の毒でしたが、第三声はいったんは下がってもまた上がりますから気を落とさず頑張って下さい！さて、中国語も結構、紀州弁の楽しいけど．．．

花子：みんなが共通のことばで話せたらすてきなのに！

敏企：そんな理想を現実のものにしたのが、エスペラント語です。誰にとっても平等で、偏りが無く、しかも容易に修得できることば、エスペラント語を一緒に学びませんか？

（1997. 1.19　県民文化会館小ホール）



（ 小さな魔女 ）

Bonefika leciono （役に立つお勉強） － 2 －

Ankaŭ la ŝoseo estis kotplena pro la pluvo. Venis ĉaro nun el la urbo. Ĝi estis tirata de du ĉevaloj kaj ŝarĝita per bierbareloj. Sur la malbona strato ĝi nur malrapide formoviĝis. Ŝaŭmo gutis el la buŝegoj de la ĉevaloj. Ili pene klopodis tiri la pezan ĉaron. Sed por la biercaristo, sidanta sur la benko kun disetenditaj gamboj, la rapideco ne sufiĉis.

広道も雨でどろだらけでした。ちょうど町から荷馬車がやってきました。馬２頭でひっぱっていましたが、荷台にはビール樽が積んでありました。

道が悪いからのろのろと進んでいました。馬は大きな口からあわを出していました。重い荷馬車を引くのにけんめいでした。でも荷馬車のおじさんは、両足をひらいて馭者台にすわり、馬の歩みの遅いのが気にいりません。

"Ho!" li kriis, "tiru do, vi bestaĉoj!" Kaj li batis senkompate per vipo la ĉevalojn-denove kaj denove.

おじさんはどなります。「オーラ！ひつぱらんかい、このど畜生め！」そう言っておじさんは馬をむちで情容赦なく何回も何回もなぐりました。

"Tio ja estas punenda!" grakis Abrakso indignite.

からすのアブラクソはおこってがなりました。「あれはいかんよ！おの乱暴者、むちの名人みたいに馬をなぐっている。あんなのだまって見てられますか？」

"Tiu krudulo! Li draŝas la ĉevalojn kiel batmajstro! Ĉu tion oni povas pasive rigardi?" "Konsoliĝu", diris la Malgranda Sorĉistino, "li mallernos tion."

小さな魔女は「まあおさえて。あの人はそれをいってもわからないのよ」

Ili sekvis la ĉaron, ĝis ĝi haltis antaŭ la bierejo "Al la Leono" en la najbara vilaĝo.

魔女とからすは荷馬車のあとについていきました。そしてとなり村の〃AL La Leono（ライオン亭）〃というバーの前まで来てとまりました。

（次号へ続く）

誰のどの句の訳句かをあててください。随分変形されていますよ。 奥村林蔵

Printempo pasas. Fiŝoj ĉu larmas?	行く春や 鳥啼(とりなき) 魚の目は泪	Maj-pluvo. Sur river-bordo domoj du.
Sun-radio. Sanktas folioj. Juna verdo.	Kolz-kampo. Luno oriente. Suno ŭeste.	Sago-flue en maja pluvo Mogamigaŭa.
Diagonale kukolo flugas ĉef-urbon.	Verda foli'. En mont' kukolo. Ĝuu boniton.	目に若葉 山ほととぎす はつ松魚(がつお)

前回掲載した俳句について、元の句をさがしてみました。有名な俳句ばかりですね。

① Ridu, rampu; Hodiaŭ ci aĝas; Jaroin du. 這え笑え、二つになるぞ、けさからは。

② Ploras je; umblika ŝnuro; Jarfino. 旧里(ふるさと)や、臍の緒に泣く、としの暮れ。

③ Ĉu nobelid'? ĉu vulpa feo; printempa? 公達(きんだち)に、狐化けたり、宵の春。

④ Kolz-floro; ornamas kastelon; de Kôrijama. 菜の花の、中に城あり、郡山。

⑤ Anhele; printempon kaptas mi; Ŭaka-plaĝe. 行く春に、和歌の浦にて、追い付きたり。

「唐招提寺の」入った句が見つかりません。だれか教えて下さい。 (福本)

前号（Ｎｏ．９８）のザメンホフ祭の紹介で、中国からの留学生の名前が誤っていました。誤「陳さん」→正「荊さん」。また、コンスタンスさんの和歌山再訪の月が英語の綴りになっていました。誤「1997.oct」→正「1997.okt」。謹んでお詫びします。

最近、遠くの会員（こちらから送りつけているようなものですから、こう呼ぶのも気が引けるのですが）の方から、会費とお便りをいただきました。どうも有り難うございました。原稿も募集していますので、どんな短いものでも結構ですからお送り下さい。機関誌とはいいながら、その役目を十分果たしていないのではないかと申し訳ない思いです。（福本）

１９９８年　５月［編集］福本博次　　Fondita de s-ro Maeda Yonemi en 1980

和歌山　WAKAYAMA　　Majo, Junio　１９９８

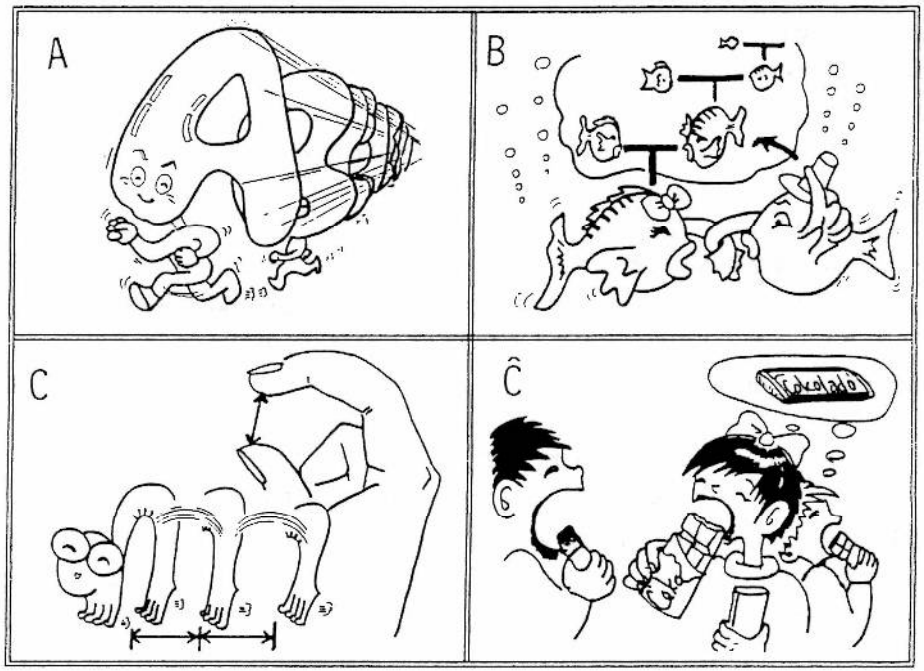
VERDA MONTETO

Redaktita de fukumoto hirotsugu　　(*dumonata*) *N-ro 100*

ABC エスペラントかるた
ESPERANTA LUDOKARTO

文：奥村林蔵
絵：松下享代

A estas la unua litero Esperanta
Bopatro estas la patro de l' edzin'.
Colo estas tre mallonga mezur-unuo.
Ĉokoladon ŝatas ĉiuj infanoj.



UEAの kampanjo 2000 と、地方エスペラント会のめざすもの

--- Memore al la 100-numera eldono de Verda Monteto ---

江川治邦

１９８７年、UEAは SWOT法により、エスペラント界の現状把握のために、その長所、短所を分析した上で、改善と前進のために３つの目標をキャンペーンに取り上げている。１．エスペント界の組織的、思想的水準の向上、２．国際語の威信の向上、３．国際社会への影響力の増大である。　現代社会で＜組織＞といえば、人、物、金、情報、の効率で効果的なオーガナイズのことであり、それは、国際化、多様化、環境保全、市場社会、といった時代変化へのクイックリーな対応を可能たらしめ、自己の生存強化を図るためといえよう。このことは、営利企業だけでなく、現代は、大は国家から、小は文化クラブといえども、目標を持った団体は常に意識した行動を欠くと、衰退をまぬがれない。

最近、地方会で初等講習会を開いても受講生が１０人以上集まらないと嘆く。　２―３人が大半と聞く。この原因について、各種大会の分科会でいくつかの要因をすでに浮き彫りにしているが、私はやはりエスペラント側の広報宣伝力不足が最大のものと考える。昔は、外国からエスペランチストがきた事だけで新聞記事となった。現代はそうではない。その外国人エスペランチストの特異性や、地域社会とのユニークな関係が重要となる。

私は長年、会社でセールスを担当してきた。新商品の販売に当たっては、必ず、イ．類似品と比べて優れた点、ロ．ユーザーに、どれだけ利益がもたらされるのか、ハ．使用実績の提示、を求められる。特に初めてのユーザーにとっては、価格と使用実績が気になるところだ。即ち、商品が如何に優れていても、ユーザーに使用方法の自由度（楽しさ）と全体メリットが容易に見えてこない場合、なかなか増販につながらない。従つて、近年は、業績の向上にあたり、よほどの差別化商品でない限り、商品開発といったハードな部分よりも、用途開発やルート開発といったソフトの部分の方がより重要視される。このことは、コンピューター産業をみれば明白である。換言すれば、エスペラントという新商品の販売も、ハードな面（商品や商品説明）よりも、もっとソフトに力点を置いた戦略の構築と、そこから導き出される実績提示が効果ある広報宣伝に結びつくのではないかと思う。

和歌山県では、毎年、文部省、県教育委員会と和歌山県ユネスコ連絡協議会主催の国際交流活動研修会が県下の国際交流諸団体参加のもとで開催される。多分にイベント的で受信型交流であるが、私は毎年この研修会に参加し、発言もし、諸団体との交流も深めてきた。エスペラントについて説明を求められたとき、私たちの活動は昭和初期より存在し、機関紙を発行し、市政100周年には和歌山市の民話＜和歌山むかしむかし＞を翻訳出版し、和歌山児童合唱団のヨーロッパ公演をエスペランチストのネットワークで実現させ、ベルリンの壁の崩壊後、ロシアの声楽家を招いて県下４都市で、市民との対話形式の演奏会を

開催し、姉妹都市の顔が見える記事を市民に提供出来ればと、ニュース和歌山の協力のもとで、５都市の＜観光＞、＜教育＞、＜結婚＞、をテーマに連載したこと、最近は、春林軒塾再建の機会に、絵本＜華岡青洲＞を、わかやま絵本の会や他の言語グループとタイアップして翻訳出版し、姉妹都市やアジアを中心とした諸外国に贈った等の実績を披露すると、地道で発信型の交流であり、国際理解への貢献に想像以上に寄与しているのではないかと、驚かれる。内容はともかく、地域の関心の高い、最も効果的で、時宜を得た実績作りは最大の説得力を持ちうるし、それだけにＰＲ効果も大きい。＜華岡青洲＞出版のときは、ＮＨＫラジオで１回、和歌山放送で２回、新聞は５紙に報道され、わかやま絵本の会の機関紙（３５０部発行）にも掲載された。また、ニュース和歌山からは、１０月７日付のコラム欄にエスペラント全般について書く機会を与えられた次第である。こんな事もあり、今夏、ビツグホエールで開催の第１回CIOFFアジアこどもフェスティバル in Wakayama には、県から、参加国の教科書展をエスペラント側でアレンジをと、依託された。現在、アジア各国のエスペラント協会を通じ送られつつある。このような状況下で、１昨年に初級通信講座を始めたところ、１５名の受講者があり、終講時には５名が自力で海外文通ができるコメンツァントがうまれ、その内２名が緑丘会に入会している。また、昨年ザメンホフ祭の折り、新聞の＜会の案内＞欄を見たひとから、エスペラントを学びたいと突然の電話を受け、現在、２人が私の通信講座を受講中である。

多様化時代、エスペラントで楽しむことは個々人の自由である。　しかしエスペラントは majoritatoでなく、まだまだminoritatoの世界であることを認識して欲しい。そして、この言葉のすばらしさを感じたひとは、いつまでもeterna komencanto と言い張るのでなく、勉強をし、運動に向かってほしい。実力は運動と共に鍛えられるのである。

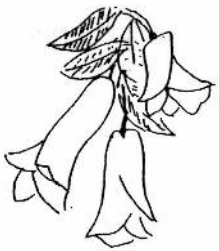
エスペランチストは、一つの言葉で多国の人々と容易に交流できるため、居ながらにして国際人である。しかし私たちの発展を考える場合、＜居ながらの国際人同志＞のburakumado（抱擁）は、私たちの周辺で起こっている国際化現象について無関心にさせ、保守化を招いていないか危惧するものである。日本経済のグローバル化によって、２０数年前から市民の国際化行動がいろんな形で活発化しつつある。私たちはこの現実を直視する必要がある。一つの言葉で、複眼的視野を同時に持てるinterpopolano（地球市民）として長期に育んできた私たちの素晴らしノウハウを彼らに提供し、彼らと共に行動出来るものを提案し、地域社会に貢献して行くエスペランチストの姿勢が市民の日に映るとき、市民権を得たエスペラントが加速するかも知れない。

今夏、南フランスのモンペリエで開催の、第８３回世界エスペラント大会に参加する。大会テーマは＜地中海－－－文化の架け橋＞である。プログラムも多彩だ。晩餐会のフランス料理のメニューも告知されている。プロバンス地方への一日遠足や、半日遠足は、有名美術館や古城、紀元前のローマ時代の旧跡や名所を各国参加者とおしやべりをしながら楽しみたいと思う。私は、妻と二人で、６０日間の手造りヨーロッパの旅をこの機会にと決め込んでいる。途中、和歌山県の姉妹都市ペルピニャンに立ち寄り、ペルピニャンエス

ペラントセンターの同志と交流を深めることになっている。現代、和歌山県の民話の紙芝居や観光スライドを彼らに見ていただくための準備に追われている。歌や、踊りも披露したい。このことは、帰ってから新聞記事で市民にフィードバックするつもりである。

ーコピウエだよりー

第3回　<チリの人々>



私がチリに来る前のラテンアメリカの人たちのイメージは、色々な本によると「人なつっこい」「情熱的」「底抜けに明るく、すぐアミーゴ（友達）になれる」等々だったのですが、ここに来てみての実感は全く違っています。

〃超まじめ〃〃根くら〃（なかなかジョークも通じません）〃おとなしい〃〃忍耐強い〃〃用心深い〃〃頑固〃〃親切〃〃おしゃれ〃といった言葉で表されると思います。ラテンというよりも　ヨーロッパ的な性格といえましょう。

町の中でも日本人のように友達や仲間で集まってワイワイ　ガヤガヤと騒ぐということはありません。レストランやパブの中でも静かにお話をしながら食事をしています。

チリの人たちがワーッと大喜びしているのは、そう、サツカーのナショナルゲームの時や、独立記念日（９月１８日）に、チチャというお酒をのんで、クウエッカを踊っている時くらいでしょうか。

１６世紀からのスペインによる植民地化での先住民支配と移民の時代、次に独立や近隣国との領土所有権をめぐる戦い、近年では国の発展と近代化の中での自由主義、社会主義思想に対する軍部の圧力（チリの軍隊は強大な力を持っています。徴兵制度があり、第１次大戦以来　数ある戦争にも一度も負けていません）という歴史に加えて、相続く地震や天災から何度も立ち上がってきた不屈の精神、また、厳しい天候の変化（一日の天気さえも予測がむつかしいです）にも合わせるたくましさなど、チリの人々の一般的な性格も　この国の風土と歴史に根ざしたものといえましょう。

（楠見悦子）

ベトナム訪問記（その8）　　1996．12　福本博次

ホアルーからはだいぶ遅れてハノイに帰った。この夜はエスペッセン（ハノイ市内に8軒のミニホテルを持っている旅行会社）主催の夕食会であったが、会場に到着したのは予定時間を1時間以上過ぎていた。遠足に行った全員と、エスペッセンの役員、VEAの役員その他が参加する。場所は国際クラブというところで映画館の隣である。きれいなところであるが、入り口にあるダンスホールの音楽がうるさくて、挨拶があったがさっぱり聞こえない。ダン・ディン・ダムさんの詩の朗読もあった。

13日。朝早く空港に行きホーチミンへ飛ぶ。ホテルでしばし休憩の後、クチのトンネルの見学に行く。ここには総延長250KM以上になるトンネルが掘られている。ベトナム戦争の時に、ゲリラの住民が戦うために掘ったもので、その一部が観光用に公園にして、公開されている。観光客が通れるように広げてあるが、元はベトナム人がやっと通れる大きさで、大柄なアメリカ人が通られないように作ってあった。秘密の入り口、空気穴もあり、地下会議室、病室など地下にある部屋もつながっている。地上は大型爆弾の穴があちこちに残っている。ここは観光地になっていて多くのアメリカ人も訪れるそうである。

（エスペッセン主催の夕食会で）

（ホーチミンの戦争証跡博物館の米軍戦車の前で）

ベトナム人の長い長い戦いの跡を直接目にして、あらためて学生時代のベトナム戦争反対のデモのことなどを思い出した。ベトナムでも既に戦後２０年である。戦争を経験しない若者が育っている。歴史を伝えることが重要である。

夜にはホーチミン市在住の、ＶＥＡ副会長 S-ino Le Tuyet Thanh、中央委員の S-ro Tran Quan Ngoc, S-ro Nhiem の３名と出版予定の辞書のことなどについて話し合った。ＵＥＡの援助金が未だ来ないので出版に取りかかれないとのことであった。

１４日。朝は市内で買い物など。午後にはホーチミンの友好協会連合会を表敬訪問した後、戦争証跡博物館を見学する。ここで、ベトナム戦争に反対した由井忠之進の焼身自殺の話になり、館長さんに会えることになった。遺品の展示などをしたいということで、今後ＶＥＡを通じて熊木さんが連絡することになった。この博物館ではベトナム戦争の全貌を写真、武器、資料などで明らかにしている。ベトナム人の３００万人の死者はもとより、遠くまで無意味な人殺しに来たアメリカ人も５８０００人の死者を出した。一体なんのための戦争だったのかと思う。

夜には送別会で沢山の人が集まってくれ、おまけにお土産まで貰ってしまった。夜遅くの便で帰国となったが、空港まで見送りに来てくれた。沢山の新しい出会いでベトナムを身近に感じるようになった。第２回アジア大会には是非とも皆さんにも参加して貰いたいと思う。（完）

「一期一会」再録

Verda Monteto ９７号の田中正美さんの「一期一会」を読者への宿題として読みました。言葉を学ぶ者にとって冥利に尽きるテーマです。重栖度哉さんの「ザメンホフのことわざ」の中から、数字を扱ったものを２点紹介します。

（１）「一石二鳥」

Trafi du celojn per unu ŝtono.

（２）「一か八か」

Trafe aŭ maltrafe.

（１）では数字をそのまま取り込んでいるが、（２）では本意を得た表現で、韻を考慮した配列になっています。

「一期一会」は、日本語のように数字で簡単に訳したいのですが難しい。そこで、私は 以下のようにしました。

◎ Tutkora renkonto eĉ unufoja
　ol senkora renkonto ĉiufoja.

◎ Kiom da renkontoj en rutino,
ne tiom da renkontoj al bela amatino.

◎ Tiel tutkore, kiel unua renkonto
　estus lasta.

以上、読者諸兄のご意見を期待する

（江川治邦）

Terno

MAEDA Y.

Mi estis unusola japano en Postkongresa turisma aŭtobuso. Mi ternis iom tro laŭte kaj impone, kion mia mortinta patro heredigis al mi. En la buso regis subite senzuma silento.

Mi sentis min riproĉita kaj ekparolis:

"Japana proverbo diras ke ...la unua terno signifas, ke iuj laŭdas min. La dua terno signifas, ke iuj malamas min, kaj la tria terno signifas, ke mi estas mal-var-mu-ma !"

Kaj en la buso eksplodis ridego kaj mi estis fiera, ĉar mia mizera Esperanto estas unuafoje komprenita de eksterlandaj esperantistoj !

el GUTO da ROSO la dua

No. 3

誰のどの句の訳句かをあててください。随分変形されていますよ。　奥村林蔵

Falkon mi trovis alte nubo-fende.	鷹ひとつ 見付けてうれし いらご崎	Ranideto! Ne malvenku, mi ĉi tie.
Sen sono. Cikadan ĉirpon roko sorbas.	Eke ĝoje fine morne ĉe Nagara kormoranoj	おもしろうて やがて悲しき 鵜舟かな
Mez-aŭtun'. Kion metias najbaro?	Homa vivo similas roson, sed tamen...	Pura luno. Tutan nokton ĉe lageto.
Ĉe branĉo korbo silentas. Aŭtuno.	枯朶(かれえだ)に 烏のとまりたるや 秋の暮.	Persimono Sonoras eĥe el Hôrjuuĵi

前回掲載した俳句について、元の句をさがしてみました。有名な俳句ばかりですね。

① Maj-pluvo. Sur river-bordo domoj du.　さみだれや、大河を前に、家二軒。

② Sun-radio.　Sanktas folioj.　Juna verdo.　あらたふと、青葉若葉の、日の光。

③ Kolz-kampo.　Luno oriente, suno ŭeste.　菜の花や、月は東に、日は西。

④ Sago-flue en maja pluvo Mogamigaŭa. 五月雨（さみだれ）を、集めて早し、最上川。

⑤ Diagnale kukolo flugas ĉef-urbon.　（未だ見つからず）

最後の句が見つかりません。だれか教えて下さい。　（福本）

♡ 今号、LA MALGRANDA SORĈISTINOはお休みします。　（木 曜 会） ♡